

お來れり 勇者鎧と撰て邸と守るときに其所有安全なり もし之より勇
 者きたりて其勝とさの其恃とせる鎧と奪ひ且贓物と分べし 我と借る
 らざる者の我を叛き我と借る者散らるる者散らるる者散らるる者散らるる者
 たる所とめぐり安と求をも得ずして曰ける我出し家歸らん 已お
 來しお掃淨り飾るるを見 遂お往て己よりも悪き七れ悪鬼を携へ入て此
 お居を其人れ後乃患状の前より更お悪るべし この話と言るとは群集
 中より一婦聲と揚て曰ける爾と孕し腹と爾れ吮し乳の福あり イエ
 ス答ける然されと神れ道を聽て其と守る者の福あり若ぞ 人々擁集
 する時イエス曰ける今れ世の惡し奇跡と求るとも預言者ヨナの奇跡れ
 外お奇跡の予らとせ 蓋ヨナは三日べれ人お奇跡と爲し如く人の子は今
 世お奇跡と爲べし 南方れ女王審判れ日お共お起て今れ世の人の罪と
 斷めん彼の地極よりソロモンは智慧と聽んとて來れり夫ソロモンより
 大ある者ふに在 三日べれ人審判れ日お共お起て今れ世の人の罪と斷

めん彼等のヨナは勸言お因て悔改めより夫ヨナより大ある者ふに在
 燈と燃て隠る處あるひの升れ下おおく者なし入來る者れ其光と見ん爲
 お燭臺れ上お置なり 身れ燈の目あり爾の目瞭るあらを全身あるく其
 目照けれ爾れ身も暗し 故お爾おある光れ暗らぬやう慎めよ もし爾
 れ全身光明にして暗所あるくを燈れ輝きて爾と照と如く全く光明あるべし
 ○ イエス語をるとき或はパリサイ人共に食せん事と請けをば入て食に
 就り 爾れ食する前お洗ふと爲ざりしと見てパリサイ人異めり 主
 むれお曰ける爾曹パリサイ人椀と盤の外と潔と然と爾曹内の貪慾と
 惡おて充り 無知ある者よ外と造し者のまた内とも造ざりし乎 あんぢ
 ら所有物と以て施せ然と爾曹れ爲お凡れ物れ潔をる也 禍ある哉あんぢ
 らパリサイの人よ薄荷茴香および凡れ野菜十分れ一を取納て義と神と愛
 するものと應てを行ふべき事あり彼も亦廢べらざる者あり 禍なる哉
 あんぢらパリサイの人よ會堂れ高座市上の問安と好めり 禍ある哉

爾曹の隠没たる墓に如し其上と行く人々もよきと知る也 ある教法師も
 たへて曰ける師よ此言の我儕とも辱ぢむ イエス曰ける爾曹も禍
 るるある教法師よ任がらざる荷と人負せ自ら指一とも其荷を按ず 禍
 哉あんぢらんの預言者に墓と建らんぢらの先祖の之と殺せり 實に爾曹先
 祖に爲る事よのむ證明と爲り夫をさらの之と殺し爾曹の其墓と建 是
 故に神は智慧の心へる言あり我預言者れよび使徒と彼等お遣さん
 其中に 或者と殺し或者をば窘むべしと 創世より以來ある一凡の預言者に血
 の此代に於て討さんと爲るあり 即ちアベルの血より殿と祭壇に問お殺さ
 きたるザカリヤの血おまで至るを誠にお爾曹も告ん之と此代に討すべし
 なんぢら禍あるるあるな教法師よ知識の論を奪て自ら入らず且入んとする者
 も阻り 此言を語るとき學者とパリサイ人々深く憤恨と含て多端の事
 と詰るけ 口の口より出る言と何事の取へ訴んとして伺ひたり
 第五十二節 路加傳第十二章のとき數萬の人々相踐あふ程お集れりイエス先弟子お曰ける

の爾曹はリサイの人の麪酵と謹めよ是偽善あり 是れ掩れて露をざる者の
 むく隠て知さざる者のありし 是故に爾曹幽暗を語らばよその光明を聞ゆべ
 し密なる室おて耳お附言しよどの屋上お播るべし 我友よ爾曹も告ん身
 體と殺して後お何とも爲能ざる者よ懼るゝ勿を 己を懼べき者よ爾曹に
 示さん殺したる後お地獄お投入る權威と有る者よ懼よ我をよと爾曹お
 告ん之と懼べし 五に雀の二錢おて售お非ずや然るお神お於の其一をも
 忘る給ひす 爾曹は首に髪また皆の予へらる故に懼るゝ勿を爾曹の多に
 雀よりも貴きなり 又己を爾曹お告ん我の人に前お識と言ん者よバ人れ子
 も亦神に使者の前お之と識と言ん 我の人に前お識すと言ん者の神に使
 者れ前お彼も識すと言んべし 凡る人れ子と誇る者の赦さる可きと聖靈
 と裏そ者の赦さる可らず 人あんぢらと會堂まゝ執政および權ある者れ
 前お曳携るを如何にたへ何と言んと思ひ煩ふ勿を 其時お説べき言の聖
 靈あんぢらお示すべし 衆人れ中より一人イエスお曰ける師よ我が

兄弟不遺業と我分よと命たまへ
 曹れ裁判人また物と分り者と爲し
 心と慎めよ夫人の生命の所蓄れ饑あるの因ざる也
 て曰けるの或富人るは田畑よく豊けきを
 藏る所あると如何せん
 又曰けるの我の爲ん我倉を毀ち更お大あると
 建そべて我が作物と貨と其所お藏べし
 斯て靈魂お對ひ靈魂よ多年と過
 やとれ許多れ貨物と有たきを安心して食飲樂めよと言んとす
 然るお神
 ゐをふ曰けるの無知ある者よ今夜あんぢが靈魂とらるるもと有べし然
 を爾れ備し物の誰が有ある乎
 凡る己れ爲お財を積へ神お就て富ざる
 者の此れ如あり
 イエスらの弟子お曰けるの故お我あんぢらお告ん爾曹
 生命れ爲お何と食ひ身體の爲お何と著んとて思ひ煩ふ勿を
 り優り身體の衣よりも優を
 鴉と思見よ稼す穡す倉とも納屋とも有す然
 ども神のるを此等と養ふ況て爾曹の鳥よりも貴さふと幾何ぞや
 爾曹れう

ち誰のよく思ひ煩ひて其生命と寸陰を延得んや
 然を最小事とら能ざる
 よ何ぞ其他と思ひ煩ふや
 百合花の如何して生長のと思へ勞す紡がざる
 也我爾曹よ告んソロモンの榮華れ極れ時だも其裝ふの花れ一お及ざり
 神は今日野お在て明日墟お投入らるる草とも如此よるのせ給へを况
 て爾曹とや吁信仰うそる者よ
 爾曹何と食ひ何と飲んと求むる勿また
 思ひ惑ふも勿を
 凡て是等れ物と世界れ邦人れ求るもれ也あんぢられ
 父の是等れ物れ爾曹お無て叶ぬ事を知
 さ神れ國と求めよ然を是等れ
 物の爾曹お加らるべし
 小を羣よ懼るる勿を爾曹れ父の喜びて國と爾曹
 お予へ給ひん
 爾曹れ所有と售て施し己が爲お常お儲ざる財布すあひち
 盡ざる財寶と天お備よ其處の盜賊も近よらず盡る壞らざる也
 爾曹れ財
 寶れ在とふるおの爾曹れ心も亦ふるお在べし
 爾曹腰お帶し火燈と燃し
 て居
 主人婚筵より歸來を門と叩ば速のよ啓ん爲お彼と待人れ如せよ
 主人きさりて其目と醒し居と見あるを此僕の福あり誠お我あんぢらる告ん

主人ミツのら腰ヲ帯シ僕ト食ヲ就セ前テ之ヲ供事セベ一 或ハ二更ハ
 ひハ三更ハ主人キタリテ然ルセシ見ルニ此僕ハ福アリ 爾曹も悉ク知
 ベ一若シ家ハ主人盜賊イフニ時ハ來ルヲ知ハ其家ト守テ破セズト然
 心爾曹も預ル備セよ不意トキ人ハ子キタラント爲ニあり 一
 けるハ主よ此譬ハ我儕ハ言ハ又ハ凡ハ人ハ言ハ 主ハひけるハ時ハ及テ食
 物ト給與スルニ爲ハ主人ハ爾等ハ上ニ立タル忠義ヲして智キ家宰ハ
 誰ル乎 其主人キタル時ハ是ノ如ク勤ルヲ見ラるハ僕ハ福アリ 我
 夫ハ爾曹ハ告ン其所有ト習ハ督ラすベ一 若シ僕心ハ中ニ我
 主人ハ來ルハ遅ラント思ハ僕婢ト拵ラシ食飲シテ且酒ハ醉ハじめハ
 其僕ハ主人ハおもハざるハ日ハ若ラざるハ時ハ來リテ之ト斬殺シ其報ト不
 信者ト同ラすベシ 僕主人ハ心ト知ハ預備セズ亦それ心ハ從ハる者
 ハ拵ルハ多ク知ハすハ拵ラシ事ヲ作シ者ハ拵ルハ事ハ少ク事ハ多ク手
 多ク手ラるハ者ハ多ク求ラるベシ多ク托ハさバ之ヨリ多ク求ベ一

火ト地ハ投入ン爲ハ來ルニ我ハ欲ム已ハ此火ハ燃タラシ事アリ
 且受ベサレハアテスマアリ其成遂ラるハ迄ハ我痛イハハ有リ乎 我
 ハ安全ト地ハ施ラント來ルニ意ハ我ハ告ン然ラズ反テ分争シム
 今ヨリノチ一家ハ五人ハ三人ハ二人ハ敵對シ二人ハ三人ハ敵對シテ
 分ルベシ 父ハ子ハ子ハ父ハ母ハ母ハ女ハ女ハ母ハ姑ハ其婦ハ婦ハ其姑ハ敵
 對シテ分ルベシ イエスマタ衆人ハ曰ケルハ雲ハ西ヨリ起ルヲ見直ハ
 雨ハふらんと爾曹ハいふ果テ然ラ 南ヨリ風ハ拂ハを暑ララント爾曹ハいふ果テ
 然リ 偽善者ハ天地ハ色象ト別メト知テ此時ト別チ能ハざるハ何ヲヤ
 また何ヲ自ラ公義ト審ザル乎 なんぢ訟ル者ト其有司ハ往ト途申中
 テ心ト盡シテ彼ヨリ釋ハさんハと求メ恐クハ訟ル者ハなんぢト裁判人ハ
 ひハ裁判人ハなんぢヲ下吏ハ付一 下吏ハなんぢト獄ハ入ル 我ハなんぢハ告ン
 一錢モ残ズ償ハふまでハ爾ヲ出ト得ザル也

當時ハ何ヨリた者の中ハピラトガガリヤ人ハ血ト其供物ハ雜

一 事とイエスお告る者あり 二 イエス答て彼等お曰ける之爾曹これガリラ
 ヤ人の是の如く害さし故凡のガリラヤ人よりも益りて罪ある者と意
 ふや 三 我あんぢらお告ん然す爾曹悔改めすバ皆れあじく亡さるべし 四 シ
 ロアムの塔さふきて厭死さし十八人のエルサレムお住る凡れ人々より
 も益りて罪ある者と意ふや 五 是を爾曹お告ん然す爾曹悔改めすバ皆あ
 じく亡さるべし 六 又ふれ譬と云り或人ろれ葡萄園お植れきさる無花果樹
 ありしお來て之お果と求さども得ざりけさバ 七 其園丁お曰ける我三年
 きたまで此無花果樹お果と求さども得ず之と斫され何ぞ徒らお地を塞や
 八 園丁ふたへけるの主よ我ろれ周圍を掘て之お糞するまで今年も容せ 九
 も一果と結さる善もし結すを後お之と斫べし 十 イエス安息日お或會堂
 へて教しふ 十一 十八年鬼お患されたる婦あり區僕て少も伸るふと能ざりき
 十二 イエス之と見てよび婦よ爾の其病より釋さるよと曰て 十三 手と婦お接け
 せ直し伸て神と讚美さり 十四 會堂の宰イエスの安息日お醫したる事と怒

ふたへて衆人お曰けるの事と爲べきれ日六日おを其中お來りて醫さる
 べし安息日お爲さき 十五 主のさお答て曰けるの偽善者よ爾曹おれく 安息
 日おの其牛や驢とさ厩より牽出して水と飲さる乎 十六 況て此婦のア
 ラハム比裔あり十八年サタンお縛らさる其結と安息日お解べらざら
 ん乎 十七 イエス如此いひけきを敵對し者さる慚ぬ又衆人さる其行し慈惠ふ
 とと喜べり 十八 イエスマお曰けるの神の國の何お比へ又あお譬んや 十九 一
 粒の芥種は如し人おをと取て其園又播げ長生て大ある樹とあり天空れ鳥
 ろれ枝よ棲ぬり 二十 又いひけるの我神れ國と何お譬んや 二十一 麩酵の如し婦こ
 きと取て三斗れ粉れ中お納せを盡く發出さるり 〇 二十二 イエス教ほる各城各
 郷と過エルサレム又向て旅行り 二十三 或人いひけるは主よ救る者少き乎
 二十四 イエス彼等お曰けるは窄門お入さめお力と盡せ我あんぢらお告ん入ん
 事と求て能ざる者れはし 二十五 家れ主人おきて門を閉し後お爾曹外おたち門
 と叩て主よ主よ我お啓と曰んお主人おさへて我あんぢらの何處より來し

る知すと曰ん 然る時我儕之爾の前お食飲し爾また我儕の備お致たり
しと言出さんお 主人こたへて我あんぢらに告ん何處より來しお知す皆
惡と爲そ者よ我と去と曰ん 爾曹アブラハムイサクヤコブ及び凡れ預言
者之神の國お在て爾曹の外お投出さるよと見ん時又哀哭切齒するもと有
べし 又た人々西や東北や南より來りて神比國お坐するあらん 爾を後
れ者先又先れ者は後お爲べし 〇 當日あるパリサイ人々來りてイエス
又曰けるいへロテ爾と殺さんとする故お此と離往 答て曰けるい爾曹ゆ
きて其狐お告よ我今日明日惡鬼と逐出し病と醫し第三日に此事とらん
然ども今日明日また次日の我のあらず行へ 蓋預言者のエルサレムれ
外お殺るよもと有ぬ心也 噫エルサレムよエルサレムよ預言者と殺し爾お
遣ささし者と石おて擧る者よ母鷄れ離し翼の下お集むる如く我あんぢれ
赤子と集んと爲しよと幾回や爾曹の欲す 視よ爾曹れ家の墟と爲て遺
さるべし誠お我あんぢらよ告ん主れ名よ託て來る者之福ありと爾曹いと

ん時いたる迄と我と見ざるべし

第十四章 イエス安息日お食事の爲ある幸あるパリサイの人の家お入しよ
人々のをと窺たり 其前よ腹脹と患ひたる人ありしお 〇 イエス應て教
法師とパリサイの人々お曰けるい安息日お醫そ事の宜や否 〇 爾れら默然
たりイエスおれ人と執へ醫して之と去しめ 彼等又答て曰けるい爾曹れ
うち誰の驢あるひい牛あるの阱お陥らんお安息日おの遮るよ曳出さ
る手 彼等おれ言よ就て對ること能ざりた 〇 斯て其席お請をさる人々
れ首席と擇と見てイエス譬と以て彼等又曰けるい あんぢ婚筵お請をん
とれ首席よ坐するも勿き恐くい爾より尊人おぬるをあは 彼と爾と請
し者たりて此人お座と讓をど曰ん然バ爾羞て末座お往べし 是故お爾ま
ぬるをん時往て末座お座せよ請し者來りて友よ首席よ進と爾お言ば同
席れ者の前お爾尊まるべし 凡る自ら高ぶる者之卑を自ら卑だる者之
高くせらるべし 又かをと請る者又曰けるは爾午餐あるひい晚餐と設る

とき朋友兄弟親戚また富る隣れ人と請あるを恐く彼等また爾と請て其
 報答と爲ん 爾筵と爲バ貧乏廢疾跛者替者あを請け 然バ爾福あるべ
 し蓋のまらぬ爾も報あるを能す義き人々れ避らん其時あんぢお報答あを
 也 同お食せる者れ一人あを聞てイエスお曰けるハ神れ國お食せる
 者ハ福あり イエス彼お曰けるハ或人おほいなる筵と設て多賓と請けり
 筵れとき僕と其請たる者お遣して百物はや備たをば來るべしと言せけ
 るお 彼等とも同く辭ぬ其始れ者あを曰けるハ我田地を買とをバ往て
 視ざると得ず願くハ我と允し給へ 又一人の者いひけるハ我五耦の牛と
 買たをバ之と試むる爲お往ん願くハ我と允し給へ 又一人れ者いひけるハ
 我妻と娶たり是故お往ことを得ざる也 其僕へりて此事と主人お告げ
 せバ主人怒て其僕お曰けるハ速にお邑の衢巷お往て貧者廢疾跛者替者あ
 と此お引來を 僕いひけるハ主よ命れ如く行り然と尙あよりれ座あり
 主人僕お曰けるハ道路や藩籬れ邊おもき強て人々と引來り我家お盈し

めよ 我あんぢらお告ん彼まねきたる人々の一人だお我餐と嘗ふ者あし
 ○ 多の人々イエスと偕お行しおイエス顧て彼等お曰けるハ 凡ろ我
 お來てろの父母妻子兄弟姉妹まも己れ生命とも憎む者も非ざるハ我弟子
 と爲ことと得ず 又その十字架と任すして我お従ふ者のハ我弟子と爲こと
 と得ず あんぢら誰の城を築らんお先坐して其費これ事の竣までお足や
 否と計ざらん乎 恐くハ基と置て之と成能すバ見者とも嘲笑て 此人ハ
 築始て成遂ざりしと曰ん また王いで他の王と戦らんお先坐して此一
 萬人をもて彼が二萬人に敵すべきや否と籌ざらん乎 もし及すバ敵なほ
 遠る時又使と遣して和睦と求べし 然バ此れ如く爾曹それ所有と盡く
 捨ざる者のハ我弟子と爲ると得ず 鹽ハ善物ふり然ども鹽るは味と失ハ
 何ともて之お味と和んや 田おも糞おも益あく外お樂らるるあり耳あ
 りて聽る者のハ聽べし

第十五章 さて税吏と罪ある者どもイエスお聽んとて近よりけをバ 二
 百九

1 の人と學者たち議論して曰けるに此人の罪ある人よ接りて共にお食せり
 イエス此譬を彼等と語て曰けるに 爾曹れうち誰の 一百は羊あらんか若
 ろれ一と失ひて九十九と野あれき往て其失ひ羊と獲までい尋ざらん乎
 尋得ば喜て之と己の肩お負 家お歸て其友と其鄰の人々と召集て曰ん我
 と共にお喜べ我うしるへる羊を獲たを也 七 已を爾曹お告ん此れ如く一人
 此罪ある人悔改を悔改むるよ及ぶる九十九は義人よりの尙天お於て喜わ
 らん 八 また婦のうち誰の金銀十枚ともち其一枚と失ひんか燈火と燃て家
 と掃除し之と獲までい切に尋ざらん乎 尋得て其友と其鄰の人々と召集
 て曰ん我と共にお喜べ我うしなへる金銀と獲たを也 十 已を爾曹お告ん此
 此れ如く一人は罪ある人悔改めを神に使の前お喜あるべし 〇 十一 また曰け
 るに或人子二人あり 十二 一の季子父お曰けるに父よ我得べき業と我お分予
 よ父よれ産と彼等お分たをバ 十三 幾日も過ぎるお季子よれ産と盡く集て遠
 國へ旅行せしが放蕩おして其分資と皆ろみおて耗せり 十四 盡く耗しとどき

大なる饑饉るれ地お有て彼とも一く爲のしめけを 十五 往て其地れ一民お
 身を投たり其人豕と牧とめよ彼と野お遣せり 十六 已を豕は食する所は豆莢
 ともて已が腹と果さんと欲ふはとる何とも彼お予る人あし 十七 自ら省悟
 て曰けるに我父れ所お食物あまざる備人れ許多の有に我の飢て死んと
 ぞ 十八 起て我父お往て曰ん父よ我天と爾の前お罪と犯とをを 十九 爾れ子と稱
 るお足ざる者あり爾れ備人の一人は如く我と爲たまへと 二十 即ち起て其父
 お往り尙とほく在しお其父のを見て憫を趨往き其頸と抱て接吻しぬ 二一
 子父お曰けるに父よ我天と爾れ前お罪と犯とをを爾れ子と稱るお足ざる
 也 二三 父の僕等お曰けるに至も美服と携來りて之お衣せ其指お環ととめ其
 足お履と穿せよ 二四 また肥とる積と牽來りて宰を我儕食して樂まん 二五 是已
 子死て復生しあひて復得とをバ也とて彼等と共にお樂と始む 二六 子れ兄田
 お在しが歸て家お近き樂と舞は音と聞 二七 子れ僕れ一人と召ては何事や
 と問るお 二八 僕曰けるに爾れ弟歸りたり恙なく彼と得たりしお因て爾が父肥

たる贖と宰とるあり 兄いりて入す是故其父いで彼を勸しめ
 父は答て曰けるハ我多年なんぢ小事て未だ爾れ命を背す然ども我友と樂
 む爲よ羔ども予し事あり 然も奴の爲小爾れ業と耗したる此あんぢの子
 のへきバ之が爲小肥たる贖と宰より 父のを曰けるは子よ爾は常小我
 と共小在また我所有は皆あんぢれ屬あり 爾の弟死て復生うしあひて復
 得たるが故小我儕喜て樂むは當然れ事あり

第二十六節 イエス又は弟子に曰けるハ或富る人小操會者ありけるが主れ
 所有と耗しと主人へ訴らる 主人操會者と呼て曰けるハ爾お就て我
 とする事の何や今後あんぢを操會者と爲えざるハ其會計たる條件と我
 小辨よ 操會者ぞづから意るハ主人とが操會と奪を何と爲ん我勤と執
 小ハ力あく施と乞ハ耻のしと 是を操會と奪せん時ハ是等の家小迎らる
 べき所爲と知りとて 遂小主人ハ負債人と悉く召て其首れ者小曰けるハ
 爾わが主小負債小あやどある乎 答ていふ油百斗あり彼小曰けるハ爾

れ券書と取ゆるぎ坐して五十と書よ 又一人小曰けるハ爾れ負債幾何あ
 るや答ていふ小麦百斛あり彼小曰けるハ爾れ券書と取て八十と書よ 主
 人ハの所爲れ巧ある小因て此不義なる操會者と譽たり夫ハの世れ子輩ハ
 此世小於ハ光れ子輩よりも尤も巧あり 我あんぢら小告ん不義れ財と以
 て己が友と得よ此ハ乏のらん時かきら爾と永遠宅小接んぶ爲あり 小事
 小忠き者ハ大事小も忠く小事小忠のらざる者ハ大事小も忠のらざる 故小
 若あんぢら不義れ財小忠のらざる誰の眞の財を爾曹小託んや 爾曹もし
 人ハ所有小不義あらバ誰の爾の所有と爾小與んや 一人ハ僕ハ二人の主
 人小事するもと能す蓋と惡のれと愛し或ハ此と重んじ彼を輕んずきバ
 也あんぢら神と財小兼事するもと能す 愆ふのさバリサイの人々此事と聞
 てイエスと嘲哂たり イエス彼等小曰けるハ爾曹ハ人々れ前小自己と義
 とする者あり然ども神ハ爾曹の心と知り夫人ハ崇ぶ所の者ハ神れ前も惡
 ると者あり 律法と預言者のマハチよであり其れも神の國ハ宣傳らる皆用

力て之ふ入んと爲あり 天地は廢るの律法の一畫は廢るよりも易し 凡
 る其妻と出して他れ者と娶バ 姦淫と行ふ也 また夫お出さきたる婦と娶る
 者も姦淫と行ふあり ○ 爰お富る人あり 紫袍と細布と衣て日々奢樂めり
 亦ラザロと云る貧者あり 甚く腫物と患て富る人れ門お置き 其案より
 落る餘屑おて養はきんと欲へり 又犬きたりて其腫物と舐 貧者死たきバ天
 使者たちお依てアブラハムの懷お送きたり 富る人も死て葬らきしが 陰
 府おて痛苦と受け其目とわけ遙おアブラハムと其懷お在ラザロと見て
 喊叫いひけるの父アブラハムよ我を憐ミラザロと遣して其指は尖を水に
 蘸おが舌と涼め給へ我の火燄は中お苦めばあり アブラハム曰ける
 の子よ爾の生たりし時お爾の福と受またラザロの其苦と受しと憶へ今
 れの慰らき爾の苦めらるゝあり 斯耳あらず此より爾曹お涉んとするとも
 得ず彼より我儕お涉んとするとも亦えざる爲お我儕と爾曹とれ間お限た
 るをたる巨ある淵あり 答けるの然バ父よ願くの我父は家へラザロと遣

たまへ 蓋おきお五人の兄弟あり 亦あるが此苦は所お來ざる爲おラザ
 ロと證據お爲まめよ アブラハム曰けるの彼等おとモーセと預言者おを
 バ之お聽べし 答けるの然す父アブラハムよもし死より彼等お往者おら
 ば悔改べし アブラハム曰けるの若モーセと預言者お聽ずバ縱ひ死より
 甦る者ありとも其勸と受ざるべし

第十七章 イエス弟子お曰けるを蹟さるゝ事おあらず來らん 其と來らず者
 の禍ある哉 みの小子け一人を蹟するよりの磨石と頸お懸らきて海お投入ら
 きんもど其人は爲又宜るべ也 自らと謹慎よ若兄弟あんち又罪と犯さむ
 之と諫よ彼も悔を免せ 四 もし一日又七次罪と爾お犯して一日お七次
 あんち又對を悔と曰バ免すべし ○ 使徒主お曰けるは我儕又信と益せ
 よ 主いひけるの爾曹もし芥種一粒はとれ信あらば此桑樹又拔て海に植
 きと曰ども爾曹お従ふべし 誰の爾曹の中お或の耕し或の畜と牧僕あらんお彼
 田より歸たる時亟のお往て食又就といふ者あらん乎 反て曰ずや我食と備

及が食飲^{くわん}の^{あひ}る^ままで^帯と束^{しよ}とせ^お事^つて^の後^のなんぢ^の食飲^{くわん}す^べし^と 僕^わ主人^{しゆじん}は
 命^{いのち}ぜし^事お^從へ^をと^て主^{しゆじん}人^のを^お謝^{あやま}さ^べき^の然^{しか}じ^と我^{われ}の^意り^の 斯^{かく}も^亦あ
 る^ぢら^命ぜ^らる^を事^{こと}と^みる^行た^る時^{とき}も^我儕^{われら}の^無益^{むいやく}の^僕あ^すべ^き事^{こと}と^行た
 る^{あり}と^謂ふ^に ○ イ^エス^エル^サレ^ムも^往と^きサ^マリ^アと^ガリ^ラヤ^レ中^{ちゆう}と^經
 十二 あり^る村^{むら}も^入り^とき^十人^には^癩者^{らいしや}あり^て彼^{かれ}も^あひ^遙お^立て^聲と^揚い^ひけ
 十三 する^の 師^しイ^エス^よ我^{われ}儕^らと^矜恤^{あはれ}た^まへ 十四 イ^エス^之と^見て^曰ける^に往^ゆて^己と
 祭^{さい}司^しも^見せ^よ彼^{かれ}等^らゆ^く問^とお^潔ら^さり 十五 ち^は一^人己^が醫^いさ^さる^と見^て
 返^{かへ}り^大聲^{こゑ}お^神と^榮め 十六 イ^エス^は足^あ下^{もと}に^俯伏^{ふせ}て^謝せ^り彼^{かれ}は^サマ^リア^人あ
 十七 り イ^エス^答て^曰ける^に潔^{きよ}ら^さし^者と^十人^には^非や^其九^人は^何處^{いづ}か^に在^る
 みの^異邦^{いほう}人^は外^{ほか}お^神お^榮と^歸せ^んと^て返^{かへ}り^者あ^らざる^手 十九 ま^も彼^{かれ}に^曰
 ける^に起^たて^往あ^んぢ^は信^{しん}仰^{やう}あ^んぢ^と救^すけ^り 二十 神^{かみ}は^國の^何れ^時き^さる^手と^パ
 三十一 リ^サイ^の人^も問^をけ^きを^イエ^ス答^て曰^{ける}に^神の^國の^顯を^て來^るもの^も非^ず
 三十二 此^こお^視よ^彼お^視よ^と人^の言^いべ^き者^も非^ず夫^そ神^{かみ}の^國は^爾曹^{にんそう}の^衷も^在

また^弟子^{ていし}お^曰ける^に爾^{なん}曹^{らう}人^の子^こは^一日^{いちにち}と^見と^く欲^たふ^日き^さら^ん然^{しか}ども^見
 ざる^べあ 三十三 人^々あ^んぢ^ら母^は此^こお^見よ^彼お^見よ^と曰^はん^然ども^往あ^るを^從ふ
 勿^なき 三十四 ろ^を電^{でん}光^{くわう}の^天の^彼處^{あつた}よ^閃き^天乃^{こゝ}此^{こゝ}處^たも^光が^如く^人は^子も^其曰^ひお
 如此^{かく}ある^べし 三十五 然^{しか}ども^人の^子あ^らず^先お^ほく^は苦^くと^受ま^さ此^こ世^よの^人に^乘
 三十三 ら^をん ノ^アの^時も^有り^如く^人の^子の^時も^然ある^べし 即^すち^ノア^方舟^{はうふね}
 三十四 入^いり^日まで^衆人^{しゆじん}食^{くわん}飲^{あひ}嫁^{よめ}娶^むを^爲さ^りし^が洪^{こう}水^{すい}きた^りて^彼等^らと^滅せ^り
 三十五 又^{また}ロ^トの^時も^如此^{かく}あり^き衆^{しゆじん}人^食飲^{くわんあひ}貿^{あう}易^{やく}樹^{じゆ}構^{かう}造^{ぞう}を^爲さ^りし^ふ ロ^ト
 三十六 ン^ドム^{より}出^いで^日天^{てん}より^火と^硫磺^{りゆうわう}と^雨せて^彼等^らと^を滅^ほせ^り 三十七 人^の子^の
 三十八 顯^あら^る日^ひも^亦り^く有^ある^べし 其^この^日も^人屋^{いへ}上^{うへ}に^在る^其器^{うつは}具^ぐ室^{むろ}も^在る^も之^{これ}
 三十九 と^取ん^どて^下あ^かき^亦田^た畑^{はた}も^ある^者も^同く^歸な^るを 四十 ロ^トは^妻と^憶へ
 四十一 凡^{おほ}ろ^其生^{いのち}命^{めい}と^救ん^どす^る者^{もの}之^{これ}と^失ひ^若ろ^の生^{いのち}命^{めい}と^失ひ^ん者^{もの}之^{これ}と^存べ
 四十二 一^い我^{われ}あ^んぢ^らお^告ん^其夜^よふ^{たり}同^{どう}床^{とど}も^在ん^か一^い人^の執^とを^一人^の遺^{のこ}さ^るべ
 四十三 一^い二人^の婦^{めかけ}も^お磨^うひ^き居^ゐん^か一^い人^の執^とを^一人^の遺^{のこ}さ^るべし 四十四 ち^をら

答て曰けるの主よ此事何處いづこ有あや彼等かれら又曰けるの屍あはれれ在あるとあるふの塵ちりわ
りまらん

第十八章 イエスマた人れ恒つね祈いのり禱をして沮喪しやうそまじき爲ため又譬たとへと彼等かれらお語かたけ
るの 或ある邑まちお神かみと畏おそす人ひとと敬うやまとざる裁判人さいばんにんありけるの 其ま邑まちお婆婦おばあありて
我われと我仇われあより救すくたまへと曰いて彼かれお至いたり 四 色の久ひさく肯うけとざりしを其かれれ
ち心こころれ中なかお思おもけるの我神われかみと畏おそす人ひととも敬うやまのざきを 五 此この婆おばの色いろと煩わづらせは彼
が絶たえず來きたて我われと話かたさる爲ためお之これと救すくとん 六 主まいひけるの不義ふぎある裁判人
の言いし事ことと聽きて 況なほて神かみと晝夜ちや祈いのりする所の選えらぶる者ものと久ひさく忍しのぶとも終つひお救すくざら
んや 八 我われあんぢらお告つげん神かみの速すみお彼等かれらと救すくとん然しかど人の子こきたらんとさ
信たと世よお見みんや 九 又またまばら義ぎと意いひ人ひとと輕かろむる或人あるひとおイエス此譬このたとへと
語かたをり 十 二人ふたり祈いのりんとて殿どのお登のぼりしが其一人ひとりのバパリサイの一人ひとりの稅吏ぜいしあ
りき 十一 巴パリサイ人ひとたちて自みづから如此かくいの色いろり神かみよ我われの他ほかれ人の如ごとく強索きやうさく
不義ふぎ姦淫かんいんせず亦またふれ稅吏ぜいしの如ごとくも有あると謝あやま 十二 色いろ七なな日間ひとまはりお二次斷ふたたび

食たし又またとべて獲ともれ十分じふぶんれ一いちと獻さぐり 十三 稅吏ぜいしの違ちがひ立たて天てんとも仰あやぎ見み
ず其胸むねと拊たて神かみよ罪人ざいじんある我われと憐あはれと給たまへと曰いり 十四 我われあんぢらお告つげん此人このひとの
彼人かれひとよりの義ぎと爲なきて家いえお歸かへり夫それすべて自己みづからと高たかまる者ものの卑ひらと自己みづから
卑ひす者ものの高たかまるべし 十五 イエスお接からをんがとめ人ひと々ごとく嬰孩えんがいと携つれ來きたりしお
弟子でしたち見みて之これと責せたり 十六 イエス嬰孩えんがいとよび弟子でしお曰いけるの嬰孩えんがいと我われお
來きたせよ彼等かれらと禁いむる勿なきを神かみれ國くにお居ゐる者ものの是かくれ如ごとき者ものあり 十七 誠まことお爾曹なんぢらお告つげん
凡たゞる嬰孩えんがいれ如ごとく神かみれ國くにと承うけざる者ものの之これお入いれと得えざる也 十八 或ある宰さとふ
て曰いけるの善師ぜんしよ 永生えいせいと嗣ついでとめ我われおと行ゆべき手て 十九 イエス彼かれお曰いけ
るの何なにぞ我われと善よと稱いふや一ひとれ外ほかお善者ぜんしやのなし即すなはち神かみあり 二十 誠まことの爾なんぢが知しとあ
るなり姦淫かんいんする勿なきを殺ころするを竊ぬするかを妄いつはりと立たる勿なきを爾なんぢれ父ちちと母ははとと
敬うやまへ 三 答こたへけるの是これとみ我幼わがこころより守まもる者ものなり 三 イエス之これと聞きて曰いけるの
爾なんぢお一ひとつ虧くるれ所有しよゆと悉ことごとく售うて貧者びんしやお施たませ然しかる天てんお於おて財たからあらん而しかし
て來きたり我われお從したがへ 三 色の大たいお富とみる者ものありしを之これと聞きて甚いたく憂うれへり 三 一

ス。是れ甚く愛しと見て曰ける。富る者れ神の國に入る。如何か難ある。富る者れ神の國に入るより駱駝の針の孔と穿は却て易し。之と聞る者ども曰ける。然らば誰の救を受べき乎。イエス曰ける。人れ爲得ざる所の神れ爲得ざる也。ペテロ曰ける。我儕一切と捨て爾に從へり。イエス彼等曰ける。誠か爾曹告ん凡る神れ國れ爲家あるひの父母あるひの兄弟あるひの妻あるひの兒女と捨る者の。今世めて幾倍をうけ來世の永生と受ざる者あし。○ イエス十二は弟子と携ひて之曰ける。我儕エルサレムの上る人れ子お就て預言者の録さとし事のさる應らるべし。夫人れ子の異邦人お解さを戲弄凌辱らるを唾せらるべし。且のさら鞭撲て之と殺さん。又第三日お甦るべし。弟子みれ語を少し違ず亦みれ言る事のさらし隠たり亦るれ語をる言と知ざりき。○ イエスエリコお近よまる時ある警者道の旁お坐して乞はりしが。大衆れ過と聞て此の何事すと曰ける。人々ナザレれイエスれ過ありと告。警者よばより曰ける。マビデれ裔イ

エス。我と矜恤たまへ。前だち行者ども黙止と之と斥きども愈マビデの裔。我を矜恤たまへと呼はり。イエス立止り彼と携來と命す警者ちのよりける。バ。イエス彼又問ける。爾とさお何と爲さんと欲ふや答ける。主よ見あん事と欲ふ。イエス彼お曰ける。見んとを受よ。爾れ信あんぢと救へり。彼やがて見れ神と榮てイエスお從ひぬ。民とみ之と見て神と讚美たり。

第十九章

イエスエリコお入て經行とき。ザアカイと云る人あり。稅吏の長おて

富る者あり。イエスは如何ある人あるの。見んと欲ども身量ひくけき。バ。大衆あるお因て見みと得ず。彼と見んとて趨ゆき桑樹お升きり。イエス。是れ道と過んどそる故あり。イエス。此お來り仰て彼と見いひける。ザアカイよ速ぎ下を我今日りあらず。爾の家お宿らん。彼いそぎ下り喜て。イエスと迎さり。衆人みきと見て。怨言いひける。彼の往て罪ある人の客と爲る。ザアカイ起て。主よ。我所有れ半と貧者よ施さん。若とを認認て。人より収た

る所あらば四倍よして之と償のふべし。イエス彼曰けるは今日みれ家
 そくくるよふこと得たり蓋ふの人もアブラハムに裔るる也。子
 子の喪ひし者尋て救ん爲來り。衆人みれ言と聞る時まを譬と設て
 曰り此のエルサレム近のつ衆人神に國たごち顯明るべしと意が故あり
 十二 ある貴者をつら領地と受て歸んじて遠國へ往とき。十人れ僕を召て
 彼等も金十斤と予て曰ける。我來まで商賣せよ。その國民の色と憾て後
 より使と遣し曰ける。我儕みれ人と王とそる事と欲す。領地と受て歸し
 時かのく商賣して幾何の利と得るると知んとて金と予おきさる僕等
 と召と命じぬ。初れ一人きたりて曰ける。主よ爾れ一斤と十斤の利と得
 たり。主人いひける。愈善僕よ爾は小者お思あれば十斤と宰とるべし
 十三 まゝ次れ一人きたりて曰ける。主よ爾れ一斤の五斤の利と得たり。主
 人いひける。爾も五斤と宰とるべし。また一人きたりて曰ける。主よ
 爾の一斤の此お在るを手巾お裏て藏置たりき。蓋あんど嚴人あるが故お

我おそきとり爾置ざる者とり播ざる者とかる人あきばあり。主人いひ
 ける。悪僕よ我あんど口の口お因て爾を轄べし。爾と色の嚴者おて置ざる者
 と取まらざる者と稜と知。然お何ぞ我來るとき本と利と得んが爲お我金
 と免錢肆お預ざりや。遂お傍お立る者お曰ける。此人れ一斤を取て十
 斤有る者に予よ。衆人主人よ曰ける。主よ其人すでお十斤と有り。主人
 いひける。我あんどら告ん夫有者の予らと不有者の其所有ものまでも
 取るべし。且わが敵すあうち我支配と欲ざる者。此お曳來りて我前お誅
 せ。イエス此事と言しれち衆人お先だちてエルサレムお上り。橄欖と
 名る山お靠るベツパゲとベタニヤお近づける時。弟子二人と遣さんと
 て曰けるは。對面の村よゆけ彼處お入る人の未だ乗ざる所の繫たる驢駒
 お遇べし。其と解て牽來。もし誰の爾曹お何ゆゑ解やと問者あらば如此
 みたふべし。主れ用あり。遣さるる者往け。果て其語たまへる如く遇
 め。爾を解とき其主等のきらに何ぞ驢駒と解やと曰し。答

て主れ用ありと曰て 之とイエスお牽來り己が衣と驢駒お置イエスと其上お乘 一三六 イエス往けるとき衆人るれ衣と路上お布り 一三七 イエスエルサレムお近ざき橄欖山と下らんとする時大衆れ弟子と喜び其見し所れ奇跡ある凡れ能お囚て大聲お神と讚て曰けること 一三八 主れ名お託て來る王の福あり天お於ての和平お至上所おの榮光あるべし 一三九 大衆の中より或バリスアイの人イエスお曰けるの師よ爾れ弟子と責めよ 彼等お答けると我あんぢらお告ん此輩も黙止るバ石號呼べし 一四〇 既お近ざけるとき城中と見て之お爲お哭いひけるの 一四一 もし爾だにも今おれ爾乃口お於て爾れ平安お開る事と知を福あるお今あんぢの目お隠たり 爾れ敵あんぢの周邊よ疊と築き四方より圍攻 爾と其中ある兒女と擲滅し石と石の上お遺ざる日きたらん是あんぢ其眷顧さまふれ時と知ざさバ也 一四五 イエス殿お入るれ中おて賀易せる者を逐出し 彼等お曰けるの我室の祈禱れ殿ありと録さきたるお爾曹ふきと盜の巢と爲り 一四七 イエス日々お殿おて教ふ祭司は長學者民れ尊

者ども彼と殺んと謀ども民とあ心と傾けて其教と聽るが故お 爲べき方と知ざりき

第一一四 一日イエス殿おて民と教へ福音と宣しお祭司は長學者長老共よ近よりイエスお語て曰けるの 何れ權威と以て此事と行の誰おれ權威を手にたるの我儕お告よ 答て曰けるの我も一言あんぢらお問ん且お色に告よ 一四九 子れバアテスマの天よりの人よりお 彼等たがひお曰けるの若天よりと云を然を何故のきと信ぜざる乎と曰ん 一五〇 もし人よりと云を民とあヨハ子と預言者と信ずきを我儕と石よて擲んとて 逐お答て笑よりあるの知ざと曰り 一五一 イエス彼等お曰けるの我も亦あおれ權威と以て之と行ると爾曹お告じ 一五二 即ち此醫と民お語をり或人葡萄園とつくり農夫お租與て久しく他國へ往し 一期いさりけきを葡萄園れ果と受収ん爲お僕と農夫れ所お遣しけるお農夫等おみ色を撲た、きて徒く返せたり 一五三 また他は僕と遣しとみ之とも撲た、き辱あめて徒く返せたり 一五四 又三次僕と遣し

ある之とも傷けて逐出いけれを 葡萄園は主曰けるは我々の爲ん我愛子
 と遣とべー之と見を恭敬あらん 農夫ども之と見て互に議いひける之此
 は嗣子あり率るを殺さん業は我儕は所有ある可とて 彼と葡萄園は
 外お出して殺せり然を葡萄園は主いのお彼等と處べき乎 かを來て此農
 夫等と滅し葡萄園と他人お託べ志人々もよと聞て曰ける然は有ざれ
 イエス彼等と見て曰けるは匠人は棄る石是こる屋隅は首石とあるを録
 ささし何ぞや 此石は上に墮るもれい壞ふれ石上お墮るを其もの碎る
 べし 祭司は長學者等それ己と指て此譬を語ると知ふれ時イエスと
 執へんと爲しるども民と畏たり 即ち之と親ひるれ言と取て方伯は政事
 は權威お解さんとして自ら義人と偽る 問者と遣せり就てイエスお問
 ける師よ我儕あんちれ言とある教るところ正くの何偏らず誠と以て神
 之道と教ると知 是をら税とカイザルお納るの宜や否 イエスるれ詭譎
 あると知て曰ける何ぞ我と試るや テナリと我又見せよ此像と號は誰

あるる答てカイザルありと曰 イエス曰ける然バカイザルは物のカイ
 ザルよ納め神は物は神お納よ 是をら民は前お其言と執得す且るれ答と
 奇と意で黙然たり ○ 甦る事ありと言サドカイは人きりてイエスお問
 けるは 師よモーセ我儕お書遺の若人れ兄弟妻あり子あく有て死を兄弟
 その妻と娶り子と生て其嗣と繼すべしと 然を七人の兄弟あらんよ長子
 妻と娶り子あくして死 第二れ者これ婦を娶り子あくして死 第三も之
 と娶り七人同く之と娶り子あくして死 終よ婦も死たり 然を七人ども
 お此婦と妻とせし故お甦りある時は誰の妻と爲べき乎 イエス答て曰け
 る此世の子の娶嫁あり 彼世お入り死より復生お足もれい娶嫁あり
 ども 是また死るもと能ざるが故あり蓋天は使と伴く復生れ子おて神
 の子ある也 さて死し者れ甦るもとお就てのモーセ棘中は篇お主とア
 ブラハムの神イサシの神ヤコブは神と稱て之と明白せり 是を神と死お
 る者れ神お非ず生る者れ神あり蓋神の前おは皆生る者な色バ也 是乃學

者等もあへ曰けるは師よ善いへり 此れち取てイエスも問者ありき ○
 イエス彼等も曰けるハ人々如何あるべきキリストとマビデは裔と言や
 マビデ自ら詩の篇も主とが主も曰けるハ我あんぢは敵と爾は足発と爲ま
 で我が右も坐せしと云り 然もマビデ之と主と稱さるを如何で其裔
 あらん乎 民みあ之と聽る時それ弟子いひけるハ 長服と衣て遊行ふ
 とと好と市上あて人ハ問安會堂ハ高坐筵間ハ上座と喜ぶ學者と慎めよ
 彼等ハ藝婦ハ家と吞いつとりて長所とあるを罪せらるゝと尤も重し

第二十一節 イエス目とあげ富る人々ハ捐輸と賽銭箱も投ると見る 又ある貧
 き藝婦ハレブタ二と投たると見て曰けるハ 是を誠も爾曹も告ん此貧き藝ハ
 衆ハ者よりも多く投たり 蓋もきらハ皆るハ羨餘ある所より捐輸と神ハ
 さづけ此婦ハ不足とてころより其所有と盡く獻たれば也 ○ また或人殿ハ
 美石と奉納物と以て修飾るふこと語しハ イエス曰けるハ 爾曹ハ見る所
 此もの石と石ハ上も遺す祀さるゝ日いたらん 彼等とふて曰けるハ師

よ何れ時ハ此事あらん正ハ此ハ邪ハ來らん時ハ如何ある乎 イエ
 ス曰けるハ 爾曹つゝしめて感さるゝ事あるを蓋もかくれ者ハ名と冒き
 たり我ハキリストあり時ハ近よをり云ん然も爾曹從ふ勿き 戰亂と
 聞とき懼るゝ勿き此等ハ事ハ先ハ有ハ止と得ざるふと也然も末期ハ未だ速
 あらず 又いひけるハ 民ハ民とせめ國ハ國と攻 各處ハ大ある地震饑饉
 疫病あり且もそるべき事と大ある休徵天より現るべし 此事より先ハ人
 々爾曹と執へ苦め會堂もよび獄も解ハ我名ハ爲ハ王もよび侯ハ前ハ曳往
 べし 然も爾曹ハ此事ハ遭ハ證と爲あり 故ハ爾曹まづ何と對んと思
 慮まじき事と心ハ定よ 蓋もべて爾曹ハ仇をる者ハ辨駁また敵對ふと
 爲えざるべき口と智と我あんぢらハ中ある者ハ殺さるべし 爾曹ハ名ハ爲
 朋友等より解さる且もあんぢらハ中ある者ハ殺さるべし 爾曹ハ名ハ爲
 人々ハ憾をん 然も爾曹ハ首髮一縷も喪ハ あんぢらハ忍耐て其生
 命と全らせよ なんぢら軍勢ハエルサレムハ圍ると見ハ其亡ちる

21 又在^二知^三ろの時^四ニダヤ^五在^六者^七の山^八に逃^九よエルサレム^{一〇}に在^{一一}者^{一二}の出^{一三}よ郷下^{一四}
 22 在^{一五}者^{一六}のエルサレム^{一七}に入^{一八}るを^{一九}三^{二〇}みを刑^{二一}罰^{二二}れ日^{二三}おいて録^{二四}さる事^{二五}れと
 23 應^{二六}らる^{二七}日^{二八}あり^{二九}其^{三〇}日^{三一}おの孕^{三二}たる者^{三三}と哺^{三四}乳^{三五}兒^{三六}ある者^{三七}の禍^{三八}ある哉^{三九}みは地^{四〇}
 24 又大^{四一}ある災^{四二}ありて怒^{四三}みは民^{四四}あ及^{四五}べけむ也^{四六}人^{四七}々^{四八}刀^{四九}刃^{五〇}お斃^{五一}れ且^{五二}どら^{五三}んを
 25 諸^{五四}國^{五五}お曳^{五六}きエルサレム^{五七}の異^{五八}邦^{五九}人^{六〇}は時^{六一}満^{六二}るまで^{六三}の異^{六四}邦^{六五}人^{六六}又^{六七}蹂^{六八}躪^{六九}さるべし
 26 且^{七〇}日月^{七一}星^{七二}又^{七三}異^{七四}象^{七五}あるべし地^{七六}おて^{七七}の諸^{七八}國^{七九}は人^{八〇}哀^{八一}と海^{八二}と波^{八三}とれ沸^{八四}沸^{八五}お因^{八六}
 27 て顛^{八七}沛^{八八}人^{八九}々^{九〇}危^{九一}懼^{九二}ゆ^{九三}世界^{九四}お來^{九五}んとそる事^{九六}と俟^{九七}惱^{九八}むべし是^{九九}天^{一〇〇}は勢^{一〇一}ひ震^{一〇二}動^{一〇三}
 28 すべけむ也^{一〇四}ろは時^{一〇五}人^{一〇六}々^{一〇七}の^{一〇八}人^{一〇九}は子^{一一〇}は權^{一一一}威^{一一二}と大^{一一三}ある榮^{一一四}光^{一一五}と以^{一一六}て雲^{一一七}お乘^{一一八}來^{一一九}
 29 ると見^{一二〇}るべし此^{一二一}等^{一二二}は事^{一二三}は成^{一二四}初^{一二五}ん時^{一二六}おの起^{一二七}て爾^{一二八}曹^{一二九}は首^{一三〇}と翹^{一三一}よ蓋^{一三二}あんぢら
 30 ば賤^{一三三}ちるづけば也^{一三四}イエス^{一三五}譬^{一三六}と彼^{一三七}等^{一三八}お語^{一三九}けるの無^{一四〇}花^{一四一}果^{一四二}と凡^{一四三}は樹^{一四四}と見^{一四五}よ
 31 既^{一四六}お萌^{一四七}を爾^{一四八}曹^{一四九}みと見^{一五〇}て自^{一五一}ら夏^{一五二}のとや近^{一五三}と知^{一五四}此^{一五五}は如^{一五六}く爾^{一五七}曹^{一五八}も此^{一五九}等^{一六〇}の事^{一六一}
 32 成^{一六二}と見^{一六三}ば神^{一六四}の國^{一六五}は近^{一六六}と知^{一六七}誠^{一六八}お我^{一六九}なんぢら^{一七〇}お告^{一七一}ん此^{一七二}事^{一七三}と成^{一七四}まで^{一七五}の此^{一七六}世^{一七七}
 33 の逝^{一七八}ざるべし天地^{一七九}の廢^{一八〇}るべし然^{一八一}ども我^{一八二}言^{一八三}は廢^{一八四}る可^{一八五}らず爾^{一八六}曹^{一八七}みだ^{一八八}ら

34 慎^{一八九}よ恐^{二〇〇}くの飲^{二〇一}食^{二〇二}お耽^{二〇三}り世^{二〇四}事^{二〇五}お累^{二〇六}き爾^{二〇七}曹^{二〇八}は心^{二〇九}昏^{二一〇}迷^{二一一}ありて慮^{二一二}よらざる時^{二一三}お此
 35 日^{二一四}あんぢら^{二一五}お臨^{二一六}ん^{二一七}こを機^{二一八}檻^{二一九}は如^{二二〇}く遍^{二二一}く地^{二二二}は上^{二二三}お居^{二二四}者^{二二五}お臨^{二二六}むべし是^{二二七}故^{二二八}
 36 爾^{二二九}曹^{二三〇}傲^{二三一}醒^{二三二}て此^{二三三}臨^{二三四}んとそる凡^{二三五}の事^{二三六}と避^{二三七}ま^{二三八}人の子^{二三九}は前^{二四〇}お立^{二四一}得^{二四二}やうお常^{二四三}お
 37 祈^{二四四}を^{二四五}イエス^{二四六}晝^{二四七}の殿^{二四八}おて教^{二四九}へ夜^{二五〇}の出^{二五一}て橄^{二五二}欖^{二五三}と云^{二五四}る山^{二五五}お宿^{二五六}ぬ^{二五七}民^{二五八}とる彼^{二五九}お
 38 聽^{二六〇}んとて朝^{二六一}はやく殿^{二六二}お來^{二六三}きり

第二十三章 逾^{二六四}越^{二六五}と云^{二六六}る除^{二六七}酵^{二六八}節^{二六九}ちるづけり^{二七〇}祭^{二七一}司^{二七二}は長^{二七三}學^{二七四}者^{二七五}たち如何^{二七六}して
 39 ちるイエス^{二七七}と殺^{二七八}せんと窺^{二七九}ふ但^{二八〇}民^{二八一}と畏^{二八二}たり^{二八三}倍^{二八四}サタン^{二八五}十二^{二八六}の中^{二八七}はイス^{二八八}カリ^{二八九}オ
 40 テと稱^{二九〇}るユダ^{二九一}お入^{二九二}ぬ^{二九三}かを祭^{二九四}司^{二九五}は長^{二九六}だちと殿^{二九七}司^{二九八}等^{二九九}お往^{三〇〇}如何^{三〇一}してかイエス
 41 と付^{三〇二}さんと語^{三〇三}けむ^{三〇四}彼^{三〇五}等^{三〇六}喜^{三〇七}びて銀^{三〇八}子^{三〇九}を予^{三一〇}んと約^{三一〇}す^{三一〇}ユダ^{三一〇}諾^{三一〇}ひて人^{三一〇}々^{三一〇}の
 42 居^{三一〇}ざる時^{三一〇}おイエス^{三一〇}と付^{三一〇}さんと機^{三一〇}と窺^{三一〇}へり^{三一〇}〇^{三一〇}さて除^{三一〇}酵^{三一〇}節^{三一〇}ある逾^{三一〇}越^{三一〇}は羔
 43 と殺^{三一〇}べき日^{三一〇}おありけむ^{三一〇}ハ^{三一〇}イエス^{三一〇}ペテ^{三一〇}ロ^{三一〇}とヨ^{三一〇}ハ^{三一〇}チ^{三一〇}と遣^{三一〇}さん^{三一〇}とて日^{三一〇}けるの
 44 往^{三一〇}て我^{三一〇}儕^{三一〇}が食^{三一〇}せん^{三一〇}爲^{三一〇}お逾^{三一〇}越^{三一〇}と備^{三一〇}よ^{三一〇}るをら答^{三一〇}けるの何^{三一〇}處^{三一〇}お之^{三一〇}と備^{三一〇}んと爲^{三一〇}
 45 十^{三一〇}イエス^{三一〇}日^{三一〇}けるの城^{三一〇}下^{三一〇}お入^{三一〇}バ水^{三一〇}と盛^{三一〇}たる瓶^{三一〇}と掣^{三一〇}る人^{三一〇}あんぢら^{三一〇}お遇^{三一〇}べし

然り此等と有ぬ者の衣服と賣て刀と買べし 我あんぢらあ告ん彼の罪人
 此中又算らきて有考と録さきたる此言の我あ於て應らるべし蓋とを指
 たる事の必ず成らる可きバ也 あをら曰けるの主見よ此あ二れ刀ありイ
 エス彼等あ曰けるの足り イエス出て例の如く橄欖れ山あ往ける又其弟
 子も從へり 其處あ至て彼等あ曰けるの誘惑あ入ざるやう祈せ イエス
 彼等と離て石の投らるゝほど隔り曲膝いれり曰けるの 父よ若し聖旨あ
 肯バ此杯と我より離ち給へ然ども我意あ非とと聖旨のまゝあ成たまへ
 使者天より彼あ現きて健壯と添ぬ イエス痛く哀と切あ祈せり其汗の血
 れ滴りの如く地あ下さり 祈禱より起て弟子あ來り彼等があ寝るやう
 見 曰けるの何ぞ寝るや起て誘惑あ入ざるやう祈せ 如此いへるとさ許
 多れい々きたる又十二の一人あるユダと云る者其あ先ちてイエスあ接吻
 せんと近よそり イエス曰けるのユダ爾の接吻ともて人の子と賣と乎
 ろの側あ居たる者ども事の及んとすると見て曰けるの主よ我儕刀ともて

撃べと手 其中の一人祭司れ長の僕と撃て其右れ耳と削落せり イエス
 答て之と聽せと曰るれ耳あ捫て醫したり イエス此あ來と祭司れ長殿司
 と長老等あ曰けるの爾曹刀と棒とと持來り強盜あ當が如する手 曰
 々あ爾曹と借あ殿あ在し時の我あ手と措みど無りき然るあ今と爾曹の時
 ろの黑暗の勢あり 彼等イエスと執へ曳て祭司れ長の家あ携往りペテロ
 遙あ從ひぬ 人々中庭のうちあ火と焼て同あ坐しけをバペテロも其中あ
 坐あさり 或婢りあが火の傍あ坐せると見よと熟視て曰けるの此人も
 彼と借あ在し ぺテロ承ずして女よ我あをと識すと云り 頃刻して他れ
 人も亦見て曰けるの爾も彼等の一人ありペテロ曰けるの人も我と然ず
 約る一時ほど過て復あかれ人あ言けるの誠あ此人も彼と借あ在し是かり
 ラヤの人あをバ也 ぺテロ曰けるの人も我あを言と識すと云り
 も果す忽ち鷄鳴ぬ 主身と回してペテロと見たまへり今日鷄あく前あ三
 次わをと識すと云んと主れ曰たまひし言とペテロ憶起し 外へ出て痛く

哭り○ イエスと護る者ども嘲弄志て彼と撲るの目と掩ひ問て曰ける
 の爾と撲者の誰あるの預言せよ また多端此事と言て之と詰るなり 平
 旦も民は長老祭司の長學者ども集りてイエスと集議所へ曳往て 曰ける
 の爾もしキリストあらば我儕も告よイエス曰けるの假令とを爾曹も言と
 も信ぜざるべし 又たとひ我あんぢら又詰ども答ざるべし 今より後人
 れ子の大權ある神の右に坐せん 皆いひけるの然を爾の神れ子あるか
 エス曰けるの爾曹が言る如く我と是あり 彼等いひけるの猶證據と須ん
 や我儕みづら其口より聞り

第二十三章 衆人みな起てイエスとピラトを携ゆき 之と訟いひけるの我
 儕の人が民と感し税とカイザルを納るものと禁み自ら王なるキリスト
 と稱ると見たり 三 ピラトイエス問て曰けるの爾のユダヤ人の王なる
 答けるの爾が言る如し 四 ピラト祭司は長等と衆人お曰けるの我の人も
 於て罪あると見ず 五 彼等まそく極力いひけるの彼のガリラヤより始て

通くユダヤと教へ此處まで來て民と亂せり 六 ピラトガリラヤと聞て此人
 をガリラヤ人ある手を問 其へロデの所管あると知て之へロデお遣る
 此時へロデもエルサレム不在し 八 イエスと見て甚だ喜べり蓋各餘ある彼
 が風聲と聞て久く之を見んふと欲ひ且るは奇異ある事と見んと望みた
 きバ也 是故も多言と以て問けきどもイエス何とも答ざりき 十 祭司は長
 學者たち側お立て切お彼と訟ぬ 十一 へロデの士卒と共に彼と藐視嘲弄し
 て華服と衣せ復ピラトお遣きり 十二 ピラトとへロデ先よ仇たりしを當
 日たがひお親と爲り 十三 ピラト祭司の長有司および民等と呼あつめて
 曰けるの爾曹もれ人と我に携來りて民と亂したる者ありと爲せり我あん
 ぢらが認る所と以て爾曹の前も鞫ども其罪あると見ず 十五 へロデも亦然り
 爾曹とへロデお遣せを彼もイエスが行事の死罪も當と見ざりき 十六 故も
 色答ちて之と釋さん 蓋もれ節期も必ず一人と釋ふと有るなり 十八 彼等と
 る一齊よむりて此人と除きバラバと我儕に釋せと曰 十九 彼の城下よ一揆

と起し人と殺して獄に入し者あり 故おピラトとイエスと釋さんと欲ひ復のきらふ日しるを 三 彼を呼りて之と十字架お釘よ十字架に釘よと曰
 三 ピラト三次いひけるの彼之何の悪事と行しや我いまだ彼れ死罪あると
 見ざるを答ちて釋さん 三 彼等厲く聲とさて彼と十字架お釘んと言募を
 り遂お彼等と祭司は長の聲勝たり 三 彼等が求むる如く擬て 三 彼等が求
 る一揆と起し人と殺して獄に入たる者と釋し其意お任せてイエスと付せ
 り 三 彼等イエスと曳往るとき田間より出來をるクレネはシモンと云る者と
 執へ其お十字架と負せてイエスお從せたり 三 衆の民および婦等も從ふ
 婦等の彼と哭哀めり 三 イエス彼等と願ひけるのエルサレムの女子よ我
 爲お哭あるを惟おれを己が子の爲よ哭 産ざる者いまだ孕ざるの胎い
 まだ哺せざるれ乳の福ありと曰ん日きたらん 三 當時人々山に對て我儕れ
 上お歴よ陵お對て我儕と掩へと曰ん 三 もし青木おさへ如此あさば枯木の
 如何せらるん 三 また他お二人の罪人とイエスと偕お死罪お處んんとて

曳往り 三 彼等クラニオンと云る所お至りて此おイエス及び罪人と十字架
 お釘ぬ一人とイエスは右一人と左お置 三 イエス曰けるの父よ彼等と赦し
 給へ其爲とよろと知ざるが故なり彼等圖としてイエスは衣服と分つ 三 人
 々立てイエスと見たり有司も亦嘲哂ふて曰けるの彼の他人と救へり若キ
 リスト神の選たる者あらば自己と救べ 三 兵卒も亦るを嘲弄し來り酢
 と予て 三 爾もしユダヤ人れ王ならば自己と救へと曰り 三 又ギリシヤロマ
 へブルは文字よて此のユダヤ人れ王ありと書る罪標と其上お建たり 三
 懸らるたる罪人れ一人イエスと讀て曰けるの爾もしキリストあらば己と
 我儕と救へ 三 他れ一人ふたへて彼と責め曰けるの爾おあじく罪と受るお
 ら神と畏ざる乎 三 我儕の當然あり行ふどの報を受るを此人の何も不是
 事に行ざりし也 三 斯てイエスお曰けるの爾は國に來ん時我と憶たまへ
 三 イエス答けるの誠よ我あんぢよ告ん今日あんぢの我と偕お樂園お在べ
 し 三 時約そ十二時おろより三時お至まで遍く地比うへ黑暗と爲る 三

日光くらと殿の内は幔真中より裂たり。イエス大聲お呼び曰けるハ父よ我靈と爾れ手お託く如此いひて氣絶ゆ。百夫は長これ成し事と見て神と崇め曰けるハ誠お此人ハ幾人ありき。之と觀んとて聚る衆人とみ此ありし事等と見て聲と捐て返せり。イエスの相識人々およびガリラヤよと隨ひし婦ども遠く立て此等の事と見たり。○議員あるヨセフと云る善のつ義なる人あり。彼等ハ評議と行爲と肯之ざりき是ハニダヤハアリマクヤハ邑の人おて神の國と慕る者あり。此人ピラトお往イエスハ屍乞て之と取下し布おて裹いまだ人と葬し事あき石ハ盤たる墓お置り。此日之備節日あり且安息日近きハガリラヤよりイエスと偕お來り。婦たち後お隨ひて其墓と屍ハ置きたる狀と見たり。彼等かへりて香物と膏と備へ置て誠よ從ひ安息日と休めり。

第二十四章

七日の首日は味爽お此婦たち備置たる香物と携て墓お來し。他ハ婦等も偕お來せり。彼等石の墓より轉た望しと見て入けきバ主

エスの屍と見す。之が爲お躊躇とりしお輝る衣服と着たる二人ろは旁お立ち。おをら懼て面と地お伏けきバ其人いひけるハ爾曹何ぞ死たる者れ中お生たる者と尋るや。彼ハ此お在す。甦りたり。彼ガリラヤお居しとき。爾曹お語て人れ子と必ず罪ある人れ手お付さき十字架お釘らき第三日お甦る可と云りしと憶起よ。彼等の言と憶いで。墓より歸て此等ハ事とみる。十一ハ弟子と他ハ弟子等お告。此等ハ事と使徒お告たる者ハマクダラハマリヤヨハンナヤコブハ用あるマリヤまた他お偕お在し婦等あり。使徒ろハ語きると虚誕と意ひて信ぜず。ペテロ起て趨り墓お往。當日二て桌布れおよせ在と見て其遇とみろハ事と奇とつと歸れり。○當日二人ハ弟子エカサレムより三里をり隔りたるエマヲと云る村お往ける。○互ハ此等ハ所遇ともと語あへり。語り論ずる時ハイエス自ら近きて偕お往り。然と彼等ハ目迷さきて知みとと得ざりき。イエス曰けるハ爾曹行つと互ハ哀み談論みどの何ぞ手ろ乃一人ハシレオバと云る者答け

るの爾ハエルサレムに旅入おして獨これおろ有し事と知ざる乎 答ける
 の何事や之お曰けるハナザレハイエスの事あり此人を神と萬民に前
 於て行と言ふ大ある能ある預言者あり一ガ 祭司の長と有司等あると死
 罪お解して十字架お釘さり 我儕イスラエルと贖はん者の此人なりと望
 たりし又るを而已ならず此等ハ事ハ成しより今日ハ第三日あるよ 我儕
 此中ある或婦だち我儕と驚駭せり彼等朝はやく墓お往るの屍と見ず
 て來り天使あらひきて彼と避せりと云ると見ると告 また我儕と偕お
 在し者も墓お往る婦ハ言る如ふて且るをと見ざりき イエス曰ける
 の預言者の凡て言たる事と信する心ハ遅き愚ある者よ キリストハ此等
 ハ難と受て其榮光お入べきお非や 故おモーセより凡ハ預言者と始すべ
 てハ聖書に於て己お就てハ事の解明さたり 彼等ゆく所ハ村お近け
 るお彼もき過んと爲る狀とあせば 彼等そよめ曰けるハ日昇きて暮お及
 ぬ我儕と偕お止を彼いりて止る 共お食お就る時パンととり謝して擘る

きらお子けきバ 二人ハ者ハ目瞭の小爲て彼と識り又忽ち其目お見ず爲
 り 彼等たがひお曰けるハ途間おて我儕と語つ聖書と解開ける時を
 らが心熱しお非ずや 此時ををら起てエルサレムと歸り十一ハ弟子およ
 び同ある人ハ集り居お遇るハ人等の曰けるハ主實お甦りシモンお現を
 さり 二人ハ者も途間おて所遇とパンと擘るお因て識たる事と語
 せり 此事と語る時イエス自ら其中お立て曰けるハ爾曹安のを
 ら駭ハ懼きて見おろれ者ハ靈おらんと意り イエス曰けるハ爾曹何
 駭くや何お心お疑ひ起るや 我手ハが足と見て我あると知とを摸て視
 よ靈ハ我お在と爾曹が見てとく肉と骨ハ有ざる也 如此いひて其手足と
 示せしお 彼等喜べども猶信ぜず異める時イエス此ハ食物ある乎と曰
 けきバ 衆ある魚と蜜房と手ふ 之と取て其前お食せり 又ハ彼等お曰
 けけるハモーセハ例預言者ハ書また詩ハ篇と録さるる我事おつく凡ハ言
 け必らず應べは我もと爾曹と偕お在しとハ語をる所あり 是お於て聖

書と悟せんとして其聰と啓^{四六} 日けるは已に斯録をきたり如此キリストは
 苦難をうけ第三日お死より甦るべし 又ふれ名お託て悔改と赦罪はエル
 サレムより始まり萬國の民お宣傳らるん 爾曹の此等れ事れ證人あり 我
 父が父の誓のものゝ爾曹お遣らん爾曹上より權と授らるゝ迄ハエルサレ
 ムお留^{五十一} 一エス彼等と導^{五十二} 一ニヤお至り手と舉て彼等と祝す 祝す
 る時をきらと離を天お舉らきたり 彼等みまを拜して甚く喜びエルサレ
 ムお歸り 恒お殿お入て神と頌美まを祝謝せりアーメン

新約全書路加傳終

約翰傳福音書

第一 太初お道あり道の神と借おあり道の即ち神あり 一の道と太初お神
 と借お在^三 萬物おれお由て造らる造をたる者お一として之お由らで造
 らるゝの無 之お生あり此生ハ人の光あり 光ハ暗お照り暗ハ之と曉ら
 ざりき 〇 借こゝ又神れ遣し給へるヨハ子と云る者あり 七 其の來りハ
 證の爲あり即ち光お就て證と作すべての人として己お因て信ぜあめんが
 爲なり 八 彼ハ光お非ず光お就て證と作ん爲お來きり 九 夫とべての人と
 照す眞れ光は世お來きり 十 其を世おあり世ハ彼お造きるるお世おと
 ず 一 其を己れ國お來しお其民おを接ざりき 十二 彼と接るれ名と信ぜし者
 おと權と賜ひて此と神れ子と爲り 十三 斯る人の血脈お由お非ず情慾お由お非ず
 人れ意お由お非ず唯神お由て生をし也 十四 其を道肉體と成て我儕の間お寄
 せり我儕の榮と見お實お父の生たまへる獨子の榮おして恩寵と眞理お
 て充り 〇 十五 ヨハ子之が證と作て呼いひけるハ我さきお我お後を來らん者

我より優る者あり蓋我より先在者あり言しは此人あり
 我儕み彼を充滿たる其中より受て恩寵を恩寵と加らる 律法のモーセも由
 て傳り恩寵と眞理のイエスキリストも由て來り 未だ神と見し人あらず
 惟うと給へる獨子となつち父の懷に在者のみ之と彰せり ○ ヨダヤ人祭
 司とレビ人トエルサレムよりヨハチの所を遣し爾の誰ぞと問しめける
 とき證せるふと左に如し 何を諱そ所なく言顯して我のキリストも非ず
 と明るも曰り 且問ける然を爾の誰ぞエリヤあるの否と答ふ又かん
 ぢの彼の預言者ある乎と問しお然らずと答たり 是も於て彼等と問け
 るは爾の誰あるの我儕と遣し者も我儕が答と爲得るやう我儕も告よ爾
 ぞつらら如何も謂や ヨハチ曰ける我の即ち主の道と直せよと野も呼
 る人れ聲あり預言者イザヤの言るが如し され遣さるたる人々のパリサ
 イの人ありき 彼等またヨハチも問て曰ける然も爾のキリストも非ず
 エリヤも非ず彼の預言者も非ずとて何ぞハプテスマと施すや ヨハチ

答いひける我の水と以てハプテスマと授く然も爾曹が知ざる所れもの
 一人あんぢらの中お立り 我も後を來りて我に優る者どの是あり我の
 其履の紐と解おも足ざる者あり 此事のヨハチのハプテスマと施しよ
 ルマンは外あるベツニヤも有也 ○ 明日ヨハチイエスに己も來ると
 見て曰ける世に罪と任ふ神の羔と觀よ 我も後を來らん者の我より優
 れる者あり蓋我より以前お在し者あるは也と我言ある此人あり 且れ素
 より此人と識す然も我來て水もてハプテスマと施すの彼もイスラエルに
 民も顯さんぶ爲あり ヨハチまた證して曰けるの足も靈に鶴に如く天よ
 り降りて其上お止るを見たり 我の彼と識さるを我と遣し水もてハプ
 テスマと施さるめし者もと見たり 我の彼と識さるを我と遣し水もてハプ
 と聖靈と以てハプテスマとなす者あり 我こそと見て其神の子たるを證
 せり 明日またヨハチ二人れ弟子と偕お立 イエスに行と見て神れ羔と
 觀よと曰 如此いへると弟子聞てイエスも從ひ往り イエス彼等の從へ

ると回顧て爾曹あふと求るやと彼等又問ふたへてラビ何處お住るやと曰
 ラビと譯バ師と云れ義あり 三九 イエス彼等お來り觀よと曰たまひければ遂
 お往て其住り給ふ處と見て是日ともお住り時晝は四時おるあり 四
 ヨハナは曰し言と聞てイエスお從へる二人は者れ其一人のシモンペテロ
 け兄弟アンデレあり 四〇 され先ろれ兄弟シモンお遇て曰けるハ我儕ソツ
 シヤお遇りメツシヤと譯バキリストあり 四一 即ち彼とイエスお携往しおイ
 エス視て之お曰けるハ爾ハヨナ乃子シモンあり爾ハケバと稱らるベケ
 バと譯をベテロあり 四二 明日イエスガリラヤお往んとしてピリポおあひ
 我お從へと曰り 四三 ピリポハアンデレとベテロは住るベツサイタと云る
 邑の人あり 四四 ピリポナタナエルお遇て曰けるハ我儕律法の中おモーセが
 載たるともろ預言者等の記しと所は者お遇り即ちヨセフは子ナザレのイエ
 スあり 四五 ナタナエル曰けるハナザレより何れ善者いでん乎ピリポ彼お曰
 けるハ來て觀よ 四六 イエスナタナエルの己が所お來るを見りすと指て曰けるハ

視よ眞のイスラエルは人おして其心詭譎あき者乎 四八 ナタナエルイエスお
 曰けるハ如何おして我を知たまふ乎イエス之お答て曰けるハピリポが爾
 と召ざる先お無花果樹は下お爾は居ると見たり 四九 ナタナエル答て曰ける
 ハシビ爾ハ神は子あり爾ハイスラエルの王あり 五〇 イエス答て曰けるハ爾
 が無花果樹の下お居ると我見しと言るお因て爾信するハ此よりも大なる
 事と爾とるべし 五一 又いひけるハ我まるとお實お爾曹お告ん天ひらけて神
 の使等ハ子は上お陟降すると見ん 五二

第三日おガリラヤはカナおて婚禮ありしがイエスの母も此お居り 二
 イエスと其弟子も婚禮お請る 三 葡萄酒罄けをば母イエスお曰けるハ彼等お
 葡萄酒おし 四 イエス彼お曰けるハ婦よ爾と我と何れ與あらんや我時ハ未だ
 至ず 五 爾は母僕等お向て彼が爾曹お命する所は事と行よと曰おけり 六
 ダヤ人は潔は例お從ひて四五斗盛れ石甕六のしお備ありしが 七 イエス
 僕等お水と甕を滿せよと曰けをを彼等口まで滿せたり 八 又みよと今挹取

て持ゆき筵と司る者小與せと曰けきバ彼等とせり筵と司る者酒小變し水と嘗て其何處より來しと知ず然と水と挹し僕に知り筵と司る者新郎と呼て彼に曰ける凡る人のまづ旨酒を進し酒酣ある及て魯酒と進み爾の旨酒と今まで留れけり此事イエスがガリラヤにカナにて行るの休徴は始にして其榮と顯せり弟子の色と信す○此後イエスと母兄弟および弟子等カペナウンに下り其處に居ると久ららずしてユダヤ人は逾越節ちのづきけきバイエスエルサレムに上り殿にて牛羊と賣者より逐出し免銀する者に金と散し其案と倒し鴿と賣者お曰ける此物と取て往て父の室と貿易の家とを勿色弟子等あんち室に爲お熱心とをと蝕んと録さきたるを憶起せり此ユダヤ人あへてイエスに曰ける爾ををられ事と爲らよ我儕は何の休徴と示るやイエス答て爾曹の殿と毀て我三日おて之と建んと曰けきをユダヤ人いひける

此殿と建るの四十六年と經しお爾三日おて之と建るのイエスの如此いへるの其身の殿と指るなり死より甦り給へる後弟子たちイエスの此事と語しと憶起し聖書と彼の曰し言と信ぜり信てイエス逾越節にエルサレムに在しお多れ人おれ行し休徴と見て其名と信ぜりイエス自己と彼等に托す蓋すべて人とお知また人お心お中と知故お人おついで證と立る者と求ざらば也

ユダヤ人は宰めてパリサイはニコデモと云る人ありある夜イエスお來て曰けるラビ我儕あんちの神より來し師ありと知るの神も一人と信あらずを爾が行るお休徴の人と行みと能ざらば也イエス答て曰ける誠お實お爾お告ん人も新お生ずの神に國と見よと能はじニコデモ彼お曰ける人おや老ぬを如何で復生する事と得んや再び母に腹お入て生る可んやイエス答ける誠お實お爾お告ん人の水と靈とお由て生ざらば神に國お入ると能ざる也肉お由て生る者肉あり靈お由

て生るゝ者ハ靈あり 我あんぢハ新ハ生るべき事と言一と奇と爲あるを
 風ハ己が任に吹あんぢ其聲と聞ごも何處より來り何處へ往と知す凡て
 靈ハ由て生るゝ者も此れ如し ニコデモ答て如何て此事あらん乎と曰
 エス答て曰けるハ爾之ハエスラエルハ師あるハ猶ハ此事と知ざる乎 誠ハ
 實ハ爾ハ告ん我儕知し事をいひ見し事と證するハ爾ハ我儕ハ證と受す
 若と地ハ事と言ハ爾信ぜずバ况て天ハ事と言ハ何で信するものと
 爲んや 天より降り天よとる人ハ子ハ外ハ天ハ升し者あり 一モ一モ野ハ
 蛇と攀し如く人ハ子も攀らるべし 凡て之と信する者ハ亡るものと無いて
 永生と受しめんが爲あり こそ神ハ生たまへる獨子と賜はごハ世
 人ハ愛し給へて此ハ凡て彼と信する者ハ亡ること無いて永生と受し
 めんが爲あり 神ハ其子と世ハ遣し給へるハ世ハ罪と定んどハ非ず彼ハ
 由て世と救んが爲あり 彼と信する者ハ罪ハ定らざる信ぜざる者ハ既ハ
 其罪さだまきり蓋神ハ生たまへる獨子ハ名と信ぜざるハ因ハ罪ハ定る所

以ハ光世ハ臨し人ハ行ハ惡ハ因て光と愛せず反て暗と愛すきを也
 凡て惡とある者ハ光と惡と其行と責らざるらんが爲ハ光ハ就らず 眞理と
 行ふ者ハ其行の顯せんが爲ハ光ハ就る蓋神ハ遣て行へむ也 此後ハ
 ハ弟子とユダヤハ地ハ至り偕ハ彼處ハ留りてハアテスマと施す 一ハ子
 も亦サリハ近きアイノムハ在てハアテスマと施す彼處ハ水ハやきが故
 ち人々來りてハアテスマと受たり 此時ハ子ハ未だ獄ハ入らざる
 一ハ子ハ弟子とユダヤ人と潔事ハ就て爭辨ありけるが 彼等ハ子
 ハ來りて曰けるハラビ視よ爾と偕ハヨルダンハ外ハ在て爾が證せし者ハ
 ハアテスマと施すハ皆のきハ來きり 一ハ子答て曰けるハ人ハ天より賜ふ
 ハ非ざきを受るものと能ざる也 我ハキリストハ非ず惟それ先ハ遣さき
 者なりと言し事を證する者ハ爾曹あり 新婦ともてる者ハ新郎なり新郎
 ハ友たちて其聲と聞之ハ縁と喜び多し我ハ此喜び満るものと得たり
 彼ハ必ず盛んハあり我ハ必ず衰ふべし 天上より來る者ハ萬物ハ上ハ

あり地より出る者ハ地ハ屬ラレ言ヒヨルモ地ハ事あり天より來ル者ハ萬物レ上ニ在リ彼ハ自ら其見ヒヨル所ニ事ト證ト爲ル其證ト受ル者あり
 三三 然レ證ト受ル者ハ印トモテ神レ眞ル事ト證ト神レ遣シテ者ハ神レ言ヒテ語ル蓋神レ其靈ト賜ヒテ限量ヲ付ケル也父ハ子ト愛シテ萬物ト其手ヲ授ケタリ
 三六 子ト信ズル者ハ窮ニス生命トエ子ハ從ヒシる者ハ生命ト見ユト得ヒ且神レ怒ラレ上ニ留ラン

第四章

主ハこれの弟子ト收ルこと又ハパテスマト施セルもトヨハチヨリも多シトバリスアル人ノ聞ヒテ知ル然レ其實ハイエス自らハパテスマト施セルハ非ズ弟子ハ其ト行ルアリ
 三九 其時ニダヤト去テ復カリラヤハ往リ此邑ハヤコブ子ノ子ヨセフハ予シ地ニ近シ
 四一 此ハヤコブハ井ありイエス行途ニ疲倦シテ其井ニ傍ニ坐セリ時ハ晝ノ十二時ころありキ
 四二 一人ノサマリヤハ婦水ト汲ンドテ來リケルバイエスハ婦ニ向テ我ニ飲セヨト

曰 蓋弟子だち食物ト買ンサメ邑ヘ往テ在ガリシ故あり
 四三 サマリヤハ婦ハ己ケルハ爾ハニダヤ人トサマリヤ人トノ交際ト爲ズバ也
 四四 イエス答テ曰 けるハ爾もし神レ賜ヒ我ニ飲セヨといフ者ハ誰ナルト知バ爾ハ色ヲ求ムん然レ活水ト爾ハ予フベシ
 四五 婦ハイエス曰 けるハ主ヨ汲器ヲク井も亦深シ爾何處より汲テ其活水ト有ルハ
 四六 此ハ井ハ我儕ハ先祖ヤコブノ予シ所あり彼も其子も亦畜までも皆ム色ト飲タリ爾ハ彼より勝色シ者ナラン
 四七 イエス答テ曰 けるハ凡テ此水ト飲者ト主ハ渴ン然レ我ハ永遠ニ
 四八 飲者ト永遠ニ事ス且ヒ予ハ水ハ其中ニ泉ト成リ湧出テ永
 四九 生ニ至ルベシ婦ハ己ケルハ主ヨ我ハ渴ムト云ク亦ハ處ニ水ト汲ル
 五〇 來ラぬ爲ル水ト我ニ予ヘヨ
 五一 イエス曰 けるハ爾ヨキテ夫ト呼來
 五二 夫ト呼來ル者ハ我ニ夫ハ何ト云フ
 五三 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 五四 夫ハ何ト云フ
 五五 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 五六 夫ハ何ト云フ
 五七 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 五八 夫ハ何ト云フ
 五九 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 六〇 夫ハ何ト云フ
 六一 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 六二 夫ハ何ト云フ
 六三 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 六四 夫ハ何ト云フ
 六五 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 六六 夫ハ何ト云フ
 六七 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 六八 夫ハ何ト云フ
 六九 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 七〇 夫ハ何ト云フ
 七一 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 七二 夫ハ何ト云フ
 七三 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 七四 夫ハ何ト云フ
 七五 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 七六 夫ハ何ト云フ
 七七 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 七八 夫ハ何ト云フ
 七九 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 八〇 夫ハ何ト云フ
 八一 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 八二 夫ハ何ト云フ
 八三 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 八四 夫ハ何ト云フ
 八五 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 八六 夫ハ何ト云フ
 八七 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 八八 夫ハ何ト云フ
 八九 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 九〇 夫ハ何ト云フ
 九一 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 九二 夫ハ何ト云フ
 九三 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 九四 夫ハ何ト云フ
 九五 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 九六 夫ハ何ト云フ
 九七 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 九八 夫ハ何ト云フ
 九九 婦ハ曰 けるハ我ハ夫ハ何ト云フ
 一〇〇 夫ハ何ト云フ

いひけるの主よ我あんぢと預言者と知り 我儕は列祖の此山おて拜しよ
 お爾曹の拜すべき所のエルサレムありと曰 イエス曰けるの婦よ我を信
 ぜよ唯お此山はみお非ず亦エルサレム而已おも非ずして爾曹父を拜とべ
 き時きたらん 爾曹は拜する者と爾曹の知す我儕は拜する者と我儕の知
 るの救のユダヤ人より出るの故あり 眞は拜する者靈と眞と以て父を拜
 する時きさらん今うは時おあをり夫父の是は如く拜する者と要め給ふ
 神の靈あを拜する者もまの靈と眞ともて之を拜すべき也 婦いひける
 のキリストと稱するメッシヤは來らん事と知るを來らん時凡は事と我儕お
 告ん イエス曰けるの爾と語る所は我と其あり 時お弟子きよりて彼は
 婦と語るを奇みけれと其何と求るや又お故みきと語るの問る者も
 無りた 婦は水瓶と遺して邑おゆき人々お曰けるの 我をべて行し事
 と我お告し人々來りて觀よ此のキリストあらず乎 是お於て人々邑と出
 てイエス乃所來る 問お弟子かれお請てラビ食し給へと曰けき

イエス彼等よ曰けるの我お爾曹の知ざる食物あり 弟子とがひお曰け
 るの食物と彼お饋し者之誰ある乎 イエス彼等お曰けると我と遣しよ者
 は旨お選ひ其工と成畢る是とが糧みよ なんぢら穡時あるおの猶四ケ
 月ありと云すや我あんぢらお告ん目と舉て觀よ之や田の熟て穡時あるを
 り 穡者の其工錢と受て永生お至るべし實と積む斯て播者と穡者と同
 お喜ばん 彼の播みきの穡と云るの之お就て眞あり 我あんぢらは勞せ
 ざりし所と穡せんとして爾曹と遣せり他は人々勞せしおより爾曹の其勞
 しるる果と受より の婦とが行し凡は事と彼とを告しと證せし言お
 因て其邑のサマリヤ人おほくイエスと信ぜり 是お於てサマリヤ人
 エスは所お來りて借お留り給はん事と求しおパイエス此お二日留り
 彼の言お因て信ぜし者前よりも多ありた 婦よ曰けるの今あんぢ
 は言し事お因て信するお非ず我儕とぼうら聞て此の誠お世は救主と知
 きを也 ○ 二日とぞてイエス此と去カリテ往り 蓋おを自ら預言者

の本土^{まゝ}おて尊^{たご}ばるゝ事^{こと}あしと言^いひお因^よガリ^ガラ^ラヤ^ヤお至^{いた}りし時^{とき}ガリ^ガラ^ラヤ^ヤは
 人々^{ひと}彼^{かれ}と接^{あは}たり蓋^{おほ}ささお節^{いはい}筵^いれ時^{とき}イエ^イス^スれエル^エサ^サレ^レム^ムおて行^いひし凡^{すべ}れ事^{こと}
 と彼^{かれ}等^らもろ乃^{すなは}ち節^{いはい}筵^いお往^まて之^{これ}と見^みたをバ也^{なり} イエ^イス^ス復^{また}ガリ^ガラ^ラヤ^ヤはカ^カナ^ナお至^{いた}
 る此^{こゝ}の曩^{むかし}お水^{みづ}と酒^{さけ}お爲^なし處^{ところ}あり時^{とき}お王^{おう}は大臣^{だいじん}ろの子^こ病^{やま}お係^かりてカ^カペ^ペナ^ナウ^ウ
 お在^ありけるを イエ^イス^スれユ^ユダ^ダヤ^ヤよりガ^ガリ^ラヤ^ヤお來^{きた}る事^{こと}とき^{とき}即^{すなは}ちイエ^イス
 の所^{ところ}お往^まてカ^カペ^ペナ^ナウ^ウお下^{くだ}り其^{その}子^こと醫^いへ給^{たま}ふんんこと請^こむろの瀕^{しほ}死^しあり
 けきを也^{なり} イエ^イス^ス彼^{かれ}お曰^いけるの爾^{なんぢ}曹^{そう}休^{しゅう}徴^{てい}と異^{こと}能^{あた}と見^みずを信^たんぜじ 彼^{かれ}曰^いけ
 るの主^まよ我^{われ}子^これ死^しざる先^まお下^{くだ}り給^{たま}へ イエ^イス^ス曰^いけるの往^いらんぢれ子^この生^い
 るあり其人^{ひと}イエ^イス^スれ曰^い言^{こと}と信^たんじて去^{さり}ぬ 下^{くだ}る時^{とき}お彼^{かれ}等^らの色^{いろ}お遇^あて告^つ
 けるの爾^{なんぢ}子^この生^いるあり 彼^{かれ}それ愈^いはじめし時^{とき}と彼^{かれ}等^らお問^たねけるを答^{こた}へて昨^{きのう}
 日^{あした}れ晝^{ひる}れ一時^{いちじ}お熱^{あつ}さめたりと曰^い 父^{ちち}とイエ^イス^スれ爾^{なんぢ}子^この生^いる也^{なり}と言^いたま
 ひし時^{とき}と其^{その}時^{とき}は同^{おな}きと知^して己^{おのれ}と其^{その}全^{いへん}家^かおとく皆^{みな}信^たんぜり 爾^{なんぢ}第^{だい}
 二^には奇^き跡^{せき}とイエ^イス^スユ^ユダ^ダヤ^ヤよりガ^ガリ^ラヤ^ヤお至^{いた}りて行^いるあり

第五節

厥^{その}後^{のち}ユ^ユダ^ダヤ^ヤ人の節^{いはい}筵^いありけきをばイエ^イス^スエル^エサ^サレ^レム^ムお上^{のぼ}りニ
 サ^サレ^レム^ムの羊^{ひつじ}門^{かど}は邊^{へり}おへブル^ベル^ルの方^{かた}言^{こと}よてベ^ベテ^テス^スダ^ダといふ池^{いけ}あり此^{こゝ}池^{いけ}お五^いれ廊^{らう}
 ありろの中^{なか}お病^{やま}者^{もの}替^か者^{もの}跛^{あし}者^{もの}まゝ衰^{おろ}たる者^{もの}も多^{おほ}く臥^ふみて水^{みづ}れ動^{うご}と待^{まち}り
 ぞの天^{あま}の使^{つかい}時^{とき}々^{ごと}池^{いけ}お下^{くだ}て水^{みづ}と動^{うご}すことあり水^{みづ}れ動^{うご}るのち先^まちて池^{いけ}に
 志^{こころ}者^{もの}の何^{なに}れ病^{やま}およらす愈^いたり 三^{さん}十^{じゅう}八^{はち}年^{ねん}病^{やま}たる者^{もの}一人^{ひとり}おしるま在^あり 一^{いち}
 人^{ひとり}が臥^ふとるを見^みて其^{その}病^{やま}れ久^{ひさ}し知^しるを曰^いけるの愈^いんことと欲^ほふや 病^{やま}
 る者^{もの}おさへけるの主^まよ水^{みづ}れ動^{うご}るとき我^{われ}と扶^{たす}て池^{いけ}お入^いる人^{ひと}おし我^{われ}いらんと
 ぞる時^{とき}の他^{ほか}れ人^{ひと}くだりて我^{われ}より先^まお入^いる イエ^イス^ス彼^{かれ}お曰^いけるの起^たよ床^{とこ}と取^と
 取^とて行^いめ 爾^{なんぢ}人^{ひと}立^たち刻^{とこ}お愈^いをばち床^{とこ}と取^と取^とて行^いめり此^{こゝ}日^ひの安^{あん}息^{そく}日^ひなり
 き ユ^ユダ^ダヤ^ヤ人^{ひと}いひし者^{もの}お曰^いけるの今日^{けふ}は安^{あん}息^{そく}日^ひあをバ爾^{なんぢ}床^{とこ}と取^と取^との宜^{よろ}し
 らず 彼^{かれ}等^らお答^{こた}へけるの我^{われ}と愈^いまゝ者^{もの}おれおとこと取^と取^とて行^いめと言^いり 誰^{たれ}
 をら問^たねけるの爾^{なんぢ}に床^{とこ}と取^と取^とて行^いめと言^いし人^{ひと}は誰^{たれ}ある乎^や 愈^いし者^{もの}れ誰^{たれ}
 あると知^しざりき蓋^{おほ}しるま多^{おほ}れ人^{ひと}とけし故^{ゆゑ}イエ^イス^ス避^さけたをバ也^{なり} 厥^{その}後^{のち}イエ^イ

一 殿ドムおて其人そのひとは遇あひひけるの視みよ爾なんぢそてお愈いたり復また罪つみと犯かふと勿なきを恐おそく
 二 前まへお勝まさる災わざはひ禍わざはひあんぢお罹あらふ 其人そのひとゆきてユダヤ人ユダヤ人お己おのれと愈いまふ者もののイ
 三 エスありと告つぐ 是こゝろお於あたてユダヤ人ユダヤ人イエスと窘せ迫めて殺ころさんと謀はかる蓋おほひ色が
 四 此事このことと行なむの安やす息いき日ひありけむ也なり 此こゝろお因よりてユダヤ人ユダヤ人いよくイエスと
 五 るまで働はたらき給たまふ我われもまた働はたらくあり 此こゝろお因よりてユダヤ人ユダヤ人いよくイエスと
 六 殺ころさんと謀はかるその安やす息いき日ひと犯かそれみあらず神かみと己おのれが父ちちといひ己おのれと神かみと齊ひとし
 七 そ色いろバあり 是こゝろお故ゆゑおイエス彼等かれらお答こたへて曰いけるの誠まことお實まことに爾曹なんぢらお告つげん子この
 八 父ちちれ行なふ事ことを見て行なふの外ほかの何事なにごとも行なふふと能あたはず蓋おほひすべて父ちちれ行なふ事こと
 九 と子こも亦また行なふべあり 父ちちの子こと愛あいし凡たゞて己おのれの行なふ所ところれ事ことと彼等かれらお示あむそ爾曹なんぢら
 十 として奇あまま志こゝろめん爲なるおの事等ことどもより更さらお大おほいある事ことと彼等かれらお示あむさん 子こは父ちち
 十一 死しし者ものと甦よみがらせて生いかむるが如ごとく子こも己おのれの意こゝろお從したがひて人ひとと生いかむべし
 十二 子こは父ちちは誰たれとも拘きす審判さばは凡たゞて子こも委あたり 是こゝろおての人ひととあて父ちちと
 十三 敬うやま如ごとく子こも敬うやま志こゝろめん爲なる子こと敬うやまざる者ものの之これと遺つまふ父ちちと敬うやま

一 誠まことお實まことに爾曹なんぢらお告つげん我言われいとさく我われと遺つまふ者ものと信しんする者ものの永なが生いき
 二 と有あるの審判さばお至いたらず死しより生いかむ遷うつれり 誠まことお實まことに爾曹なんぢらお告つげん死しし者もの神かみ
 三 子この聲こゑと聞きくとき來きたらん今いまろれ時ときおあきり之これと聞きるの生いかむ 子こは父ちちの
 四 自ら生いかむと有あり其その如ごとく子こも賜たまへて自ら生いかむと有あり 又また人ひとれ子こと有あるお
 五 因よりて之これお審判さばするは權威けんゐと賜たまへり 之これと奇あまま爲なる勿ならぬ墓はかお在ある者ものと有ある
 六 其聲こゑと聞きて出いるとき來きたらん子こも是こゝろを也なり 善事よきことを行なす者ものの生いかむと得える惡事あしきこと
 七 と行なふ者ものの罪つみと得える甦よみがらむべし 是こゝろお何事なにごとも自ら行なふふと能あたはず聞きくも
 八 お遊あそびて審判さばす我審判われさばの公平たふしろは我われわが意こゝろと行なふとと求もとめず我われと遺つまふ父ちち
 九 此意このこゝろと行なふふとと求もとめをあり 子こも我事われことと我われみづから證あかしせむ我證われあかしは眞まことあ
 十 らず 別わかれ我事われことと證あかしする者ものあり我われの我事われことと證あかしする證あかしれ眞まことあると知しる 子こは
 十一 んぢら義よし人ひととヨハ子こお遺つまふと彼眞理たのこゝろれ爲なる證あかしと作り 然しかど是こゝろを人ひとの
 十二 證あかしと受うけず此事このことと言いふの爾曹なんぢらお救すくはるが爲なり 子こは燃もて光ひかりを照ある證あかしあり
 十三 爾曹なんぢらおこれと暫しばらくく其光ひかりと喜よろこべり 我われはヨハ子こより大たいある證あかしあり蓋おほひ父ちちの我われ

お賜て成遂しむる事するはち我行ふ所れ事は是父の我と遣しよと證すれをあり 且とを遣考し父も我もと證せり爾曹いまだ其聲と聞ず未だ其形と見ず その道は爾曹れ心も存ざり蓋ふんぢら其遣考し者と信ぜざるも因て知るも也 あんぢら聖書も永 生ありと意て之と探索ては聖書と我もついで證する者あり 爾曹もが所も生と得んがとめ來ると欲す 且とを人の榮と受す わを爾曹と知ふんぢら其心も神と愛するは愛あらざる也 我の吾父の名も靠て來るも爾曹もを接すもし他れ人の名も靠て來るも爾曹もを接すも 爾曹の互も人れ榮と受て神より出る榮と求ざる者あるも何で能信するもと得んや 爾曹と父も訴る者と我と意ふ勿も爾曹と訴るもの一人あり即ち爾曹も恃ところれも一也 あり若も一也と信ぜば我も信ずべし蓋も一也我事と書とをばあり 若も一也れ書とよ言と信ぜずば何で我言しよと信ぜんや

第六節 此後イエスガリラヤは湖すあいちテベリアは湖は前岸へ濟しお許

多れ人々もを隨ふ蓋かき病し者も行し休徴と見し故あり 一 イエス山も上り弟子と偕も其處も坐せり 時エマヤ人の踰越は節も過し 一 イエス目と擧て多の人れ來るも見てピリボも曰ける何處よりパンと市て彼等も食しむ可も 自ら其爲んとする事と知也彼と試んが爲も如此いへる也 一 ピリボ答ける銀二百のパンも人おと少づと予てあほ足ざるべし 弟子れ一人即ちシモンペテロは兄弟アンデレイエスも曰けるい此も一人の童子あり麩麥のパン五と小き魚二と有り然とみれ許多れ人も如何もべきや 一 イエス曰ける人々も坐せよ其處も多の草あり約る五千人も坐ぬ 一 イエスパンととて祝謝て弟子も予へ弟子もを坐し一人も予ふ又此れ如もして小き魚も人も人々も欲も隨ひて彼等も與たり 一 十二 彼等る後もイエス弟子も曰ける少も廢いざるやうも其餘も屑と拾集めよ 一 十三 彼等が食せし彼五の麩麥もパンも餘遺も屑と拾集けよ 一 十二 彼等も預言者ありと曰 一 十四 是も

於てイエス彼等が來り己と執て王を爲んとせると知たど獨よて之と避ふ
 たゞび山お入たり 日暮るる弟子海お下て 舟お登カペナウンお向
 て海と濟る既お暮けきどもイエス彼等お就す 狂風ふくよ因て漸お海お
 さいだせり 一里十町をり漕出せる時イエスの海と行を舟お近くと見
 て弟子さち懼たり イエス曰ける我なり懼るる勿色 是お於て弟子喜
 びて彼とらけ舟お登けれバ直よ其往んとする所の地お着ぬ ○ 明日おあ
 たれ海岸お立し人々昨日弟子お登し舟お外おの舟なく且イエスの弟子と
 偕よ舟お登す弟子おみ往ると知 此時テベリアより外に舟きたり主は所
 りて人々おパンと食しよ所の近お着り 人々イエスに此お在す弟子も亦
 在ざるを見て彼等も舟お登イエスを尋ん爲おカペナウンお至き 湖に
 前岸おて彼お遇いひけるのラビ何時もよ來り給ひし乎 イエス答て曰
 けるの誠よ實お爾曹お告ん爾曹は我と尋るの休徵と見し故よ非たヤパン
 を食して飽たるが故あり ちんぢら壞る糧は爲お勞のすして永生お至

る糧するはち人れ子れ予る糧の爲お勞くべし蓋父の神の色に印して證す
 きバ也 是よ因て人々イエスお曰けると我儕如何ある事と行を神の工お
 爲べき乎 イエス答て彼等お曰けるの神の遣しよ者を信するは即ち其工
 あり 彼等いひけるの我儕と志て爾と信せおむる爲よ何れ休徵と爲して
 我儕お示るや何れ工と行ふや 我儕は先祖野おてマナと食へり録して天
 よりパンと彼等お賜へて食しむと有るが如し イエス曰けるの誠お實お爾
 曹お告ん天よマナと爾曹よ賜し者之モ一セお非す今日が父の天より眞
 れパンをもて爾曹お賜ふ 神はパンの天より降りて生命と世お賜るもの
 也 彼等いひけるの主よ恆お其パンと我儕お予よ イエス曰けるの我
 の生命はパンあり我お就る者も餓す我と信する者の恆お渴みとあし
 然と我ちんぢらが我と見ても信せざる事と爾曹お告たりき 凡て父は我
 お賜し者の我お就らん我お就る者の我おあらず之と棄ず 且お天より降
 しの己は意は任と行のん爲お非ず我と遣しよ者は意はまよと行のん爲お

三九 凡て父は我を賜し者となし、わき一をも失はず、末日は之を甦らすべし。即ち我
 と遣し、父は意あり。凡る子を見て之と信する者の、永生を得、父を復みせ
 と。未だ日甦らすべし。是を遣し、者に意あるべし。是は於てエマヤ
 八等イエスに我の天より降りし、パンありと言ふことあり。四三 譏いひける、
 彼が父母の我儕に識とみろあらざるや。即ち彼はヨセフの子イエス、非ざるや。然
 るも何ぞ我の天より降りしと言ふ。イエス答て曰ける、爾曹とがひみ、
 と勿き。我と遣し、父もし引さるべし。人よく我を就るあり。我を就る人、未
 日、我を遣し、甦らすべし。預言者に書か、人よ、我を就るあり。我を就る人、未
 り、是故、凡て父より聽て學し者、我を就る。然と父と見し者、いと惟神
 より來る者、れみ之と見たり。誠、實、我あんぢら、告ん、我と信する者の、
 永生あり。我の生命はパンあり。爾曹は先祖の野にてマナと食し、
 死り。凡て食者として死ざらしむる者の、天より降りし、パンあり。我の天
 より降りし、生るパンあり。若し人これパンと食し、窮なく生べし。我あふる、

四四 我肉あり、世に生命は爲す。我を賜へん。爰にエマヤ、人々がひみ、
 ひ曰ける、此人い、其肉と我儕を賜て食はしむる事と得ん乎。イエス
 曰ける、誠、實、爾曹告ん、若し人、れ子に肉と食す、其血と飲さるべし。爾曹
 生命あり。父の肉と食し、血と飲者、永生あり。我未だ日、之と甦ら
 すべし。夫が肉の誠、食物、ま、我血は誠の飲物あり。父が肉と食ひ、我
 血と飲者、我より我も亦かき居。生る父を遣し、父より降りし、パンあり。爾曹は先
 祖が食さる、尙死し。マナは如きも、非ず。此パンと食ふ者、窮なく生べ
 し。此等、れ事、イエスカペナウンの會堂にて、教と爲るとき、言し、所なり。
 弟子等、れうち多し。人これを見て曰ける、此、甚しき言あり。誰か能ふと
 聽んや。弟子は、此言よ、い、譏。イエス自ら知て、彼等曰ける、此言、
 因て、礙く乎。もし人、れ子の故、れ處、升と見を如何。生命と賜る者の、靈あ
 り。肉の益ありし、我あんぢら、曰し、言と靈あり。生命なり。然と、爾曹は中、

信ぜざる者あり夫イエスは如此いへるの信ぜざる者の誰かのを賣そ
 者の誰といふ事と元始より知バあり イエスよと曰けるは是故我を
 お我父あたへざる人よく我を就るあしと言ひあり 此後ろれ弟子は
 く返往てイエスと偕お行のざりき 之お因てイエス十二比弟子は曰ける
 爾曹も亦去んと意ふや シモンペテロ答けるは主よ我儕の誰か往んや永
 生は言と有る者の爾あり 又是れら信じて知あんぢの活る神の子キリスト
 あり イエス彼等お答けるは我あんぢら十二人と簡しお非ずや然と其中
 比一人は悪魔あり 此のシモンは子イスカリオテはユダと指て言るあり
 彼の十二比一人にしてイエスと賣さんとする者あり

第七章 斯事の後イエスガリラヤと經行りユダヤの中を巡るふとを欲ざり
 き蓋ユダヤ人のを殺さんと謀るべ也 偕ユダヤ人は構慮れ節ちのづけ
 り 是に於てイエスの兄弟のを曰けるは爾は行ふ所は惡しと我證をを
 んが爲るゝと去てユダヤお往 其の己と顯さんとて隠る事とるそ者あら

す爾ふれらは事と行と己と世を顯せよ 是ろれ兄弟もあは彼と信ぜざ
 るの故あり イエス彼等お曰けるは我時いまだ至す爾曹は時之恒お備れ
 り 世の爾曹と惡こと能す我と惡その彼等が行ふ所の惡しと我證をを
 あり 爾曹は節お上を我時いまだ至らざるば我いまだ此節お上らじ 如
 此いひてガリラヤお留さり 是れ兄弟は往し後イエスも昭然ならずして隠
 れ節お上る 節は時ユダヤ人イエスと尋て曰けるは彼何處お在や 衆多は
 中おて彼おけき各様はみとと言争へり或人と彼と善人ありといひ或人の
 否民と感ず者ありと曰 然とユダヤ人を懼るお因て明は彼が事といふ
 人あし〇 節は半ごろイエス殿お上りて教諭けをば ヌダヤ人あしと
 奇み曰けるは此人の未だ學ばず如何して書と識や イエス彼等お答て曰
 けるは我教る所の我教は非ず我と遣しゝ者の教あり 人もし我と遣しゝ
 者の旨は從と此教の神より出るは又己は由て言あるると知べし 己に
 由て言者の己の榮と求るあり己と遣しゝ者は榮と求る者の眞あり其衷お

不義あり。モーセ爾曹は律法と與い非ずや。然と爾曹の中あり之と守る者あり。爾曹なにゆゑ我と殺んと謀るや。衆人みなたへて曰ける。爾鬼お憑り誰か爾と殺すよと謀らん乎。イエス答て彼等曰ける。我さきお一事と行しお爾曹みる奇とせり。モーセ爾曹お割禮を授し其己より出しお非して先祖より出し者あるが故あり之お因て爾曹割禮と安息日お行ふ。人もしモーセの律法と破ざらんぶとめ安息日お割禮と受る時何ぞ我安息日お人れ全身と愈い事と怒るや。外貌およりて是非と定るよと勿き義とて定よ。此時エルサレムに或人いひける。此の人々の殺んと謀る者お非ずや。今のを明おいふ而して之と尤る者おし有司等の彼と誠おキリストありと知るらん乎。然と我儕は此人れ何處より來しと知もしキリストに來らん時は誰も其何處より來ると知者あるらん。此時イエス殿おて教とりしが大聲お呼びひける。爾曹おれと知また我いつこより來ると知さきと我の己よ由て來しお非ず我と遣しし者お眞ある者おて爾曹

れ知る所あり。我の彼と知ると我の彼より出るは我と遣しし者おをバ也。是お於て彼等イエスと執へんと謀る。然と其時いまだ至ざるが故お措手する者おかりき。民に中ねほく此人の色と信じ曰ける。キリストに來らん時お行とふるは休徴おの人より多らん乎。パリサイの人民等おイエスよ就て如此ひろのお語あふと聞そありち祭司に長等とパリサイ人お彼を執んとて下吏を遣せり。是お於てイエス曰ける。我おは片時おんぢらと偕おとり而して後おを遣しし者お往ん。あんぢら我と尋るとも遇べからず我とる所へ爾曹きさること能ざるべし。ユダヤ人相互お曰けるは我儕れ遇ざらん爲お彼何處へ往んとする乎。キリシヤお散し者お往てキリシヤに人お教んとする乎。彼が語て爾曹おを尋るとも遇べからず又おが在所へ爾曹來ること能ざる可と曰言何ぞや。節筵に未だ大日おイエス立て呼り曰ける。人も渴バ我よ來て飲。我と信する者の聖書お録し。如く其腹より活る水川に如お流出べし。如此いへるの彼と

信する者れ受んとそる靈と指るあり蓋イエス未だ榮と受ざるゆ因て靈い
 まだ降さるべあり 民れ中おて多れ人ふれ言と聞て此の誠お彼預言者あ
 りと曰 或の斯のキリストありと曰あるひのキリストのガリラヤより出
 べけんや 聖書おキリストとダビデれ裔おてダビデの住一郷ベツレヘム
 より出んと録しよお非すやと曰 是お於て民ども彼お縁て争ひ別たり
 ろれ中お彼と執んとそる者も有けきを措手せし者なりき 下吏ども祭
 司れ長とパリサイの人等れ所お返けきバ彼等下吏お曰ける何ぞ彼と曳
 來らざる乎 下吏ふたへて曰ける未だ斯人れ如く言一人おらず 下吏
 カイれ人いひける爾曹も亦惑さき一平 有司まもパリサイれ人の中お
 彼と信する者おらんや 律法と識ざる此衆れ人の罰をべき者あり 中
 中れ一人おて夜イエスお就しニコデモと云る者おをらお曰ける 其人
 お聽ず其行と知ざる先お其罪と定るの我儕れ律法おらん乎 彼等ふたへ
 て曰ける爾も亦ガリラヤより出し者あるの考見よ預言者のガリラヤよ

り出るふとある 是お於て各人家お歸をり
 第八節 イエス橄欖山お往り 味爽また聖殿お入けるが民みる彼も來けき
 を坐て彼等と教ふ 爰お奸淫と爲るとき執らき一婦ありけるが學者とバ
 リサイの人ふとイエスの所よ曳來り群集の中お置云ける 師よ此婦の
 奸淫と爲とる時ろのまも執らき一者あり 此れ如き者と石にて擲殺すべ
 しとモ一セ律法の中お命じより爾の如何お言や 如此いへるのイエスと
 試て証の由と引出さんと欲るありイエス身と屈指指めて地お畫り 彼等
 が切お問およりイエス起て之お曰ける爾曹のうち罪あき者まづ彼と石
 きて擲べいと曰 また身と屈て地お畫り 彼等みきと聞て其良心お責ら
 せ老者とをじめ少者まで一々お出往たがイエス一人のおる婦の集れ中よ立
 り イエス起て婦お曰ける婦よ爾と認し者の何處へ往しや爾の罪と定
 る者あき乎 婦いひけるの主よ誰もあしイエス彼お曰ける我を爾の罪
 と定ず往て再び罪と犯そ勿を 〇 イエスマた人々お語て曰ける我の世

の光あり我れ從ふ者ハ暗中ト行す生の光ト得あり 是ハ於テパリサイの
 人いひけるハ爾ハ自ら己レ證トあせり爾の證ハ眞ならず イエス答テ曰
 けるハ我レモ之レ己の證トするも我證ハ眞あり蓋レモ何處より來リ何處
 へ往レ知バあり爾曹也ガ何處より來リ何處へ往レ知ざるあり 爾曹ハ肉
 又循テ人レ罪ト定ム我ハ人レ罪ト定ズ 我レモ一疋ヲ我定ル所ハ眞あり蓋
 也ヲ獨ル者ハ非ズ我ト遣ハシ父ト同ハ在ル者あり 二人レ證ハ眞ありと爾
 曹レ律法ハ録セたり 且ク證トする者ハ我レあり我ト遣ハシ父モ亦且ガ
 證ト爲あり 彼等いひけるハ爾レ父ハ何處ハ在ヤイエス答けるハ爾曹之
 我ト識ス亦且ガ父トモ識ざるあり若シモト識ル者ハ我父トモ識タル
 ならん 此等レモト殿レうち袋錢ヲ箱ト置ル處にて語けと彼
 此時イマダ至レバ誰モ手ト出セ者ありキ イエス復イひけるハ我レ
 爾曹ハ我ト尋ベハ爾曹ハ此レ罪ハ死ン我レハ彼等ハ信ぜずハ己レ罪
 能ズト語り彼ハ自殺セんとする乎 イエス彼等ハ曰けるハ爾曹之下より
 出レ上より出らん此世より出レ此世より出ス 是故ハ爾
 曹ハ己レ罪ハ死ン我レハ信ぜずハ己レ罪
 又死ン 彼等いひけるハ爾ハ誰あるヤイエス曰けるハ我ハ實に我あんぢ
 らハ告ル所レ者あり 我あんぢらハ就テ語る可ムト罪ト定ム可ムト多端
 あり我レを遣ハシ者ハ眞あり彼ハ聞キ事ト我レ告ル此ハ父ト指テ言るハ
 是故ハイエス彼等ハ曰けるハ爾曹人レ子ト奉レシの
 ち我レ彼等ハ知ラズ知ラズ我レモ之レ何事モ行ズ惟且ガ父レ教ハ從ヒテ此
 等ハ事ト言ると知ベシ 我ト遣ハシ者我レト同ハあり父ト我ト獨遣ラマ
 り蓋レモ恒ハ彼レ心ハ適フ事ト行ハセあり イエス此事ト言ると多レ
 人ハ之ト信ゼリ イエス己ト信ゼシユダヤ人ハ曰けるハ爾曹もし我道ハ尼
 ハ賊ハ我弟子あり 爾曹ハ自由ト得セトベシ 彼
 等ハたへけるハ我儕ハアラハムレ裔ナリ未ダ人レ奴隸ト爲シト多ク

能ズト語り彼ハ自殺セんとする乎 イエス彼等ハ曰けるハ爾曹之下より
 出レ上より出らん此世より出レ此世より出ス 是故ハ爾
 曹ハ己レ罪ハ死ン我レハ信ぜずハ己レ罪
 又死ン 彼等いひけるハ爾ハ誰あるヤイエス曰けるハ我ハ實に我あんぢ
 らハ告ル所レ者あり 我あんぢらハ就テ語る可ムト罪ト定ム可ムト多端
 あり我レを遣ハシ者ハ眞あり彼ハ聞キ事ト我レ告ル此ハ父ト指テ言るハ
 是故ハイエス彼等ハ曰けるハ爾曹人レ子ト奉レシの
 ち我レ彼等ハ知ラズ知ラズ我レモ之レ何事モ行ズ惟且ガ父レ教ハ從ヒテ此
 等ハ事ト言ると知ベシ 我ト遣ハシ者我レト同ハあり父ト我ト獨遣ラマ
 り蓋レモ恒ハ彼レ心ハ適フ事ト行ハセあり イエス此事ト言ると多レ
 人ハ之ト信ゼリ イエス己ト信ゼシユダヤ人ハ曰けるハ爾曹もし我道ハ尼
 ハ賊ハ我弟子あり 爾曹ハ自由ト得セトベシ 彼
 等ハたへけるハ我儕ハアラハムレ裔ナリ未ダ人レ奴隸ト爲シト多ク

爾曹三三自由三三と得三三さすべしと爾三三れ言三三し如何三三ある事三三乎三三 イエス三三彼等三三曰三三ける三三誠三三實三三爾曹三三告三三ん凡三三て惡三三と行三三ふ者三三の惡三三れ奴隸三三あり三三 奴隸三三の恒三三の家三三居三三す子三三の恒三三の家三三是故三三子三三もし爾曹三三自由三三と賜三三る三三爾曹三三誠三三實三三自由三三と得三三べし 我三三あんぢら三三がアブラハム三三れ裔三三ある三三と知三三されども我三三と殺三三さんと謀三三る三三蓋三三わが道三三あんぢら三三れ衷三三在三三ざを也三三 我三三の吾父三三と偕三三在三三て見三三し三三みと三三言三三ふんぢら三三の爾曹三三比三三父三三と偕三三在三三て見三三し三三みと三三行三三ふ 彼等三三みた三三へてイエス三三曰三三ける三三の我三三儕三三れ父三三のアブラハム三三あり三三イエス三三曰三三ける三三の爾曹三三も三三アブラハム三三れ子三三あら三三バアブラハム三三れ行三三と三三あみふべし 然三三る三三今三三あんぢら三三の神三三も聞三三く真理三三と告三三る我三三と殺三三さんと謀三三る是三三アブラハム三三れ行三三ふ非三三ず 爾曹三三の爾曹三三れ父三三れ行三三と三三あみふ也三三の三三をら曰三三ける三三の我三三儕三三の奸淫三三由三三て生三三さず只三三一人三三れ父三三あり即三三ち神三三あり三三 イエス三三彼等三三曰三三ける三三の神三三もし爾曹三三比三三父三三あら三三を爾曹三三と三三愛三三すべし 我三三の神三三より出三三て來三三を三三あり夫三三と三三の己三三み由三三て來三三る三三非三三ず神三三と三三遣三三し給三三へる三三あり 爾曹三三あんぢら三三我三三いふ言三三と知三三ざるや蓋三三とが道三三と聽三三ふと

と得三三さ三三を也三三 爾曹三三己三三の父三三ある三三惡魔三三より出三三また其父三三れ怨三三と行三三ふ三三とを欲三三む彼三三の始三三より人三三と殺三三と者三三あり又真理三三居三三す蓋三三のをれ衷三三實三三理三三あけを三三バ也三三 の三三が証三三と言三三とさ三三の己三三より出三三して言三三あり蓋三三のをれ証三三者三三また証三三者三三れ父三三ある三三バ也三三 是三三真理三三と言三三ふ因三三て爾曹三三と三三と信三三ぜず 爾曹三三れ三三うち誰三三の我三三と罪三三あ三三定三三る者三三ある三三乎三三と三三爾曹三三實三三理三三と語三三る三三何故三三と三三と信三三ぜざる三三乎三三 神三三より出三三し者三三の神三三れ言三三と聽三三あんぢら三三れ聽三三ざる三三の神三三より出三三ざる三三因三三てあり 二三三マヤ三三人三三みた三三へて曰三三ける三三の爾三三のサマリア三三人三三あて鬼三三憑三三る者三三ありと我三三儕三三が言三三る三三の宜三三ならず乎三三 イエス三三答三三て曰三三ける三三の我三三の鬼三三憑三三たる者三三に非三三ず我三三の吾父三三と三三尊三三び爾曹三三の我三三と輕三三ん三三ざる也三三 我三三の自己三三れ榮三三を求三三めず之三三と求三三る三三つ罪三三を定三三る所三三れ者三三あり 是三三誠三三實三三爾曹三三告三三ん人三三も三三我道三三と守三三ら三三を窮三三く死三三と見三三ざるべし 二三三マヤ三三人三三のを曰三三ける三三の今三三わをら三三の爾三三が鬼三三憑三三る者三三ある三三と知三三アブラハム三三既三三死三三また預言三三者三三も死三三り然三三る三三爾三三いふ人三三もし我道三三と守三三ら三三を窮三三く死三三じと 爾三三の我三三儕三三れ先祖三三アブラハム三三より三三も優三三る者三三あらん乎三三ア

プラハム既（五十四）お死預言者たちも死（五十五）り爾（五十六）とづらと誰（五十七）と爲（五十八）る イエス答（五十九）ける
 の我（六十）もし自ら榮（六十一）とあさバ我榮（六十二）の虚（六十三）し我（六十四）と榮（六十五）る者（六十六）の我父（六十七）をあ（六十八）のち爾曹（六十九）は我
 神（七十）と稱（七十一）る所（七十二）の者（七十三）あり 爾曹（七十四）の彼（七十五）と識（七十六）す我（七十七）の彼（七十八）とある我（七十九）もし彼（八十）と識（八十一）すと言
 を爾曹（八十二）の如（八十三）き証者（八十四）と爲（八十五）ん然（八十六）と我（八十七）の彼（八十八）と識（八十九）す其道（九十）と守（九十一）るあり 爾曹（九十二）の先
 祖（九十三）アブラハム（九十四）の我（九十五）日（九十六）と見（九十七）んみと喜（九十八）び且（九十九）こそと見（一百）て樂（一百一）めり ヌマヤ人（一百二）の
 きお日（一百三）けるの爾（一百四）いまだ五（一百五）十（一百六）も及（一百七）ざるおアブラハム（一百八）と見（一百九）トヤ イエス彼
 等（一百二十）お日（一百二十一）けるの誠（一百二十二）お實（一百二十三）も爾曹（一百二十四）お告（一百二十五）ん我（一百二十六）のアブラハム（一百二十七）の有（一百二十八）ざりし先（一百二十九）より在（一百三十）者
 あり 是（一百三十一）お於（一百三十二）て衆人（一百三十三）の色（一百三十四）と撃（一百三十五）んとて石（一百三十六）と取りイエス（一百三十七）隠（一百三十八）て其中（一百三十九）と過（一百四十）り殿（一百四十一）と
 出（一百四十二）行（一百四十三）り

第九章 イエス行（一）こき生（二）來（三）ある替（四）と見（五）しグニろれ弟子（六）の色（七）お問（八）て日（九）けるの
 ラビ（十）此人（十一）の替（十二）お生（十三）し誰（十四）れ罪（十五）あるや己（十六）お由（十七）の又（十八）二親（十九）お由（二十）か イエス答（二十一）け
 るの此人（二十二）は罪（二十三）お非（二十四）ず亦（二十五）ろの二親（二十六）は罪（二十七）おも非（二十八）ず彼（二十九）お由（三十）て神（三十一）比（三十二）作（三十三）爲（三十四）れ顯（三十五）せん
 ため也 晝（三十六）の間（三十七）の我（三十八）るあ（三十九）らす我（四十）と遣（四十一）しと者（四十二）れ行（四十三）とあ（四十四）す可（四十五）あり夜（四十六）きたらん

其（一）とさ誰（二）も行（三）とあ（四）すも能（五）のす 己（六）と世（七）お在（八）時（九）の世（十）の光（十一）あり 此事（十二）と言
 て地（十三）お唾（十四）し唾（十五）おて土（十六）と和（十七）ろの泥（十八）と替（十九）者（二十）の目（二十一）お塗（二十二） 彼（二十三）お日（二十四）けるのシロア
 の池（二十五）お往（二十六）て洗（二十七）へ彼（二十八）すあ（二十九）のち往（三十）て洗（三十一）ひ目（三十二）見（三十三）みと得（三十四）て歸（三十五）きりシロアム（三十六）之（三十七）と
 隣（三十八）を遣（三十九）されし者（四十）どの義（四十一）あり 隣（四十二）れ人々（四十三）および素（四十四）より彼（四十五）れ乞（四十六）食（四十七）ありしと見
 し者（四十八）等（四十九）いひけるの此（五十）の坐（五十一）て物（五十二）と乞（五十三）し人（五十四）あ（五十五）らず乎（五十六） 或（五十七）人（五十八）の彼（五十九）ありと日（六十）ある
 人（六十一）の似（六十二）たる也（六十三）といふ彼（六十四）いひけるの我（六十五）の彼（六十六）あり 彼等（六十七）いひけるの爾（六十八）の目
 の如何（六十九）して啓（七十）たるや 答（七十一）て日（七十二）けるのイエスといふ人（七十三）土（七十四）と和（七十五）と目（七十六）お塗（七十七）て
 云（七十八）シロアム（七十九）の池（八十）お往（八十一）て洗（八十二）こ我（八十三）ゆきて洗（八十四）けきを目（八十五）見（八十六）こと得（八十七）たり 人々（八十八）の
 きお日（八十九）けるの彼（九十）の何處（九十一）お在（九十二）や答（九十三）て知（九十四）すと日（九十五） 彼等（九十六）の替（九十七）ありし者（九十八）とパリ
 サイ（九十九）れ人（一百）れ所（一百一）は携（一百二）詣（一百三）きり 土（一百四）と和（一百五）てイエス彼（一百六）が目（一百七）と啓（一百八）し日（一百九）の安息日（一百二十）あり
 泥（一百二十一）と我（一百二十二）目（一百二十三）お置（一百二十四）わき其（一百二十五）と洗（一百二十六）て見（一百二十七）こと得（一百二十八）たり 或（一百二十九）パリサイ（一百三十）の人（一百三十一）いひけるの
 此人（一百三十二）安息日（一百三十三）と守（一百三十四）ざるが故（一百三十五）お神（一百三十六）より出（一百三十七）しお非（一百三十八）ず或（一百三十九）人（一百四十）いひけるの罪人（一百四十一）い（一百四十二）ので

斯^カる奇跡^{キセキ}と行^{ユク}ふことと得^エんや是^{コト}は於^カて彼等^{カレラ}あらそひ別^ワたり十七また替^カ者^シ又
 曰^{イハ}けるの爾^ニの目^メと啓^アしよより爾^ニの事^{コト}と何^{ナニ}と言^{イハ}や答^{コタ}へけるの彼^{カレ}の預^ヨ言^{コト}者^シ
 あり十八ユダヤ^{ユダヤ}人^{ヒト}の色の替^カ者^シありしを見^ミ得^エやう爲^ナしよと其^カ二親^ニを呼^ヨ來^キる
 までの信^シぜず即^スち二親^ニと呼^ヨ來^キりて十九之^レに問^ヒけるの此^{コノ}人^ノの替^カ者^シあて生^ナしと
 言^{イハ}ふとあるの爾^ニ曹^{ソウ}れ子^シあるの今^{イマ}いりやして見^ミよと得^エたる手^テ二十二親^ニのをらお
 答^{コタ}へけるの此^{コノ}我^ガ子^シあると生^ナ來^キの替^カ者^シあると知^シ然^{シテ}今^{イマ}如何^ニして目^メ明^カか爲^ナ
 する我^ガ儕^{ライ}あると知^シ亦^モそれ目^メと啓^アし誰^{タレ}ある乎^カと知^シ然^{シテ}今^{イマ}如何^ニして目^メ明^カか爲^ナ
 問^タよ彼^{カレ}とづら言^{イハ}べし二三二親^ニは如此^{カク}いひしにユダヤ^{ユダヤ}人^{ヒト}と懼^{オソ}しお因^ユるのイ
 エスとキリスト^{キリスト}と言^{イハ}明^カそ者^{モノ}あらば會^カ堂^{ドウ}より出^イてよとユダヤ^{ユダヤ}人^{ヒト}たがひお
 議^ギ定^メよとを也三三二親^ニの彼^{カレ}の年^{トシ}長^{ナガ}あり彼^{カレ}又^{マタ}問^タよと言^{イハ}し此^{コノ}故^ユあり三四替^カ者^シあり
 し者^{モノ}と復^{マタ}よびて曰^{イハ}けるの榮^{ホノ}を神^{カミ}お歸^カせよ我^ガ儕^{ライ}の彼^{カレ}人^{ヒト}は罪^{ツミ}人^{ヒト}あると知^シ
 を答^{コタ}へけるの罪^{ツミ}人^{ヒト}なるや否^{イナ}とを之^レと知^シ我^ガの替^カ者^シありしを今^{イマ}目^メ明^カかなる
 此^{コノ}一^{ヒト}事^{コト}と知^シ彼等^{カレラ}また曰^{イハ}けるの彼^{カレ}は爾^ニ何^{ナニ}と行^{ユク}や如何^ニして爾^ニは目^メと啓^ア

しや三七答^{コタ}へけるの我^ガすでお爾^ニ曹^{ソウ}お言^{イハ}しお爾^ニ曹^{ソウ}きかぞ何^{ナニ}故^ユふとよび聞^クんとそ
 るの爾^ニ曹^{ソウ}も其^レ弟^テ子^シお爲^ナんと欲^ホふや三八のをら語^カり曰^{イハ}けるの爾^ニの其^レ人^{ヒト}は弟^テ子^シわ
 をらぬもーせは弟^テ子^シあり三九神^{カミ}はもーせお語^カりし言^{コト}の我^ガ儕^{ライ}しをり然^{シテ}此^{コノ}人^ノ
 何^{ナニ}處^{トコロ}より來^キる乎^カと我^ガ儕^{ライ}しらす四〇其^レ人^{ヒト}あへへけるの此^{コノ}奇^キ事^{コト}あり彼^{カレ}とで
 お我^ガ目^メと啓^アしお其^レ何^{ナニ}處^{トコロ}より來^キると爾^ニ曹^{ソウ}おらずと曰^{イハ}神^{カミ}の罪^{ツミ}人^{ヒト}お聽^キす然^{シテ}
 ぞ神^{カミ}を敬^{オヤ}ひて其^レ旨^ミお遵^ユふ者^{モノ}おの聽^キたまふと我^ガ儕^{ライ}の知^シ世^セの元^{ハジ}始^メより以^テ來^リ
 うまをけきある替^カ者^シの目^メと啓^アし人^{ヒト}あると聞^クす四三も此^{コノ}人^ノ神^{カミ}より出^イずバ何^{ナニ}
 事^{コト}も行^{ユク}得^エざるべし四四彼等^{カレラ}あへへて曰^{イハ}けるの爾^ニの盡^{ツク}く罪^{ツミ}孽^{ノチ}お生^ナし者^{モノ}ある
 お反^カて我^ガ儕^{ライ}と教^カるか遂^ツにお彼^{カレ}と逐^オ出^スせり四五彼等^{カレラ}が逐^オ出^スしよとと聞^クイエス
 尋^タて之^レお遇^アいひけるの爾^ニ神^{カミ}れ子^シと信^シする乎^カ答^{コタ}て曰^{イハ}けるの主^シよ彼^{カレ}とて
 我^ガ信^シすべき者^{モノ}の誰^{タレ}あるや四七イエス曰^{イハ}けるの爾^ニをてお彼^{カレ}ととる今^{イマ}あんど
 言^{イハ}者^{モノ}のろをあり四八主^シよ我^ガ信^シすと曰^{イハ}て彼^{カレ}と拜^ヒせり四九イエス曰^{イハ}けるの我^ガ審^シ判^サ
 せん爲^ナお世^セお臨^ミる即^スち見^ミざる者^{モノ}としてと見え見る者^{モノ}と反^カて替^カと爲^ナしむ五〇イ

告よ イエス答けるの我あんぢらお告しかごも爾曹信ぜず父れ名お託て
 我が行ふ事とを就て證するあり 然と爾曹信ぜず此と爾曹お言一如く
 我羊お非ざをば也 我羊の我聲を聴とをの彼等と識ををら我お從ひ
 を彼等お永生と賜ふ彼等いゆまでも亡びず亦もと我手より奪ふ者あ
 考 我お彼等と賜し吾父の萬有よりも大あり又お父れ手より之と奪う
 る者あし 我と父との一あり 是お於てユダヤ人石ととりて復のをと撃
 んとせり イエス彼等お答けるの吾父より受て我おほくは善事と爾曹お
 示とお其うち何の事およりて我と石よて撃んととる手 ヌダヤ人おたへ
 て曰けるの石よて撃んととるの善事の爲に非ず爾ととる手 ヌダヤ人おたへ
 なんぢ人あるお己と神とをそお因てあり イエス答けると爾曹は律法お
 我いふ爾曹の神ありと録さき志お非ずや 聖書の毀る可らず若神の命と
 奉し者を神と稱んおと 父の聖別ちて世お遺志と者とをの神れ子ありと
 稱ばとて何予之と裏瀆ふこといふと曰べけん乎 もし我とが父の事と行

すお我お信ずるものと勿き 若もそと行ハ我お信ぜずとも其事と信ぜよ蓋
 父の我おあり我の父お在ふとを爾曹志りて信ぜんが爲あり 彼等また執
 んととるりしがイエスおれ手と脱て去り 斯て復ユルダンの外あるヨハ
 子のハアサマと施法と所お往て彼處に居けるお 多の人をを至り曰
 けるのヨハ子は休徴と行す然とも此人おゆきてヨハ子のいひし言のみあ
 具あり 是お於て許多の人をしみおて彼と信ぜり

第十一章

茲お病者ありラザロと云てベタニヤ人ありベタニヤのマリア
 と其姉マルタは住る村なり マリアの癩お主お香膏とぬ己の頭の髪を
 もて主れ足と拭一人おて此病るラザロの彼お兄弟あり 是故おそは姉妹
 イエスの所お主れ愛をる者病りと遺せり イエスこをと聞て曰けるの
 此の死る病お非ず神は榮れ爲あり神れ子として之お因て榮と得しめんが
 爲おめ 夫マルタと其妹およびラザロのイエスは愛をる所れ者あり 是
 故おイエスお病ると聞て此處よ二日とをなり 其れち弟子お曰けるの

我儕まゝユダヤ人往べし 弟子いひけるのラビユダヤ人の近來も石をも
て爾を撃んとせしむ復あしむ往たまふ乎 イエス答けるの一日れ中
十二時ある非ずや人もし日問あるのバ蹟くみどあし蓋ふれ世れ光と見
ふ因てあり また人も一夜あるのバ蹟くべし蓋光るれ人無ク故あり
イエス如此いひて後弟子いひけるの我儕れ友ラザロ寝たり我の色と醒さ
ん爲る往べし 弟子いひける之主よ彼もし寝しあらば愈ん イエスの彼
れ死しと言ふるを弟等も寝て臥るみどと言ふならんと言ふ 是故
イエス明あ彼等告て曰けるのラザロの死す 爾曹として信せしむる爲
あ我のいふ在ざりしと喜ぶ然といま彼處往べし デドモと稱するトマ
ス他れ弟子等いひけるの我儕も亦ゆきて彼と偕あ死べし イエス至てラ
ザロ既あ墓あ葬きて四日あるを知り 二十八ニヤハエルサレム近し其
距離は約る廿七丁あり 十九のユダヤ人マルタとマリアを其兄弟れ事あ
因て慰めんて既あ彼等の所あ來りときり 三 マルタのイエス來給へりと

聞て之を迎へマリアは室あ坐せり 三 マルタイエス曰けるの主よ
此れ在せしあらば我兄弟の死ざりしものよ 然あがら假令今あても爾が
神あ來る所れあれ神あんぢあ賜ふと知 三 イエス曰けるの爾れ兄弟の
あめし 三 凡て生て我と信する者之復生あり生命あり我と信する者あ死ると
や言ふ 三 凡て生て我と信する者之復生あり生命あり我と信する者あ死ると
子あ曰信ず 如此いひ竟て潛あ其妹マリアとよび師きたりて爾を呼た
まへり 三 曰 三 マリア之とき急ぎ起てイエスれ所あ往り 三 イエス未だ村
あ入り初マリアが急ぎ起出ると見て彼の墓あ往て哭あらんと曰つと彼あ隨へり
三 在せしあ我兄弟の死ざりしものと 三 イエスマリアは哭と彼と偕あ來

しユダヤ人は泣いて見て心と慟いめ身ふるひて 曰けるの爾曹何處に彼と
 置しや彼等いひける之主よ來て觀さまへ イエス涕と流たまへり 是は
 於てユダヤ人いひけるの見よ如何をのり彼と愛する者ぞ うち中ある人
 曰けるの替者れ目と啓たる此人おして彼と死ざらしむるも能ざりし乎
 三九 イエスまよ心と慟いめて墓に至る墓の洞めて其口は所お石と置り
 四〇 イエス曰けるの石と去よ死し者れ兄弟マルタ曰けるの主よ彼の之や臭し死
 四一 てより己お四日と經たり イエス彼お曰けるの爾もし信ぜば神は榮と見
 四二 べしと我あんぢお言しお非すや 遂お其石と死し者と置さる所より移去
 四三 ためイエス天と仰きて曰けるの父よ己お我お聽り我お立る人として爾れ
 四四 あんぢが恒お我お聽みと知まゐるお我おく言の傍お立る人として爾れ
 四五 我と遣はしことと信ぜしめんさて也 如此いひて大聲お叫ひひけるのラ
 四六 サハよ出よ 死者布おて手足と縛れ面之手巾おて裏をて出 イエス彼等お
 四七 曰けるの彼と釋て行しめよ マリアと偕お來しユダヤ人イエスれ行し事

と見て多く彼と信せり 然ども其中おパリサイ人お往てイエスれ行し
 四七 事と告し者あり 是は於て祭司は長等とパリサイ人と議員と召集めて
 四八 曰けるの我儕如何とべき乎この人多は奇跡と行あり もし彼と此まよ
 四九 ん棄置を人とる彼と信せん然らば人きたりて我儕の地とも民とも奪
 五〇 べし 其中一人おて此歳は祭司は長なるカヤパと云る者彼等お曰ける
 五一 の爾曹何とも知す 又民は爲お一人死て舉國ほろびざるの我儕は益たる
 五二 事とも思ざる也 此言の己より出しお非ず此歳は祭司は長あるおよりイ
 五三 エスは斯民は爲お死るおと預言せるあり 特お斯民は爲おれみあらず散
 五四 たる神は子民等とも一お集んが爲あり 偕おれ日よりあて彼等イエスと
 五五 殺さんと共お議る 是故おイエス此より顯おユダヤ人中と行かず其處
 五六 と去て野お近き所あるエンライムといふ邑お往て弟子と偕お留まり 五五
 五七 ヲ人れ逾越は節ちのゆきけを人々己と潔んが爲お逾越は節は前お郷間
 五八 よりエラスレムお上り 五九 イエスと尋ね殿お立て相互お曰けるの如何お意

や彼は節筵いはいお來きたざる乎や 祭司いらいは長等ながたちとパリサイ人いせいじんと己おのれお命いのちと出いちて若わかイエスは所在あひかりとまる人ひとあらを告つべいと云いふに彼かれと執とらんととる也なり

第十二節 逾越すくす越こは節いはいは六日前むつかみイエスベタニヤベタニヤに至いたる此處こゝに即すなはち死にて甦よみがりしラ

ザロザロは在所きこころなり 是こゝに於おて或ある人々ひとの處ところに於おてイエスお筵いはい席せきと設たまくマルタ

給たま仕せと爲なりラザロラザロもイエスと偕ともお坐ませる者のうち一人ひとりあり マリアマリアの

眞正まことのナルママある價あたいたるき香膏にほひのあぶら一斤いちじんと携も來きたりてイエスは足あしに塗ぬりた己おのれが頭

髪かみにて其足そのあしと拭ぬぐへり膏あぶらはほひ徧あまく室内いへのうちに満みちり 是こゝに弟子でしは一人ひとりあるイ

スカリオテスカリオテのユダユダ即すなはちイエスと賣わたさんとする者ものいひけるに 此香膏こゝのあぶらと何

ぞ銀ぎん三百さんひゃくお售うて貧者むしうに施ほさる乎や 彼かれが如此かくいへるに貧者むしうと願ねがふ非あらず竊ぬす

者ものおて且かつ金囊かねいと帶おそれ中うちに入いたる物ものと奪うふ者ものなきバ也なり イエス曰いけるに

彼かれお與ある勿なわが葬くわいの日ひは爲なる之これと貯たくわへたり 貧者むしうの常つねお爾曹なんそうと偕ともお在ある

を我われの常つねお爾曹なんそうと偕ともお在ある 多おほのユダヤ人ユダヤじんイエスお此こゝに在あると知しりて來きたる特

おイエスは爲なるのみお非あらず亦またるは死しより甦よみがりしと所ところはラザロラザロとも見みんと欲ほす

るあり 祭司いらいは長等ながたちラザロラザロとも殺ころさんとする謀はかる 蓋なほラザロは故こゝに因よりて多おほく

ユダヤ人ユダヤじんゆきてイエスと信しんずるがゆゑ也なり 明日あしたおほくの人々ひと節筵いはいお來きた

りイエスのニルサレムニルサレムお來きたらんととるを聞きく 櫻欄じゆらんは葉はと取とりきて彼かれと迎むかへ

ホザナホザナと主しゆは名なお託たくて來きたるイスラエルイスラエルは王わうの福ふくありと呼よびをり イエス驢ろ

馬ばは子こと得えて之これお乘のり 録ろくしてシオンシオンの女むすめは懼おそるゝ勿なを視みよ爾なんの王わうの驢ろ馬ば

は子こお乘のりて來きたるとあるが如ごとし 弟子でしたち初はじめに此事このことと曉さざりしがイエス榮さかえ

受うけ後のちお彼等かれら此事このことの彼かれおついで録ろくさき且またるは事ことと人々ひと彼かれお行おこひたりしと

憶おもひ起おせり イエスはラザロラザロと慕ほよを呼よび出して甦よみがりしと時ときの色いろと偕ともお居おりし

者ものとも證あげと爲なり 彼の休徵しよめいと行なしむると聞きしと因よりて人々ひと彼かれと迎むかへんとあるあり

是こゝに於おてパリサイ人いせいじんたがひお曰いけるに爾曹なんそうが謀はかる所の益えきあると知しる

や見みよ世よの皆みなかきお徒たへり 禮拜らいはいのため節筵いはいお上のぼる者ものは中うちにおギリシ

ヤの人ひとあり 彼等かれらがリラヤリラヤ乃なベツサイベツサイは人ひとあるピリポピリポお來きたり求もとめて曰いけ

るに君きみよ我儕われらイエスお見みえんふと欲ほふ 彼かれら來きたりてアンデレアンデレお告つげ

と見者の我と遣し者と見なり 我の光ありて世に臨み凡て我と信する者として暗く居ざらしめん爲なり 人もし我が言と聞て守らざるとも其罪と定そ我來しの世の罪と定んとめ非ず世と救んため也 我と棄ての言と納ざる者れ罪と定る者あり即ち我いひし言とのりれ日みきが罪と定べし 蓋わを己より言ひ非ず我と遣し父とが言べきこと我のする可ふと命と給へる也 子の命と給ふ所の即ち永生あるを我しる是故に我いふ所の父れ告給ふまう言るあり

第十三章

躑越れ節は前ふイエス此世と去て父に歸るべき時いたるをしり世又在し己れ民と既ち愛し終るまで之と愛せり 時お彼等晩飯は席

おつく悪魔のゐねてイエスと賣んとする事とシモンは子イスカリヤテはユダといふ者れ心お發さめめたり 三 イエス己の手お父は萬物と賜しめと神より來り神お歸るふとと知 晩飯は席と起て上衣とぬぎ手巾と取て腰お束 而して盤に水といき弟子の足と濯るは束する手巾おて拭とじめ

六 遂おシモンペテロお及ぶペテロ彼お曰けるい主よ爾はの足と濯ふの

イエス答て曰けるい我爲ふとと爾いし知す後こそと知べし 八 ペテロ彼お曰けるい爾斷て我足と濯べのらすイエス答けるい若と濯ずは爾の我と干渉し 九 シモンペテロ彼お曰けるい主よ止お我足れとみらず手と首と濯さまへ 十 イエス曰けるい濯たる者の足は濯ふお及ぶ然して全く潔し爾曹と潔し然ども盡くの潔者お非ず 此のイエス己と賣んとする者れ誰あると知ゆるお盡くの潔者お非ずと曰るあり 十二 彼等れ足を濯し後ろれ上衣と取まゝ坐て彼等お曰けるい我あんぢらお行し事と知の 爾曹とと師と呼まゝ主と呼あんぢらの言とあるの宜とをの誠お是あり 十四 我の爾曹れ師また主あるお尙あんぢらの足と濯ふ爾曹も亦とがひお足と濯ふべし 十五 我あんぢらお例と示せり此の我あんぢらお行し如く爾曹も行しめんが爲なり 十六 是誠お實に爾曹お告ん僕の其主より大あらず又使者の之と遣す者より大あらず 十七 爾曹もし之と知て此の如く行ば福あり 十八

我いひし所の爾曹と凡て指るに非ず我と我選し者と志る然も聖書
 我と偕お食する者も背て踵と擧しと録さしお應せん爲あり
 事に至らん時あんぢら我と信じてキリストとせん爲お其事の至る今よ
 り之と爾曹お告 誠お實に爾曹お告ん我遣と者と接るの我と接るあり我
 と接るの我と遣とし者と接るあり 三二
 けるの誠お實に爾曹お告ん一人なんぢられ中お我と賣者あり 弟子たち
 互お面と觀あてせ誰と指て言るある乎と疑ふ 三三
 子イエスに懷お倚てありしが シモンペテロ此の誰と指て言るある乎を問し
 めんと首とめて示せり 三四
 誰あるの イエス答けるの我一撮の食物お物と濡てする人の其ありとて
 遂お一撮れ食物お物と濡てシモンに子イエスカリヲテ乃ユマお予ふ 彼
 一撮れ物と受し其時サタン彼入り是お於てイエス彼お曰けるの爾が爲んと
 する事は速にお爲せ 彼お何故お如此いひしのと同お席お在者どもれ中志

る者あらざりき 或人ユマの金囊と職とる故イエス彼として節筵ふつ
 て用べき物と市にむるあらん亦の貧者お施さしむるあらんと意り 三
 のをの一撮れ食物と受て直お出より時と既お夜ありき 彼れ出後イエ
 ス曰けるの今人れ子榮とよく神また彼お因て榮と受るあり 神もし彼お
 因て榮と受る時は神も亦とつらの榮れ中お彼と榮しむ直お彼と榮とめ
 ん 小子よ我おほ片時あんぢらと偕おあり爾曹とを尋ん我ゆく所又爾
 曹の至るお能じ前お之とユマヤ人おいふ今また之と爾曹お告 三
 誠と爾曹お予ふ即ち爾曹相愛すべしとれ是あり我あんぢらと愛とる如
 く爾曹も相愛をべし 爾曹も相愛せば之と因て人々爾曹の我弟子ある
 ことと知べ志 シモンペテロ彼お曰けるの主いづみへ往給ふやイエス彼
 に答へけるの我往どころへの爾いま從ふお能す後とせお從とん 三
 口彼お曰けるの主よ何故お今あんぢら從ふお能ざるの我の爾れ爲お我命
 と捐ん イエス彼お答けるの爾命と我ためお捐るや誠と實お爾お告ん

あるざる前ま爾なんぢ三次さんじときと識しすとい言いん

第十四章 あんぢら心こころを愛あふること勿なし神かみと信まじ亦またときと信ますべし 二 わが父ちち

は家いへおと第宅だいたくおやし然しからず我われ預あて爾曹なんぢらお之のと告つぐべきあり我われあんぢらに爲なる

お所ところと備そなへ往ゆくをし往ゆて我われあんぢらに爲なるお所ところと備そなへ又またさとりて爾曹なんぢらと我われ

お納うべし我われとる所ところ又また爾曹なんぢらとも居ましめんとて也なり 爾曹なんぢらが往ゆ所ところと知しるまた其その

途みちと知しるトマス曰いけるハ主あれ我われ儕れいあんぢらの往ゆ所ところと知しる何いかして其途みちと知しる

んや 六 イエス彼かれ曰いけるハ我われの途みちあり眞まきあり生命いのちあり人ひとも一ひと我われ又また由よびを

を父ちちに所ところを往ゆくも能あたはず 若もあんぢら我われと識しる吾父わがちちとも識しるべし今いまより爾曹なんぢら

のれと識しるあり已すでに爾曹なんぢら彼かれと見みたり 八 ピリポ彼かれ曰いけるハ主あれ我われ儕れいお父ちちと

示あし給たまへ然しかるを足たり 九 イエス彼かれ曰いけるハピリポ我われのく久ひさしく爾曹なんぢらと偕ともにお在あり

一ひとお未いまだ我われと識しるの我われと見みる者ものの父ちちと見みるあり何なんぞ父ちちと我われ儕れいお示あせと

言いや 十 父ちちおとり父ちちに我われお在あると信まじと信まぜざる乎いかんは爾曹なんぢらお語かたり言いひの自みづか

ら語かたりしお非あらず我われおとる父ちちら行ゆくとあせる也なり 我われの父ちちおとり父ちちときお在あると

我われのげし言いひと信まぜよ若も信まぜずを我われ事ことお因よりて之のと信ますべし 十二 誠まことお實まことお爾曹なんぢら

お告つぐ我われと信まする者ものの我われ行ゆくところの事ことと行ゆく且かつ此こゝより大たいある事ことと行ゆべし

蓋おほわを吾父わがちちへ往ゆくをあり 十三 爾曹なんぢらすべて我われ名なを託たくて求もとむ所ところれはとどの我われをすべて

之のと行ゆん父ちちの榮さかれ子こお因よりて顯あはせんが爲ためあり 十四 もし若もあんぢら何なん事ことおても我われ名なお

託たくて求もとむ我われおとる父ちちに 十五 若もあんぢら我われと愛あひするあらを我われ誠まことと守まもる 十六

を父ちちお求もとむ父ちちかゝるす別べつにお慰なぐさめる者ものと爾曹なんぢらお賜たまはる窮あるく爾曹なんぢらと偕ともにお在あるむ

べし 十七 此こゝの即すなはち眞理まことは靈たまあり世よを接あはるものと能あたはず蓋おほむと見みず且またあら

ざるお因よりさきと爾曹なんぢらの之のと識しるの彼かれあんぢらと偕ともにお在あるのの爾曹なんぢらは裏うらにお在ある

をあり 十八 我われあんぢらと捨すてて孤子かみなしとせず再またあんぢらにお就まる 十九 暫しばらくせを世よと

と見みることあし然しかる爾曹なんぢらと我われと見みるを生きを爾曹なんぢらも生いせん 二十 され日ひお爾曹なんぢらと

を吾父わがちちお在あるんぢら我われお在あるとは爾曹なんぢらに在あると知しるべし 二十一 我われ誠まことと有あらて之のと

守まもる者ものの即すなはち我われと愛あひするあり我われと愛あひする者ものの吾父わがちちお愛あひせらる我われも亦またお

と愛あひして彼かれお自己みづから示あすべし 二十二 イスカリヲテあらざるニヤ彼かれお曰いけるハ

主よ如何して自己と我儕われら示し世の示さる乎三三 イエス答て彼曰ける若人もしと愛せば我言と守ん且わが父の之と愛せん我儕きたりて彼と借かかり往べし 我と愛せざる者の我言と守らざる爾曹の聞とあるの言の我言に非ず我と遣つかはし父は言あり 父を爾曹と借かかり在て此等れあると爾曹お語ぬ 父が名お託て父は遣さんとする訓慰師をあると聖靈の衆理と爾曹お教へ亦父が凡て爾曹お言いよとと爾曹も憶起さしむべし 父を平安と爾曹お遣と我平安と爾曹お予ふ我あたふる所の世に予る所は如きお非ず爾曹心お憂る勿き又懼る勿れ 我ゆきて復あんぢらお來らんと我曰し言と爾曹きけり若しれと愛せば父お往と我いへる言と爾曹喜ぶ可あり蓋とが父の我より大あるべ也 事いまだ成ず我まば爾曹もつぐ事成んときお爾曹も信すべき為あり 此後わを多れ言ともて爾曹お語じ蓋は世に主きたる故あり彼とを與るふとなし 然ど我もを爲り我の父と愛し且るれ命ぜしよとお遣ひて行ふよとと世お知しめんが爲る起よ我

儕も去べし

第十五章 我の眞は葡萄樹の父の農夫あり 我お在て凡て實と結ざる枝の父もを剪除すべし 實とむすぶ枝の之と潔む蓋ますく繁く實と結ばるめん爲あり 今あんぢら我曰し言よりて潔るきり 爾曹も居さるらば我また爾曹お居ん枝もし葡萄樹お連らざるを自ら實と結ぶよと能ず爾曹も我お連らざるを亦此に如らん 我の葡萄樹あんぢらの其枝あり人も我お居さるを亦此に如らん 蓋もし爾曹もを離るる時何事とも行能ざる也 人もし我お居さるを離たる枝の如く外お棄らきて枯るあり入るをと集め火お投入て焚べし 爾曹もし我お居た我いひし言あんぢらお居を凡て欲ふとよろ求お從ひて予らるべし 爾曹おほくは實と結むる吾父こそお由て榮とゆく然ば爾曹もが弟子あり 父の我と愛し給ふ如く我あんぢらと愛す爾曹もが愛おとせ 若あんぢら我誠と守らば我愛お居ん我父が父は誠と守て其愛お居る如し 我この

事と爾曹お語るの我が喜あんぢららわ在て爾曹は喜と盈ちめんが爲あり 我
 んぢららと愛する如く爾曹も亦たがひお愛すべし是とが誠なり 人ろれ
 友の爲お己れ命と捐るの此より大ある愛のあし 凡て我あんぢらら命す
 る所の事と行の則ち我友あり 今より後とを爾曹と僕と稱す蓋僕の其
 主は行ふと知さるをあり我をさお爾曹と友と呼り我あんぢらら吾父よ
 り聞出所のみとと盡く告しお縁 あんぢらら我と選す我あんぢらら選べり
 且爾曹として往て質と結せ其實と存しめんが爲また爾曹は凡て我名お託
 て父お求ふ所の者として彼として爾曹お賜らせんが爲お我あんぢららと立たり
 んぢらら互に愛せんがため我をと命す 世もし爾曹と惡とさの爾曹
 よりも先お我と惡と知 爾曹もし世の屬あらを世の己れ屬と愛とべし然
 と爾曹の世に屬あらす我あんぢららを世より選たり之お因て世あんぢらら
 惡む 僕の其主より大あらすと我あんぢらら曰し言を心お記よ人もし我
 を窘迫を爾曹とも窘迫もし我言と守を爾曹は言をも守るべし 然と彼等

の我を遣し者と識ざるお因とが名れ故とめて此等れ事と爾曹お加べ
 我もし来て語りあらば彼等罪なからん然と今の其罪いひひらく可
 やらあし 我と惡む者の亦とが父とも惡なり 我もし他れ人れ行ざりし
 事と彼等れ中お行のざりあらば彼等罪あらん然と我と吾父と己お
 見のゆ之と惡めり 此れ如の彼等れ律法お故おくして我と惡めりと録し
 言お應せん爲あり 是を訓慰師と父より遣らん即ち父より出る眞理は靈
 んぢらら其きたる時とが爲お證とあすべし 爾曹も亦とを借に始より在し
 お因て證と作べし

第十六章 此等れ言と爾曹お語るの爾曹は礙るさうん爲あり 衆人
 んぢららと會堂より驅くべし且とて爾曹と殺す者をつら神お事ると意
 ふ時至らん 此等れ事と爾曹お行の父と我とと識ざるが故なり 我お
 きと爾曹お語るの時いたりて我おと事と爾曹は憶起ん爲あり 衆
 んぢらら爾曹お語りあり我あんぢららと借お在るべ也 我いま我と遣し

者お往んとす然と爾曹比中をよ何處へ往と問る者あく 反て我の事
 と言しお因て憂るんぢられ心よ盈り 七 是を具と爾曹お告ん我往の爾曹の
 益なり若由のすバ訓慰師あんぢらふ來じ若ゆるバ彼と爾曹お遣らん 八
 を來らんとさ罪おつき義おつき審判おけき世と考て罪ありと曉めめん 九
 罪お就てと云るの我と信ぜざるお因てあり 義お就てと云ると我と父
 へ往およりて爾曹まゝ我と見ささバ也 十 審判お就てと云るの斯世れ主
 審判と受さバあり 十一 我らほ爾曹お多く語る可も有ども今あんぢら曉み
 どと得ず 然と彼するのち眞理は靈に來らんとさ爾曹と導きて凡の眞理
 と知りむべし蓋を己お由て語お非ず其聞し所れ事と爾曹お言まゝ來ら
 んとそる事と爾曹お示さべけさバ也 十二 彼とが榮と顯さん蓋とが屬と受て
 爾曹お示せば也 十三 凡て父の有給ふもれの我屬あり是故お彼わが屬と受て
 爾曹お示すと曰り 十四 暫せば爾曹と見じ復考を多くして我と見るべし
 是とを父へ往あり 十五 是お於て弟子の中おて或人おがひお曰けるの暫せ

を爾曹と見じ復考を多くして我と見るべしと言ふのは是を父へ往あ
 りと我儕お言いと何れ事や 十六 彼等まゝ曰けるの此志をらくと言ふの何
 の事や其言る所と我儕知す 十七 イエス彼等が問んとそると知て曰ける
 の暫せば我と見じ復考を多くして我と見るべしと言ふは此事お因て爾曹たが
 ひお詰あふ平 十八 誠お實も我あんぢらお告ん爾曹の哭さ哀と世の喜ぶべ
 し爾曹愛るあらん然と其愛の變て喜ぶとあるべし 十九 婦子と産んとそる時
 の憂ふ其期いたるお因てあり然と己お生バ前の苦ととそる世に人れ生た
 る喜樂お因てあり 二十 此の如く爾曹も今憂ふ然と我また爾曹と見ん其時あ
 んぢられ心喜ぶべし其喜樂と奪ふ者あらし 二十一 其日あんぢら我お問とある
 無るべし誠お實に爾曹お告ん凡る我名お託て父お求る所れもれ父およと
 爾曹お授たまふべし 二十二 あんぢら今まで我名お託て求ぬるもとあし求よ然
 ぱ受ん而して爾曹は喜び滿べし 二十三 譬喩とめて此事と爾曹お語しが譬喩と
 用ずして爾曹お語り父お就て明あお示と時いたらん 二十四 其日あんぢら我名

お託て求ん我あんぢられ爲お父お求ふと曰三十七蓋父みつゝら爾曹と
 愛すきを也これ爾曹とを愛し且父より我來しよと信するお因三十八とを
 父より出て世に臨むる復世と離て父に往ん三十九弟子のきお曰けるの爾いま
 明のお言て譬諭といとぞ四十我儕いま爾の知る所なく且人れ爾お問の用
 るきよとと知あきお因て我儕神より爾に出來しよと信す四十一イエス彼
 等お答けるの今あんぢら信する乎四十二時まさお至ん今いたりぬ爾曹散て各
 人ろれ屬する所お往さ我一人れこさん然を我獨するお非ず父とを
 偕に在あり四十三とを此事と爾曹お語しに爾曹として我お在て平安と得させ
 んが爲なり爾曹世お在ての患難と受ん然を懼るゝ勿を我すてよ世お勝り
 ン四十四イエス此言と語畢て天と仰ぎ曰けるの父よ時いさりぬ爾れ子あ
 んぢれ榮と顯さんお爲お爾れ子の榮と顯し給へ四十五おを爾とれお賜し所れ
 者お我永生と予んぐとめ凡れ者と制る權威と我お賜たきバ也四十六永生
 との唯獨の眞神ある爾と共遺志とイエスキリストと志る是なり四十七我あん

ぢれ榮と世に顯し爾れ我に委し所の行の我おきと成り四十八父よ今我とあて
 爾と偕お榮と得させ給へ即ち創世より先お爾と偕に有し所の榮と得させ
 給へ四十九あんぢ世より選て我お賜し人々お我あんぢれ名と顯せり彼等の爾
 れ屬おして爾おきと己お我に賜ふ彼等また爾れ道を守きり五十彼等いま爾
 の我よ賜し者お皆爾より出と知五十一蓋とを爾が我お賜し言と彼等お予と
 きバなり彼等おれと受まお我爾より出し事と誠お知の何爾の我と遺志と
 みどと信じさり五十二我のきられ爲お祈る我祈るは世の爲お非ず爾れ我お賜
 志者の爲ある耳るを彼等の爾れ屬おきバ也五十三凡て我屬の爾の屬あんぢれ
 屬の我屬あり且とを彼等お由て榮と受五十四とを今より世お在す彼等の世お
 とり我の爾お就る聖父よ爾れ我に賜し者と爾れ名よ在しめ之と守て我儕
 れ如く彼等とも一よあし給へ五十五我のきらと偕に在し時りきらと爾れ名お
 在しめて之と守たり爾れ我お賜し者と我守りしが其中一人だお亡ぶる者
 あし唯沉淪れ子ほろびさり是聖書に應せん爲あり五十六我いま爾お就る我世

お在て此事を語るに我喜樂と彼等お充ちめん爲あり 十四 わを爾れ道と彼等お授たり世の彼等と惡む蓋とが世の屬お非ざる如く彼等も世れ屬お非ざるべ也 十五 且れ爾お彼等と世より取らまへと祈らず惟かきらと守て惡お陷らす勿きと祈る 十六 且世の屬お非ざる如く彼等も世れ屬お非ず 爾の眞理をもて彼等と潔め給へ爾れ言の眞理あり 十八 なんぢ我と世お遣しと如く我も彼等と世お遣せり 十九 我ををられ爲お自己と潔きを眞理お因て彼等れ聖らせん爲あり 二十 我と彼等の爲おれみ祈らず彼等の救お因て我と信する者れ爲お祈あり 三十一 此のみお一おならん爲あり父よ爾とを在われ亦るんぢお在かくの如く彼等も我儕ををりて一おあらん爲り何世として爾の我と遣しと事と信せしめん爲あり 三十二 爾れ我お賜し榮と我ををらお授たり此の我儕れ一あるが如く彼等も互に一おあらん爲なり 三十三 且世として爾れ我を遣し在るんぢ我おとる蓋彼等として一お全あらしめ且世として爾れ我を遣しあると又あるんぢ我と愛する如く彼等とも愛することと知しめんと也 三十四 父

よ爾れ我お賜し者の我とる所お我と偕お在て我榮するはち爾お我お賜し者と見んふと願うの世基と置ざりし先お爾わきと愛したきべ也 三十五 義き父よ世の爾と識す我の爾を識のをらも爾れ我と遣しと事と知り 三十六 我あるぢの名と彼等お示せり復みと示せん蓋あるんぢれ我と愛するの愛のをらお在まも我ををらに在ん爲なり

第十八章 イエス此事と云て後ろの弟子と偕お出てケテロンの河と渉るの處おある園の中お弟子と偕お入ぬ 一 イエスと賣るユダ此處と識りイエス屢々ろの弟子と偕お此お集りまきべ也 二 此時ユダ一隊の兵卒と下吏どもと祭司の長等およびパリサイの人よりうけ炬と挑灯と兵器と携て此よ來るをり 三 イエス事の己お及んとするを悉く知いで彼等お曰けるに誰と尋るの 四 彼等おまへけるにナザレのイエスありイエス彼等お曰けるに我の其ありイエスと賣しユダ彼等と偕お立り 五 イエス彼等お對て我ありと曰まへる時のをら退きて地お仆り 六 イエス復彼らお誰と尋る乎と問

さまひしるを彼等ナザレのイエス也と曰　イエス答けるの我すてお爾曹
 お我の其なりと曰り若と尋るるらば此輩と容て去しめよ　是イエス
 我お賜し者の中一人だお亡る者ありと云し言お應せん爲あり　時おシモ
 ンペテロ劍と佩りしが之と抜て祭司の長の僕と撃て其右の耳と削おと
 せり僕の名のマルコスと云　イエスペテロお曰けるの劍と鞘お鞘よ父の
 我お賜し杯と我飲ざらん乎　斯て隊の兵卒および其長とユダヤ人の下吏
 イエスと執へ繫て　先みとアンナスの所お曳往るを此歳は祭司は長
 カヤパは外鼻なるお因てあり　ユダヤ人お議て一人民は爲お死るの益を
 りと言し此カヤパありき　シモンペテロと外お一人は弟子イエスお從
 へり此一人は弟子の祭司は長は識とあるは者おてイエスと偕お祭司の長は
 庭お入　ペテロの門外に立り祭司は長は識とあるは弟子出て門と守る婢
 お告てペテロとともお入　是お於て門と守る婢ペテロに曰けるの爾も
 此人の弟子は一人あらず乎ペテロ然すと曰　僕等と下吏だち寒お因て炭

と焼ろれ處お立て暖まるペテロも彼等と偕お立て暖まり　祭司は長イエ
 スお其弟子と其教のものと問ぬ　イエス彼又答けるの我あらの世お語
 せり我つねおユダヤ人の平生おつまる所ある會堂および殿おて教誨とあ
 し隠お語せる事なし　何ぞ我お問る手とを如何のさりしる聽る者お問よ
 彼等とが言し所を知り　イエス如此いひしお旁お立る一人は下吏掌おて
 彼と打いひけるの爾祭司は長お答るお此の如の　イエス彼お答けるの若
 しが語しおと善らずを其善らざるを證せよ若し善く何ぞ我と打や　偕ア
 ンナスイエスと繫て祭司の長カヤパは所お遣を　シモンペテロ立て暖
 り居しが或人々いひけるの爾も彼は弟子は一人あらず乎ペテロ承すして
 然すと曰り　祭司は長は僕は中一人するのちペテロお耳と削をし者は
 親戚いひけるの我あんぢが彼と偕お園お在しと見しお非ずや　ペテロお
 と承いず頓て鶏あきぬ　人々イエスと曳てカヤパより公廳お往り時す
 でお平旦ありき彼等汚穢と受んみとと恐て公廳お入す蓋踰越は節筵と食

スホ曰けるハ爾何處ニ者テイエス答せざりき
 答ざるハ我あんぢと十字架ヲ釘ル權威アリ亦あんぢと釋ト權威アリ此事
 と知る乎 イエス答けるハ爾上より權威ト賜ラズバ我又對テ權威ある
 事ハ是故ニ我ト爾ヲ解シ者ト罪尤モ大アリ 此後ピラト彼ト釋さん
 と謀ル然モユダヤ人サケビ曰けるハ若キモ釋サセカイザルハ忠臣
 ラズ凡テ自己ト王トあす者ハカイザルハ叛ク者アリ
 イエスト曳出一鋪石ト云ル所へフルハ言ハテ譯バガバタト云とふるハ審
 判ノ座ニ自ら坐レリ 其日は踰越節ノ備日ハて時ハ約十二時ふるあり
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

エタといふ所ニ往リ此所ニ 彼を十字架ニ釘サリ別ニ二人ハ者ハれト
 借メ十字架ニ釘ラる一人ハ右一人ハ左イエス中ニ居リ
 十字架ハ何ケ此ニユダヤ人ハ王あるナザレハイエスありト書たり 許多ハ
 ユダヤ人此罪標ト讀リ蓋イエスト十字架ニ釘シ所ハ京城ニ近キ也
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

あんぢれ子あり 三六 また弟子お曰けるハ此あんぢれ母なり是時それ弟子の
 色と己の家お携往り 三七 斯てイエス諸れ事の己お覺るとあり聖書お應せん
 爲お我渴といへり 三八 此處お酢れ満たる器皿ありしハ兵卒ども海緘と醋
 お漬し牛膝草お束て其口お予ふ 三九 イエス醋と受し後いひけるハ事竟ぬ首
 と俯て靈と付せり〇 四〇 是日ハ節筵の備日あり此安息日ハ大なる安息日
 色を屍と十字架れ上置るとと欲ざるが故おエマヤハピラトお對の色ら
 け腰と折て其屍と取除ふとと求へり 四一 是お於て兵卒等イエスと偕お十字
 架又釘ら色し者れ一人ハ腰と先おとり次お亦一人ハ腰と折 後おイエス
 お來しよ己お死たると見て其腰と折ざりき 四二 一人ハ兵卒戈おて其骨と刺
 け色ば直お血と水と流出さり 四三 之と見し者證と立それ證ハ眞あり彼また
 自ら言とよろけ眞あるとある爾曹として信せしめんが爲あり 四四 又れ事成
 り録して其骨れ一とと擡ざるべしと有お應せん爲あり 四五 また他れ書お彼
 等ハ刺し者と彼等觀べしと云り〇 四六 是後アリマタヤハヨセフと云る者お

て前おエマヤ人ハ懼て隠おイエスハ弟子とある者イエスハ屍と取んとて
 ピラトお求ピラト之と許しよお因ささりて其屍と取り 四七 また襲お夜間イ
 エス又就しニコデモといふ人没樂と蘆薈と和およる百斤バわり携來る 四八
 彼等イエスハ屍を取てエマヤ人ハ葬れ例に循ひ之と布と香よて裹り 四九 さて
 十字架お釘し其近傍お園あり園れ中お未だ人ハ葬りし事あき新き墓あり 五〇
 是日ハエマヤ人ハ節筵れ備日あり又墓近ありけきを其處おイエスを置り
第二十章 一週れ首れ日ハ朝いまだ味うちおマクマラハマリア墓お來て石
 の墓より取去ありしと見 遂おシモンペテロまよイエスハ愛せし所れ弟
 子お趨往て曰けるハ墓より主と取し者あり我儕何處お置しや其處と知す
 三 ペテロと彼一人ハ弟子いで墓又往 四 二人どもお趨る他の弟子ペテロ
 より疾趨て先お墓お至ぬ 五 俯て屍と裹し布と置るを見さ色ども入す 六
 モンペテロ彼お後て來り墓おいり裹し布と置ると見たり 七 是お於て先お墓お
 手巾ハ屍と裹し布と同お置ず離て別れ處お疊て置り 八 是お於て先お墓お

來ける他れ弟子も入こをて見て信せり 録してイエスれ死より甦るべき
 事あると彼等いまだ知ざる也 斯て弟子己の宿を歸せり マリアの墓
 の外お立て哭けり墓おむるひ俯て 二人れ天使あるを衣と著イエスれ屍
 と置たりし所れ首乃方お一人足れ方お一人坐し居と見たり 天使の色お
 曰ける婦よ何ぞ哭くや彼あたへける我主と取り者あり何處お置し
 と知ざをを也 如此いひて反顧イエスの立しと見る然どもイエスある
 る人あらんと意ひ彼お曰ける君よ爾もし彼と轉移しとあらば何處お置
 しの我お告よ我をと取べし イエス彼おマリアよといふ婦のへりきて
 彼おラポニと曰り之と譯を夫子あり イエス彼お曰ける我お捫みと勿
 れ我いまだ吾父お升ざをを也とが兄弟お往ていへ我の吾父するはち爾曹
 が父とが神するはち爾曹が神お升ると マグダラれマリア主と見しこと
 と主れ如此れをを言給へるといふ事と弟子等お往て告○ 此日は暮時

するのち一週は首れ日弟子等ユダヤ人と懼るゝお因て集る所れ門と閉
 れきしがイエス來て其中お立ををらお曰ける爾曹安のを 如此いひし
 後るれ手と脅と彼等お見す弟子たち主と見て喜べり イエスまた彼等お
 曰ける爾曹安のを父の我と遣しと如く我も爾曹と遣さん 如此いひし
 れち氣と嘘と彼等お曰ける聖靈と受よ あんちら誰の罪と釋すとも其
 罪ゆるされ誰れ罪と定るとも其罪さだめらるべし イエス來しとき十二
 れ弟子一人あるデドモと稱るトマス彼等と偕お在ざりき 是故お他れ
 弟子の色お曰ける我儕主と見たりトマス彼等お曰ける我もし其手お
 釘れ迹と見と指と釘の迹お探とが手と其脅お探お非ずを信せじ 八日
 と越し後また弟子たち室れ内と在けるがトマスも彼等と偕お在り門と閉
 たるおイエス來て其中お立て曰ける爾曹安のを 遂おトマスお曰ける
 の爾れ指と此と伸て我手と見あんちれ手と伸て我脅おさせ信せざる勿を
 信せよ トマス答て彼お曰ける我主よ我神よ イエス彼お曰ける爾

とをよ見しよ因て信す見ずして信ずる者の福あり 此書お録さるる外
 は許多れ奇跡よイエス弟子の前て行り 此書と録せるの爾曹としてイ
 エスだ神の子キリストある事と信せしめ之と信じ其名お因て生命と得さ
 せんが爲るり

【第廿一章】 此後イエス復テペリアの湖おて弟子等よ己と現せり其現せる
 んと左の如し シモンペテロとデドモと云るトマス及ガリラヤのカナ
 ナタナエルとセベダイの子等また他の二人の弟子ともお在 シモンペ
 テロ彼等お曰けるの我漁お往ん彼等いひけるの我儕も借お往ん彼等いで
 舟お登しが此夜の何の所獲も無りき 巳お夜も明たるよイエス岸お立り然
 と弟子等ろのイエスある事と知す イエス彼等お曰けるの小子どもよ食
 物あるや彼等またへけるの無 イエス彼等お曰けるの網と舟は右に撒
 所獲あらん遂お網どうつ魚おほきに因て曳舉るよと能はず 是お於てイ
 エスれ愛せし所れ彼弟子ペテロお曰けるの是主ありシモンペテロ主あり

と聞て裸ありしが衣とつけ帯して湖お投入ぬ 他れ弟子等の小舟おて魚
 の入たる網と曳て至れり蓋岸と距よと遠ららず五十間許ありけを也
 岸お着しよ炭火と其上お載る魚およびパンあると見たり イエス彼等
 お曰けるの今獲し所の魚と少し携來を シモンペテロ舟おゆき網と岸お
 曳來しよ其網の中お大ある魚百五十三尾いりさり如此おほりけを網
 の裂ざりき イエス彼等お曰けるの來て食せよ弟子たち敢て彼お爾の誰
 あると問るよとせす此の主ありと知をあり イエス來てパンと取るを
 らお予ふ魚とも亦ろの如せり イエス死より甦りしのち己と弟子等お現
 せるよと是三次あり 借るを食して後イエスシモンペテロお曰けるの
 ヨナれ子シモンよ爾おきられ者お過て我と愛するや彼いひけるの主よ然
 わが爾と愛するよとの爾知しイエス彼お曰けるの我羔と牧 また二次
 られお曰けるのヨナの子シモンよ我と愛する手を曰けるの主よ然と
 爾と愛するよとの爾知しイエス彼お曰けるの我羊と牧 三次おれお曰け

るハエナの子シモンよ我と愛する手ペテロ三次見よと愛する手と言をし
 お因て愛ふ斯て答けるハ主あらざる所あり我あんちと愛するものとハ爾知
 リイエス彼に曰けるハ我羊と牧誠お實お爾お告ん爾いとけるさ時とぞ
 ろら帶し意お任せて遊行ぬ老てハ手と伸て人爾と束り意お欲ざる所お曳
 至らん如此いへるハ其如何ある死おて神と榮んといふ事と示しさる
 り此と言て後まゝ彼お曰けるハ我お從へペテロ反顧イエスれ愛せし弟
 子れ從へると見この弟子ハ食する時イエスれ懷お倚て主と賣す者ハ誰ぞ
 やと問し弟子あり三ペテロ之を見てイエスお曰けるハ主よ斯人いお
 イエス彼お曰けるハ我をし彼お存て我來ると待と欲ハ爾お何れ與あらん
 や爾ハ我お從へ三是お於て此言兄弟れ中お傳りて此弟子死ぞと言り然ぞ
 もイエスペテロお彼ハ死すと言しお非ず我もし彼お存へて我來ると待と
 欲ハ爾お何れ與あらん平と言しなり此等ハ事おついて證とあし且みそ
 と書し者之其弟子あり我儕それ證れ眞なる事を知りイエスの爲し事

ハ此等の外おあは許多あり若みきと一々まるしるハ其書みの世お職盡す
 ぶと能じと意ふ也アーメン



五十 十二 五廿 十三 五三 十四

十四

十四

三十四

三十四

三十三

三十三

五十 十二 五廿 十三 五三

シトキヤウキヨウチノツ

アメリヤカイ

チヂカカ

ス

ヤ

アムリカノ

ペテヤアラビヤ

ア

五三

使徒行傳

第一節 テロピロよ我そで前書と作て凡ろイエスは始て行へるをみる教
 一 所と録し 其選る使徒等ハ聖靈に託て命せしれち擧らる一時又まで
 至る 夫イエスの苦難と受し後かほくの確據ある證と以て己は活る
 事と現し四十日間のをらみ見え神は國の事お就て語り 又と彼等と偕
 又集り居て命じけるハ爾曹エルサレムと離すして我お聞る所は父は約束
 し給ひし事と待べし 蓋ヨハネの水と以てバプテスマと施たをせも爾曹
 ハ久ららずして聖靈およりバプテスマと受べけをバ也 集る者るを
 お問けるを主よ爾いま國とイスラエル又還さんと爲る 彼等又曰けるハ
 父の其權おて定たまへる時また期ハ爾曹お知べき所お非ず 然ども聖靈
 はんちらお臨み因て後爾曹能力と受エルサレムユダヤ全國サマリアおよび
 地の極おまで我が證人と爲べし 此事と言畢し乃ち彼等の見が問お擧らる
 雲みせと接て見ざらしめたり 十 イエスの昇れる時ををら天と仰ご視た

リ志お白衣を着る二人の人ありて旁お立 曰けるハガリラヤ人よ何故
 お天と仰て立るや爾曹と離て天お擧らせし此イエスは爾曹お彼の天お昇
 ると見たる其如く亦きたらん 〇 其時ををら橄欖と名る山よりエルサレ
 ムお歸る此山とエルサレムお近く約ろ安息日お行うる程あり 己お入て
 樓お登り此お留る者ハペテロヤコブヨハネアンデレヒリポトマスハ
 ルトロマイマタイアルバイの子ヤコブセロテと云るシモンヤコブの兄弟
 あるユダあり 凡この人々の婦等およびイエスは母マリア並イエスの
 兄弟と偕お心を合せて恒お祈禱と務たせ 〇 當時ペテロ弟子等(ろは集る
 る者たをよる百二十人あり)は中お立て曰けるは 人々兄弟よ聖靈ダビデ
 此口およりてイエスと捕る者と導けるユダお就て預じめ語たる此聖書ハ必
 す應すべし也 蓋のをも我儕と共お列りて此職と任たを也 斯人
 は不義の價もて地所と買まら倒お墮て眞中より裂を其腸おとく流
 出たり 此事エルサレムお住る凡れ人お知しを其地所と方言おてアケ

ルマヤと呼ぶべきと譯バ血の地所あり 詩に篇お録して彼れ家は墟くあるを
 其中お人々住居する勿を彼れ職の他人に得させよと云至 是故お主イエ
 スの我儕が中お往來し給さる間 即ちヨハチのバプテスマより始りて
 離て擧られ一日お至るまで常お我儕を借お在し者れ中一人おをらと共お
 其甦りし事の證人と爲べき也 是お於てバルサバと稱るヨセフ又の名とユ
 ストと云る者とマツテアとれ二人と擧て 斬いひけるの衆人れ心と識た
 まふ主よ願く奉事ふと使徒の職と得させん爲お此二人れうち孰と
 選たまひしお示し給へ 既おユダと此職と離て其往べた所又往たり 斯
 て圖と取しおマツテアお當けをバ彼十一人の使徒等と共お列をり
 第二節 ペンテコステれ日又至て弟子等みる心と合せて一處お在しお 俄
 お天より迅風れ如る響ありて彼等が坐する所れ室お充り 焰れ如もれ現
 を歧て彼等各人れ上お止る 是お於て彼等れとある聖靈お満さを其聖靈れ
 言しむるお隨ひて異なる諸國れ方言と言とせしめたり 時お敬虔あるユダ

ヤ人天下れ諸國より來てエルサレムお留る者ありき 此音おありしお
 因おほくれ人々集りけるが各人おれが方言と彼等れ語をると聞て躁おへ
 り 七 とも駭き異とつゝ互お曰けると視よ此語る者れ凡てガリラヤ人あらず
 手 如何して我儕かのく 生をし所れ方言と彼等より聞お 我儕のバル
 テア人メデア人エラム人およびメソポタミアユダヤカバドキアポントア
 シア フルギアバムフリアエジプト又クレチお近きリフエれ地おどお住
 る者まゝロマより來て居もの或のユダヤ人および其教お入し人 又クレ
 テアアラビヤ人あるお彼等お我儕れ方言ともて神の大ある用と語ると聞
 のど 皆おどろき訝て互お曰けるの此の何ある故や 或の嘲てて此人
 々の甘き葡萄酒は満さをたる者ありといふ人あり 是お於てマテロ十一
 人と借おさち聲と揚て彼等お對いひけるのユダヤ人および凡てエルサレ
 ムお住る者よ爾曹よく我言と聞て之と知 今の晝れ九時あるを爾曹れ逆
 料おとく此人々を酔る者お非ず 是を即ち預言者ヨエルお因て語る所

あり 神いひ給く未だ世お至て我々が靈とて凡れ人お注ん爾曹れ子女も預言とべし又あんぢらの幼者の異象とみ老者の夢と見べし 其とき我わが靈と我僕ある男女お注ん彼等も亦預言すべし 是を上ある天お奇跡と現し下るる地お休徴と示さん即ち血あり火あり烟あるべし 主れ大なる顯赫日の來ん前お日の晦く月の血に變ん 凡て主の名と呼願む者之救るべし 三 イスラエルれ人々よ此等れ言と聽るをナザレれイエスを爾曹れ知おどく神かきお託て爾曹れ中お行し妙ある能力と奇跡と休徴とを以て爾曹お證し給る所れ人あり 此人の即ち神乃定し旨と預め知さる所お應て解さる爾曹の無法れ手ともて之と捕へ十字架お釘て殺せり 神の其死れ苦と釋て之と甦らせ給へり彼の死お繋を在べき者あらざる也 蓋てヒテ彼お就て曰けるの我々が前お主れ常と在と見るの我右お在の我動さざる爲あり 是故お我心の樂み我舌の喜べり且お肉體の望も居んみは爾の我魂と陰府お還おるず又あんぢれ聖者と朽果しめざるが故あり

二八 爾すでお我お生命れ路と示す我を爾れ前お置て喜よ盈しめんと 人々兄弟よ我始祖ダビデお就て憚る所ある爾曹お語る是當然あり彼れ既お死て葬らる其墓の今日お至るまで我儕の中おあり 彼の預言者おして神みよお誓と立て其血統れ中より一人と舉て位お即しめんさ矢たまへるぞ知 預め此事と曉るが故おキリストの甦る事おつき語て彼の陰府お還おるを亦るれ肉體も朽果すと曰るあり 既お神のイエスを甦らせ給へり我儕の皆それ證人あり 是故お彼の既お神れ右お舉らる約束れ聖靈と父より受て今あんぢらが見とる聞とるれ者と注り 諸夫ダビデの天お昇しよとあし然るお彼みづのら言主とのお主お曰けるの我あんぢれ敵と爾れ足凳と爲まで我右お坐すべしと 然を凡てイスラエルれ全家よ爾曹が十字架お釘し此イエスと立て神みよと主とあしキリストとなし給しよとと確お知 彼等みよと聞て其心刺るるが如し是お於てペテロと他れ使徒等お問けるの人々兄弟よ我儕の何と爲べき乎 三六 ペテロ彼等お曰けるの

爾曹おれく悔改めて罪は赦と得んが爲おイエスキリストは名お託てハ
 アテスマと受よ然を爾曹を聖靈は賜と受べし 三九
 爾曹および爾
 曹れ子孫また凡れ遠人そなひち主さる我儕は神に召る人々お屬あり 四〇
 また多言とて證して勸けるの爾曹おれ邪ある世より救出さるよ 四一
 其時
 おれ言と聞納し者のハアテスマと受たり是日弟子お加さる者たほよる三
 千人 四二
 彼等の常使徒等れ教訓と受け交接とあしパンと擘みと祈禱と
 務む 四三
 是お於て敬畏人々れ心お生ず又使徒等お託て許多れ奇跡と休徵
 たみあさるさり 四四
 信者のみな一處お會て諸物と共おし 四五
 産業と其所有
 と鬻て各人れ用お從ひ之と分與へぬ 四六
 日々心と合せて服お在また家お於
 てパンとさき歡喜と誠心とて食と同一し 四七
 神と讚美をべては民お悦を
 るまをくゆる者を日々教會お加たまへり

第三節 第三時祈禱の時お當てペテロとヨハチ共お服お上しお 一人れ生
 來ある跛あり服おいる人お施濟と求ん爲お日ごと負きて服の美と名る門

お置る 三
 彼ペテロとヨハチの殿お入んとそるを見て施濟と求り 四
 ペテロヨ
 ハチと共お熟く之と視て曰けるの我儕と觀よ 五
 何を得ふと有んと意ひて
 彼等と見ゆめたり 六
 ペテロ曰けるの金銀の我おあり惟をを有もれと爾
 に予おナザレのイエスキリストは名おより起て行め 七
 遂に其右れ手と執
 み色と起けをを其足と蹠たごちお健勁ありて 八
 躍立の行ゆり踊あゆま
 神と讚美つと彼等と偕お服お入ぬ 九
 衆民の色は行と神と讚ると見て 十
 素
 ろれ殿は美門お坐し施濟と求りし者あると歸みれ人お所遇ふとと大お
 駭き奇めり 十一
 その跛者ペテロとヨハチおそがり居し間お民を駭みと甚
 くソロモンの廊と名る所お趨集をり 十二
 ペテロ之と見て民お答けるの
 スラエルは人々よ何故お此事を奇とするや我儕が自己の能と徳とて此
 人お行しよが如く何ぞ我儕お目と注るや 十三
 夫アブラハムイサクヤコブは
 神お先祖さちれ神の其僕イエス即ち爾曹お解しよ者ヒラトの釋をよとと
 擬する時よれ前も爾曹お拒し所は者と榮たまへり 十四
 爾曹の聖者義者と拒

人^{ひと}と殺^{ころ}しよ者^{もの}と己^{おのれ}お予^{あたへ}らまん事^{こと}と求^{もとめ}よの生命^{いのち}れ主^しと殺^{ころ}せり神^{かみ}の之^{これ}と死^しより甦^{よみがへ}らせ我^{われ}儕^らの其^{その}證^{あかし}人^{ひと}ある也^{なり} イエス^{イエス}れ名^なの其^{その}名^なと信^{しん}ずるお由^{よし}て爾^{なん}曹^{じやう}が見^みとふる識^しとふるれ此人^{このひと}と健^{つよく}勁^{けん}せり如此^{かく}イエス^{イエス}お由^{よし}る信^{しん}仰^{やう}の爾^{なん}曹^{じやう}すべてれ人^{ひと}れ前^{まへ}お於^おて此人^{このひと}と全く^{いっさい}愈^{いやし}さり 兄弟^{あな}よ我^{われ}の知^しるんぢらが行^{おこな}し事^{こと}の知^しざるお由^{よし}てあり爾^{なん}曹^{じやう}れ有^つ司^さ等^{たう}も亦^{また}然^{しか}り 然^{しか}ども神^{かみ}の凡^{すべて}れ預^{よげん}言^{げん}者^{しや}れ口^{くち}お託^{たく}てキリス^{キリス}トれ苦^{くるしみ}と受^うるよと預^{よげん}め示^あし其^{その}言^{こと}と如此^{かく}かるとせ給^{たま}へり 是^{このゆゑ}故^{ゆゑ}お爾^{なん}曹^{じやう}罪^{つみ}とくい心^{こゝろ}と改^{あらため}て其^{その}罪^{つみ}と抹^けるよと爲^なす蓋^{おほ}主^なれ前^{まへ}より安^{やす}舒^{しゆ}日^ひれ來^{きた}り 且^{かつ}わらるじめ擬^{なま}さまひしイエス^{イエス}キリス^{キリス}トと遣^{たくら}せんが爲^{ため}あり 神^{かみ}れ古^{いにしへ}より聖^{せい}預^{よげん}言^{げん}者^{しや}れ口^{くち}お託^{たく}て言^{こと}たまひし萬^{ばん}物^{ぶつ}れ復^{あたら}興^{たま}ん時^{とき}まで天^{てん}の必^{かなら}ず彼^{かれ}と受^うけおくべし 三^{さん} モーセ^{モーセ}我^{われ}儕^られ先^{せん}祖^ぞたちお告^{つげ}て曰^{いわ}けるの主^{しゆ}ある爾^{なん}曹^{じやう}れ神^{かみ}の爾^{なん}曹^{じやう}れ兄^{あな}弟^{だいに}れ中^{なか}より我^{われ}お似^にたる一人^{ひとり}れ預^{よげん}言^{げん}者^{しや}と起^{おこ}さん其^{その}爾^{なん}曹^{じやう}お告^{つげ}る凡^{すべて}の言^{こと}と聽^きべし 三^{さん} 凡^{すべて}て此^{この}預^{よげん}言^{げん}者^{しや}お聽^き從^{したが}ひざる者^{もの}の民^{たみ}れ中^{なか}より取^{とり}滅^めさる 又^{また}サムエル^{サムエル}より以^{もつ}來^{きた}るたりし所^{ところ}の預^{よげん}言^{げん}者^{しや}も皆^{みな}わらるじめ此^{この}日^ひと指^さて言^{こと}り 三^{さん}

夫^{これ}るんぢら預^{よげん}言^{げん}者^{しや}れ子^し孫^{そん}あり且^{かつ}神^{かみ}れ我^{われ}儕^らが先^{せん}祖^ぞたちよ立^たたまひし契^{けい}約^{やく}と承^{うけ}繼^{つぎ}もれあり即^{すなは}ちア^アラ^ラハムお告^{つげ}て地^ちれ諸^{しよ}族^{ぞく}の爾^{なん}曹^{じやう}お由^{よし}て福^{ふく}と獲^えんと曰^{いわ}たまへり 三^{さん} 神^{かみ}をでお其^{その}僕^{しもべ}イエス^{イエス}と立^たてんぢら各^{おの}人^{ひと}と其^{その}惡^{あく}より引^ひ反^{かへ}し福^{ふく}と獲^えせんが爲^{ため}よ先^{せん}るんぢらお彼^{かれ}と遣^{たくら}せり 四^よ 彼^{かれ}等^らの民^{たみ}と教^{おし}へ且^{かつ}イエス^{イエス}れ事^{こと}とひき死^しよを復^{たが}生^はの事^{こと}と宣^{のたま}るおより祭^{さい}司^し殿^{だん}司^しおよびサ^サド^ドカ^カイ^イれ人^{ひと}さち心^{こゝろ}を惱^{なご}し其^{その}民^{たみ}お語^{かた}をるとき突然^{とつぜん}きたりて 三^{さん} 親^{おや}手^てみよと執^とふ時^{とき}すでお暮^{くれ}けよバ明^あ日^{にち}まで獄^{ごく}よ囚^いちけり 然^{しか}ども其^{その}道^{みち}と聽^き者^{もの}の多^{おほ}きよと信^{しん}ず其^{その}數^{かず}れほよ五^ご千人^{にん}あり 五^ご 明日^{あした}有^あ司^したち長^{ちやう}老^{らう}者^{しや} 及^{および}祭^{さい}司^しれ長^{ちやう}ア^アン^ンナ^ナ並^{なら}カ^カヤ^ヤバ^バヨ^ヨハ^ハチ^チア^アレ^レキ^キサ^サン^ンデ^ドと祭^{さい}司^しれ長^{ちやう}れ凡^{すべて}れ族^{ぞく} エ^エル^ルサ^サレ^レム^ムお集^あり 七^{しち} 使^し徒^た等^らと其^{その}中^{なか}よ立^たせて問^とけるの爾^{なん}曹^{じやう}何^{なに}れ權^{けん}をた何^{なに}れ名^なお由^{よし}て之^{これ}と行^{おこな}ひしや 八^{はち} 其^{その}時^{とき}ペ^ペテ^テロ^ロ聖^{せい}靈^{れい}お滿^みさを彼^{かれ}等^らお曰^{いわ}けるの民^{たみ}れ有^あ司^しおよびイス^{いす}ラ^らエル^るれ長^{ちやう}老^{らう}よ 九^く 我^{われ}儕^らもし病^{やま}さる人^{ひと}お行^{おこな}ひし善^{よき}事^{こと}おゆき之^{これ}と如^{ごと}くして愈^{いや}しよと今日^{こんにち}訊^ききなバ 十^{じゆ} 爾^{なん}曹^{じやう}とイス^{いす}ラ^らエル^るれ民^{たみ}もとる知^し

べし其あんどらぶ十字架お釘しどもろ神は甦らせ給し所のナザレイエ
 スキリストは名よ由て此人健勁あることと得あんどらば前よ立たりと
 んを即ち爾曹工匠は棄し所は石屋は隅は首石とあせる者あり 此は別
 お救ある事あし蓋天下は人の中お我儕は依頼て救るべき他は名を賜さ
 ば也 彼等ペテロとヨハナは忌憚る所あきと見て其無學は小民あると識
 ば之と奇とさりと又ら比イエスと偕お在しと知 めの愈さをたる人の彼等
 借よ立ると見おより駭とべき言ありりき 斯て彼等よ命じて集議所と
 去しめ後お相議て曰けるの 此は二人お何と處べきや彼等が既に著き休
 徴と行へる事は凡てエルサレムお居者の明りよ知とふる也わら之と言滅
 んと能ず 然ども此事の猶ひろく民お傳らざる爲お彼等と恐喝し此後そ
 の若お就て人お語るふと勿しめん 遂お彼等と召て更おイエスは名お就
 て語るふと敢るふと爲あるを戒む ペテロヨハナ彼等お答て曰ける
 の神お聴よりも愈て爾曹お聴は神の前お在て義とらんる爾曹とづら之

を判よ 且ら見しどもろ聞し所のもの言ざるを得ざる也 人々それ
 所爲お因て神と榮さを彼等民と畏き此二人と罪するお由あく更お之と
 恐喝して釋せり 彼の奇ある跡お由て癒さをとる人の四十歳餘ありき
 ろの友おと聞て心を合せ神お對ひ聲と揚て曰けるの主よ爾の天と地と
 海と其中の萬物と造たまひし神あり あんぢ曾て其僕マビアの口お託て
 何故お異邦人の喧嘩もろくの民の徒事と謀る乎 地は王等お起て群伯
 と共お集り主および其キリストお逆ふと云り 爾を誠おへロデとポンテ
 ナピラト異邦人たよびイスラエルは民相共お此城お集り爾が膏と沃たる
 聖僕イエスお逆へり みを爾の手おんぢれ旨おて預じめ定め給ひし事と彼
 等の成るあり 主よ今ら恐喝と見たまへ願くは爾が手と伸て醫と
 施し爾は聖僕イエスの名お託て休徴と奇跡と行ひしめ爾乃僕等お臆す
 るふとあく爾は道と宣るふとと得させよ かをら祈禱と畢し時るは集を

るどふる震動をみ聖靈を満さきて臆する所なく神の道と宣○ 信者のみ
 心と一おし意と一おして誰一人も所有と己が物と云ことなく凡て
 之と共に有り 使徒だち大なる能ともて主イエスの甦りし事と證し彼等
 とみ大なる恩と蒙り 其中一人も窮乏者ありき蓋地所あるひの家
 と有る者の其と售て其售し所の價と擧來り 使徒等足下を置よと各
 々の用お從ひて分与しが故あり レビは族あてンプロも生じユセフと使
 徒等お呼きてバルナバと稱る之と譯ハ勸慰の子 みて人田疇ありけるが
 其と售てろの金と擧來り使徒等足下を置り

第五節 然るおアナニアといふ人ろは妻サツピラと同お産業と蓄り
 幾分と蓄し餘の幾分と擧來りて使徒等足下を置ぬ其妻も之と知り
 ペテロ曰けるハアナニアよ何故お爾れ心サタンを満され聖靈を對ひ偽て地
 所れ價れ幾分と蓄す事とせし乎 地所いまだ售ざる時は爾れ有るらずや
 己お售たりとも亦あんぢれ權を屬するあらずや何故お爾れ心おれ事と發念

しや爾人お對て偽るお非ず神お對て偽る也 アナニア此言とさく仆て
 氣絶之と聞者とる大に懼る 少者ども起て彼と歿み昇出して葬り 約
 ろ三時をあり過るれ妻いまだ此所遇を知らずして入來り ペテロ彼お曰け
 るハ爾曹これ價れ地所と售しや我お告よ答て曰けるハ然り其價あり
 テロ彼お曰けるハ爾曹心と合せて主れ靈を試るハ何ぞや視よ爾れ夫と葬
 りし者れ足門外お在まると爾とも昇出さん 婦直お其足下お仆て氣たも少
 者ども入來て其死ると見よと見よと昇出して其夫れ側お葬り 全會れ
 者どもをよと聞る者ども皆大に懼る 多れ休徴と奇ある跡ハ使徒等れ手お
 由て民れ間お行のをたり又のをら皆心と合せてソロモンの廊お在 餘れ
 者の敢て之お近づらざりき然れども民は彼等と尊み 男女とも信する者
 ますく 多く主お屬ぬ 斯て人々病る者と携て癒あいで寢床まも榻れ上
 お置り蓋ペテロれ來らん時れ影お蔭とる者あらんらと意ハあり
 と許多れ人々四方れ諸邑より病る者れよび惡鬼お難さをとる者と携てエ

ルカレム一七ふ來り悉く愈さるたり 然るに祭司は長たよび彼と同あむ者
 即ちサドカイ宗徒を起て大に憤り 使徒等と執て獄に置り 然ども主
 使使者一八夜獄に門を啓き彼等と携へ出して曰けるに 往て殿に立るは生命
 の言と悉く民に語を 二 の色ら之とさく味爽より殿に入て教ふ祭司は長
 よび同 人をも來て議員およびイスラエル一九に子孫は長老等と悉く召集て
 彼等と曳來せんが爲下吏と獄に遣せり 三 され人等きたりし獄の内
 彼等と見ず反て告いひけるに 獄の固どち守者も門の外に立ると我儕の
 見しを啓けを内一人とを見ざりき 祭司殿司および祭司は長とち此言
 と聞て此之如何か成行べきものと彼等お就て心惑へり 四 或人來り彼等お告
 けるに視よ爾曹が獄に置し者今殿に立て民と教ふ 五 是に於て殿司の下
 吏等と共に往るをらと曳來り然に強暴と爲ざりき蓋石おて民に擧
 げん事と懼しお故あり 六 既にお曳來りて彼等と議員の前にお立せ祭司の長
 にお問て曰けるに 我儕は名にお由て教る勿きと爾曹は嚴く禁せしお非

や然るに爾曹の其教とエルサレムに満せ又みれば人は血と我儕お負めんとそ
 二 元 ペテロと使徒たち答て曰けるに人お從ふより神お從ふは爲べき事
 三 我儕は先祖に神の爾曹が木お懸て殺しし所のイエスと懸らせ給へり
 神の之と君とし教主として其右に方お擧めよイスラエルお悔改と罪に
 赦を予んが爲あり 三 我儕は此事に證と爲者あり神おのきお從ふ者お賜ふ
 所の聖靈も亦證と 四 され人々を聞て甚しく怒と含と彼等と殺さん
 と謀る 五 パリサイ人おて衆民の中にお尊むるに教法師ガマリエルと云る
 者議員に中におち命じて使徒等と暫く外にお出さしめ 六 曰けるにイスラエ
 ルに人々よ爾曹の人の等おつきて爲んとする事と自ら慎むべし 七 爾
 ちテウマ起て自ら誇をり之にお從へる者おほよそ四百人ありしが彼に殺さ
 れ從ひし者の皆ちらさきて跡おささる 八 此人の後まに戶籍調査の時ガ
 リラヤレユマ起て民と誘ひ從ひしとく彼も亡び其お從ひし者も悉く散さる
 九 色を也 十 今に爾曹お語らん此人々と容て之にお係る勿き若るは謀とふ

ろ行ふとある人より出を必ず亡べしもし神より出を爾曹のせらと亡べ
 ると能ず恐く爾曹神に逆らふ者とあらん彼等みそを従ひ使徒等と召
 て鞭ちイエスれ名お由て語るものと爲るを命じて之と釋せり使徒
 等のイエスれ名れ爲お辱と受るお足者とせらし事と喜びて議員の前と
 去日々お殿および人れ家お於て教とあるしイエスキリストの福音と傳て
 止ざりき

當時弟子とちれ教おほく加りギリシヤ方言れユダヤ人の裝等の日
 じれ施濟お遺漏さきしと以てへブル方言れユダヤ人おむらひ怨言し事お
 りけきバ十二人れ者弟子等と召集て曰ける我儕神乃道と棄て飲食乃
 事お仕るの意お適す是故お兄弟よ爾曹れ中より聖靈と智慧れ滿る善
 證ある者七人と撰べし我儕それと立て此事と司らせん而して我儕の常
 お祈みと道と傳ることと務べし此言をべての人は心お合けきを信仰
 と聖靈れ滿たるステパノ及ピリポプロコロニカノルテモンバルメナ又ユ

ダヤ教お入アンテオケのニコラと撰びおれ人々を使徒等乃前お立しむ
 使徒とち祈て其上お手と按せり神れ道いよく傳播て弟子等の數エル
 サレムお甚ましく増り祭司も多く信仰の道お從へりステパノ恩と能力
 お滿て奇ある跡と大ある休徴と民の中お行へり時おりヘルテンと稱る
 會堂およびシレチ人アレキサンデリア人キリキヤ人アシア人れ諸會堂よ
 り人お起てステパノと言争ふ彼等ステパノれ智慧と之お由て言とある
 の靈お敵するものと能ず遂お人として誣告おめける我儕かき言と聞
 しおモ一と神と謗讒たりおをら民と長老學者たちの心と動させ突然
 きたりて彼と執へ集議所お曳來り妄の證人と立て曰せける此人の聖
 所と律法と謗讒ことと語て止す蓋を語て此ナザレのイエスの此所と毀
 ち且モ一と我儕お授し所れ例と易べしと曰ると我儕聞さきを也是よ
 於て集議所お坐せる者お目と注て彼と見しお其面天使れ面の如ありき
 さて祭司れ長いひける此事おくれ如ある乎ステパノ曰ける

衆兄弟および父等よ聽こせらば先祖アブラハム未だカランに住ざる前ソ
 ポタミヤ在しとき榮光の神あらとて 彼曰たまひけるハ爾の國と
 出あんぢの親族と離て我あんぢ示さん所れ地お至れ 斯てアブラハム
 カルダヤ人れ地と出てカランお住り其父れ死しれち神と彼と彼處より今
 むんぢらが住とふるれ此地お移し給へて 此地お於て足と踏立るをどれ
 地とも賜す且る色の未だ子あらざりし此地と産業として彼と其子孫お
 賜んと約束し給へり 神如此いひ給へり彼乃裔と他れ國お旅らん他れ國
 の人々みよと奴隸と爲て四百年間あやまん 神ま云ふをらと奴隸
 とする國民と我鞠べし厥後のをら其國と出れ處お於て我事んと
 と彼お割禮れ契約と予へ給へり斯てアブラハムイサリとらと第八日に割
 禮と之より行ふイサリヤコブと生ヤコブ十二れ始祖と生 始祖たちヨセフ
 と姪みよとエジプトお賣り然と神の彼と偕お在て 諸れ患難れ中より之
 と救出しエジプト王パロの前お於て恩寵と智慧と賜てエジプト及パロ

れ全家と宰らせ給ふ 茲おエジプトカナンれ遍れ地お饑饉と大ある難あ
 り我儕れ先祖たちも食物と獲みと得ざりき 然るおヤコブエジプトお
 穀物ある事と聞て先じをられ先祖たちと遣す 再び遣しし時ヨセフれ
 兄弟お識せ且ヨセフれ親族パロ又明あをりヨセフ人と遣して其父お
 よび凡れ家族七十五人よ召來しむ 是お於てヤコブエジプトお下をり彼
 も我儕れ先祖たちも死たる後 スケム又送きアブラハムが金をもてスケ
 ムれ父あるエンモルれ子孫より買おき墓お葬らせたり 神のアブラハ
 ムお示者給へる約束の期ちあづくお從ひて民蕃衍りてエジプトお多あを
 り ヨセフれ事と知ざる他れ王起るお至りて 彼あしき謀計とめて我儕
 れ親族と待ひ我儕れ先祖たちと困苦し其嬰孩の活殘ざるやう之と棄させ
 んとせり 其時モーセ生て甚美しく三ヶ月のあひざ父れ家お育らせ 棄
 らせし後パロれ女みよと拾あげ己れ子として育たり 三三 三三 三三
 人れ學術と教らせ言と行とお才能あり 四十歳お及て其兄弟なるイス

ラエルは子孫と顧るの心起まり 一人は寛抑らるる者を見て之と保護エ
 シプト人と撃て其仇と報たり モーセの我手ともて神は彼等と救んとし
 給ふ事と其兄弟憎みあらんと意一の彼等の悟さりき 次日かきら相闘ふ
 むと有けきバ之み現きて和げ曰ける人々よ爾曹兄弟ある何故相害ふ
 や 其友と害ふ者あると拒却て曰ける誰が爾と立て我儕は有司また刑
 官と爲しや さんち昨日エシプト人と殺し如また我ども殺さんと爲る
 モーセ此言ふより逃てミデアン地お旅人となり彼處お於て二人は子
 と生り 既お四十年と過し時シナイ山の野お於て主は使者棘中は火焰
 の間おてモーセお現る モーセ之と見て奇み諦視んとして近きるとき主
 の聲あり云く 我の爾は列祖の神とあるのちアブラハムは神イサクは神ヤコ
 ブは神ありモーセ畏怖さ敢て諦視ざりき 主また彼お曰給ひける爾は
 足の履と解なんぢが立る處の聖地あり 我すておエシプトお在るが民は
 苦難と見かつ其嘆息と聞ふきと救んが爲お降きり來き我るんちとエシプ

トへ遣さんと 夫のそらが拒て誰の爾と立て有司また刑官と爲し乎と云
 志此モーセと神の棘中お現きて使者は手お托て有司また救者として遣し
 給へり さんち人エシプトおよび紅海また四十年の間野お於て奇跡と休
 徴と行ひて彼等と導き出せり イスラエルは子孫お語て神の爾曹は兄弟
 中より我おとき一人の預言者と爾曹は爲お起し給ふ可と言し即
 ち此モーセあり 彼の野は會お在シナイ山にて己お語る所は天使また
 我儕は先祖等と偕お在て我儕は授んがため生る道と受し者あり 此人お
 我儕は先祖たちの順ふことと欲す反て之と卻け其心すておエシプトお返
 り アロン又曰ける我儕お先つべき神を我儕は爲お造き蓋おをらとエ
 シプト地より導き出し彼モーセと如何ありし知ざきバ也 厥時の
 きら體と造るは像お犠牲と獻げ己れ手は所作と喜べり 是お於て神は彼
 等と顧みずして其天は軍勢と祭るお任せ給へり即ち預言者の書よイスラエ
 ルの族よ爾曹の四十年おあひぶ野お於て犠牲と祭物と我お獻しや また

爾曹ハモロシト幕屋ハよビレバンといふ神ハ象を星するありち爾曹ガ拜
 する爲メ造れる所ト携へたり我あんぢらをバビロント外へ徒んど録
 さるる如シ我儕ハ先祖たち野ハて證ト幕屋ト有り此トモ一セハ語
 する者ハさハ對テ已ハ見シ所ノ式ニ遵ヒテ造キ命ゼシ如ク造キる者ハ
 至 我儕ハ先祖たち此幕屋ト承テヨシニアト偕メ異邦人ノ地ト攻取リ時
 ありト携入り此異邦人ノダビデト時まで我儕ハ先祖たち乃前より神ト
 逐驅ヒ給リ所ノ者あり 四六 ダビデト神ト前メ恩ト蒙テヤコブト神ト爲メ居所
 ト設んど欲タキト 四七 ソロモント神ト爲メ殿ト建タリ 然ルモ至上キ神ト手
 合テ造キる所ハ居メマハす蓋預言者ノ云ル如シ 四九 即チ主ハ給ク天ト我
 座位あり地ハ我足凳あり爾曹我ために如何なる屋ト建んど爲メ又及ガ息
 ム所ハ何處ある乎 我ガ手ハ此凡レ物ト造ラザリ一乎 強項ハあテ心
 ト耳ハ割禮ト受ズる者ヨ爾曹常メ聖靈ハ逆ヒ其先祖たちレ如ク爾曹ト行
 あり 五三 爾曹レ先祖等ハ孰レ預言者トハ窘迫ゾ一彼等ハ義者ト來ルムト

ト預メ語シ者ト殺シ爾曹ハ今ラレ義者ト解シ且ムレト殺ス者トナキリ 五三
 爾曹ハ天ノ使者ハ由テ律法ト受メ之ト守ズル也 〇 衆人ハ色ラレ言ト
 聞テ大ハ憤リ切齒シ何ラステパノハ向ヘリ 然ルメステパノハ聖靈ハ滿
 さ天ト仰テ神ノ榮光ト其右ハイエスレ立ると見て曰けるハ 視ヨ我天
 ひラけて神ト右ハ人レ子レ立ると見 是ハ於テ彼等大ハ呼リ耳ヲ掩ヒ心
 ト合せてステパノハ所ハ驛より 彼ト邑より逐出シ石トもて之トウ何證人
 等ハレ一其衣服トサウロト云ル少年レ足下ハ置リ 彼等ガ石ト以テス
 テパノト擲ル時を祈テ曰けるハ主イエスヨ我靈魂ト納タマヘ 主ハ腕
 大聲ハ呼イひけると主ヨ此罪ト彼等ハ負シむる勿レ此言トイハ畢テ寢
 メ就サウロ彼ノ殺されシト好トせリ

第八章 此日エルサレムハ在トふるレ教會ト大ハ窘迫ムト起リ使徒等ハ外
 ト皆メヤトサマリヤノ地ハ散サセたり 敬虔ある人々ステパノト葬リ之
 ガ爲メ大ある哭泣トあせリ 三 サウロハ教會ト殘害シテ此處彼處ト家ハ

里男女と曳出して之と獄に付せり 是に於て散されたる者ども徧く往て
 福音と宣傳たり 五 比リボのサマリアは邑に下てキリストは事と彼等お示
 多の人々を比リボが行へる奇ある跡と見聞して心を同うし謹て其語れる
 言と聴り 七 の汚たる鬼大に喊叫て其憑る所は多し人より出また癡癡お
 よび厥者れ人も多く愈さをたさば也 八 之に因て此邑に大なる喜ありき
 爰にモモンと云る素魔術と行ひサマリアは民を駭る者あり者あり 十 小より
 大に至るまで皆謹て彼を聴ふの人の神は大なる能ありと曰り 十二 彼等れ謹
 て之を聴るに久く其魔術を駭るさをさるが故あり 十三 然ども彼等神は國お
 よびイエスキリストは名おつきて福音と宣る比リボと信ぜしかを男女ども
 ハテスマと受 十三 シモンも亦信じてハテスマと受け常お比リボと偕お
 在て彼が行ふ所れ奇ある跡と休徴と見て駭けり 十四 エルサレムおとる使徒等
 サマリアに己お神の道と受とりと聞てペテロとヨハチと彼處に遣す 十五
 二人は者くだりて彼等が聖靈と受ん爲お祈をり 十六 蓋のをら唯主イエスに

名お入らばハテスマを受と耳おて未だ其一人おも聖靈下ざりしに因
 みて時二人は者手と彼等れ上お受けを彼等聖靈と受たり 十八 使徒とちれ
 手と接るに因て聖靈と予らばしと見てシモン金と携來り彼等に曰けるに
 我手と接とらば者も凡て聖靈と受ん爲お此權と我も予よ 二十 彼
 彼に曰けるに爾は金の爾と借お亡よ爾は神の賜と金おて得んと意り 二十一 爾
 の惡と悔改めて神お祈を爾は心は念或の赦せん 二十三 我爾が膽は苦おとり不
 義に繋に在と見をば也 二十四 シモン答て曰けるに爾曹の語をるとらも我
 お及ざるやう我爲主お祈を 二十五 のをら主は道と證し且みきと語し後エル
 サレムへ返往とさサマリア人は諸邑に福音と傳たり 二十六 主は使者比リボ
 お語て曰けるに起て南に方お向ひエルサレムよどが下る所は路お往
 ろは路の野あり 二十七 かを起て往りエテヲピア人をあひちエテヲピア人れ女
 王カンダケは大臣ある寺人おて凡て其女王は財寶と司る者禮拜は爲エル

サレムお來し、ろの返あるが車に中お坐し預言者イザヤの書と讀とをり
 靈ビリボお曰けるの往て此車お就、ビリボ趨よりて彼が預言者イザヤ
 の書と讀と聞ふをみ曰けるの爾ろは讀とみろは事と曉るや、彼いひける
 の若とをと啓く者あくを如何で曉るふこと得んや、遂お請てビリボと己と
 同お坐せしむ、其讀とりし聖書は文の左に如し彼の羊は屠場お牽るゝ如
 く牽を又羔の其毛と剪者に前よて聲と出さぬが如く其口と開す、るを卑
 賤お居しとを義、判と奪をより誰の能うは世に狀と述得んや、蓋ををれ生
 命地より滅をふをバ也、寺人ビリボお對いひけるの請とをみ示せ預言者
 の誰と指て之と語しや自己と指しり他人と指しり、ビリボ口とひらき此
 録さをたる所お基きてイエスの福音と彼お宣傳ふ、斯て二人は者路をゆ
 き水ある所に至けをバ、寺人いひけるの水を見よ我ハアテスマを受んとす
 何の觀る有や、ビリボ曰けるの爾も、至心ともて信せば可らん彼またへ
 て曰けるの我イエスキリストの神は子ありと信す、遂お命とて車と止し

めビリボと寺人の二人水お下りビリボハアテスマと彼お施せ、るをら
 水より上をるとき主の靈ビリボと引去る寺人また彼と見ことと得ざりき
 寺人喜びて其路と往り、偕ア、ド、おてビリボお遇る者あり彼すべては
 邑郷と經て福音と宣傳へカイザリヤお至をり
 第九節 サウロの猶も兇言と殺氣と吐て主の弟子等とせめ祭司は長お往てニ
 ママスコレ諸會堂お寄る書と求む彼の此道お從へる者と見バ男女おあゝ
 いらす捕て之とエルサレムお曳んと意り、彼ゆきてママスコお近けると
 き忽ち天より光ありて彼と環照せり、うを地お作る其時サウロサウロ何
 ゆる我と窘迫やといふ聲と聞り、サウロ曰けるの主よ爾の誰予主いひ給
 けるの我あるんぢが窘迫とみろはイエスあり爾前ある權と賦の難し、るを
 戦き駭きて曰けるの主よ我お何と行しめんと爲給ふや主のをみ曰けるの
 起て邑よ入さらを爾行へき事と示さるべし、彼と偕に往る人々言ふふと能
 ざして立止り其聲と聞ども誰とも見ざりき、サウロ地より起て眼と啓た

るお何も見ざりけを伴へる人等ろの手と援てアマスコお入ぬられ三日の間をえず又飲食とも爲ざりき斯てアマスコおアナニアと云る一人の弟子あり主幻のおどく彼お日給ひけるのアナニアよ答けるの主を此お在 主いひ給ひけるの起て直と云る街お往ニダは家お至てタルソの人サウロといふ者と尋よ彼の所て居且アナニアといふ人きたりて見ると得させんがめ手と其上に接しと幻お見たを也 アナニア答けるの主よ我みれ人おひきて多れ人の語れると聞しお彼がエルサレムおて爾れ聖徒と苦しむと如何をり予乎 且みれ處おても彼の凡て爾れ名と顧者を捕んとて祭司比長より受たる權威と有り 主いひ給ひけるの往よ彼の異邦人れよび王とイスラエルれ子孫れ前お我名と擔しめん爲お我選し器あり 彼の我名れ爲お如何をかりの苦難と受るお我をを彼お示さん 是お於てアナニア往て其家より手と彼れ上お接て曰けるの兄弟サウロよ爾れ来る路よて現をし所れ主イエス爾お再び見ふとと得るの聖靈お満

さるん爲お我を遣せり 忽ち彼の眼より鱗れ如もの脱て再び見ふとと爾れ起てハナテスマと受 彼ぞでお食して強健たり斯てサウロの數日は間アマスコおある弟子等と交り 直お會堂お於てイエスの事を宣て即ち此の神れ子ありと言 聞者とな駭異て曰けるの此人のエルサレムお於て此名と顧者と獲害し且こゝお來しも之と捕て祭司の長お曳んとするお非ずや 然れどもサウロの益々堅固して此イエスのキリストありと證とあしアマスコおとる所のニダヤ人を辯折たり 既お多れ日と歴て後ニダヤ人サウロと殺さんと謀しむるは計謀けひおサウロお知る彼等の夜も晝も邑れ門と守て之と殺さんとせしむ 夜弟子たち籠とめてサウロと石抛より鐘下せり サウロのエルサレムお至て弟子たちお列らんと爲たり しお皆の色が弟子たるふとと信ぜずして之と懼る ハルナハ彼と援て使徒たちれ所お至り其途中おて主を見しふと又主れ彼れ語り給ひしこと及アマスコお在て憚らずイエスれ名お由て語しふとと告ぐり 彼エ

其僕二人と恆つね己おのれ又また事ことる信心しんしん比よ深こほき兵卒へいそうと召よば此事このことと詳こましく告つげてままッパへ遣つかはす○彼等かれらゆきて次日つぎのひすは邑まちお近ちかける時ときペテロ祈禱いのりのため屋上やねお升のぼり時ときの約やくろ十二時じふにじありし甚いたく餓うて食たせん欲たまむ人の食物しょくじと具もる間まお彼氣きと喪しへる心地こころして天あまひらけ器物ぶつの降くだると見る大おほいなる布ぬい比よ如ごとく四角しやうかくと築たて地ちお縫ぬ下くだされたり 其中そのうちお凡またて地ちの四足よつあし比よ獸けもの昆蟲こんちゆうおよび空そらの鳥とりあり
 ありの聲こゑありて彼かれに曰いわけるハテロよ起たて之これと殺ころし食たせよ 彼かれは答こたへるハ主まよ可よらじ我われいまだ穢けがれる物ものと潔きよめらざる物ものと食たせしことおみ
 ふたよび有ありて彼かれお曰いわけるハ神かみ比よ潔きよめらざる物ものと爾なん潔きよめらざる物ものと爲なるを 此これ比よ如何いかある意いをあらんと疑うひ在あり時ときコルチリヲより遣つかはさる人ひと等らを
 ヨモン比よ家いえを助たすて門かどの前まへお立たつ呼よびテテロと稱いふヨモンと此こゝに寓あるや否いなと問とふ 彼かれ猶なほる比よ異象いさう比よ事ことを思おもひりお驚おどろをいけるハ視みよ三人さんにん乃すなはち尋たづね起たて下くだり疑うてすして彼等かれらと借かひゆけ我われこを遣つかはしよ也

三
 ペテロ下くだりて其人そのひととちお曰いわけるハ我われハ爾曹なんそうが尋たづねる所ところ比よ者ものあり爾曹なんそう如何いかある故ゆゑありて來きるや 彼等かれらいひけるハ百夫ひやくふ比よ長ながめるコルチリヲと云いふ義ぎの神かみと敬うやむ凡みなれユダヤ人ゆだやにんの中うち又また尊たむる者ものおんちと其家そのいえお召よびて爾なんの言ことと聽きき聖使せいしお示しささたり 是こゝに於おてペテロ彼等かれらと召よび入いりて館かど志しめ次日つぎのひペテロ彼等かれらと借かひに出いだけるがヨツパ比よ兄弟あに弟だちも亦またおを伴ともへり 次日つぎのひお色いろら
 カイザリヤお入いるコルチリヲハ既すでに其親族そのおやぢおよび親おやき友等ともと召よび集あつて之これを待居まちたり 彼かれハ入いり來きる時ときコルチリヲ彼かれと迎むかへ其足下そのあしもとお伏ふして拜たたみ 彼かれハ之これを扶起たすけし曰いわけると起たてよ我われも人ひとあり 斯こゝに借かひ語かたつ内うちお入いりて多おほくの人ひと比よ集あつると見み 彼等かれらお曰いわけるハユダヤ人ゆだやにんの異邦人いほうにんと交まり又また近ちかく事こと比よ律りつお合あはざるハ爾曹なんそう比よ知しるもろ也なりと神かみハ何いかれ人ひととも穢けがれる者ものおるハ
 ハ潔きよめらざる者ものといふ勿なれど我われお示し給たまへり 是こゝに故ゆゑお我われ請こゝろらるるや直ただお猶なほ疑うて來きる我われおんちらお問とふと請こゝろ老ふるハ何いかの爲ためおる乎や コルチリヲ曰いわけるハ四日よっぴ前まへお我われ購かひ食たして此時刻このときお至いたり三時さんじおろ家いえお在ありて祈禱いのりとすし

お睡ける衣を着たる者も前にお立。曰けるのコレヲリ。又も爾は祈禱の聞
 色爾は施濟の神に前にお記置きたり。然る人トヨツパへ遣。ペテロと稱
 モンと召さる色の海邊ある皮工。モンの家にお寓きり。彼さよりて爾お語
 べしと。是故も我さよりちお人ト爾お遣せり。爾は來さるの善也。是ら神は爾
 お命に給へる一切の言と聽んとして。今神の前にお在あり。○ペテロ口と啓
 て曰けるの我まもとお神の偏らざる者おまて。何れ國民おても神を敬ひ
 義を行ふ者の其聖旨お適と云ふこと悟る。これ道の即ち神はイエスキリ
 スト。お由て平和と宣イスラエルは子孫お予たまひし所あり。此イエスの萬
 物の主たる也。夫ヨハナは宣し。ハプテスマは後ガリラヤより始り。ユダヤ
 中にお有し。事の爾曹お知とある。即ち此ナザレより出たるイエスを神より
 聖靈と才能と以て膏と洗ひを周遊して善事を行ひ。凡て悪魔お恐たる者ト
 愈せり。蓋神の色を借ありしお因。我儕の彼がユダヤ人。地およびエルサ
 レム。お於て行ひし凡の事と證する者なり。ユダヤ人の此人と木お懸て殺せ

り。神の第三日お之と甦らせ衆の民の顯さで。惟るの預め選さまへる
 證人。そあち彼が甦り。後みをも同お飲食せし。我儕おれを顯し給へり。
 かの彼と其生者と死者に審判人お神より定らるし。事と我儕お證して民お
 宣よと命じさる。凡れ預言者も凡そ彼と信する者の其名お由て罪は赦と
 受べしと彼につきて證せり。ペテロこれ言と語る間。道と聽とあるは
 凡れ者お聖靈降せり。ペテロと借お來り。割禮ある信者等の聖靈は賜は異邦
 人おまで注げる事と駭さぬ。その異なる邦々の方言おて彼等が語るに
 神と讀ると聞たをバ也。此時ペテロ答けるの我儕は如く既お聖靈と受
 たる此人々お孰も水と禁じてハプテスマと受ざらむる者あらん乎。遂
 お主れ名お由てハプテスマと受べき事と彼等も命ず。是も於て彼等ペテロ
 お數日留らん。あんと請へり。

第十一 使徒等およびユダヤ中にお在とて。兄弟すてお異邦人も神は道
 と受たりと聞。ペテロエラ。レムよ上しとを割禮ある者をも彼と等ひ。

曰けるハ爾ハ割禮なき人ト家ヲ入テ彼等ト同ク食セリ。ペテロノ有シ
 始ヨリ次第ヲ語テ彼等ヲ顯シ曰けるハ我ヨツバノ邑ニ在テ所キるとき
 氣ト喪へる心地シテ天ヨリ四角ヲ繫タル大なる布ト如キ器ノ下ると見
 る其器トガ前に著リ。且目ヲ注テ熟々之ト視バ中ニ地ノ四足レもの
 と野獸昆蟲および空ニ鳥あり。且目ヲ注テ起テ之ト殺シ食すべ
 しと曰る聲ヲ聞リ。我ハひけるハ主ヨ可ラジ穢タル物ト潔カラざる物ハ
 未ダ我口ヲ入シことあり。聲また天ヨリ我ヲ答テ神ハ潔タル物ト爾潔
 ラずと爲るべきと曰。此ノ如キものと三次ハ各物ニたゞび天ヲ引上
 たり。其時當テカイザリヤヨリ我ヲ遣せる三人ノ者トガ居とみろレ
 家ニ前ニ立リ。また聲トキに疑ハズシテ彼等ト借テ往ベシと曰リ且
 六人ノ兄弟も我ト伴ヒ往テ其人ト家ヲ入メ。我ハ使僕ヲ呼ビ天ト使
 僕ト立トキと向テ人トヨツバヘ遣シペテロト稱シモント迎テ其人
 ンチ及び爾ノ家族ノ救ハるべき言ト告ント曰ると見たり。斯テ我ハ

リ始シとき聖靈ハじめ我僕ヲ降シ如ク彼等にも降レリ。其時トキ主ハ
 曰たまへるヨハナノ水ト以テバプタスマト施タキとも爾曹ノ聖靈ハ由テ
 バプタスマト受んとレ言ヲ憶起セリ。既ハ神ノ主イエスキリストト信
 ずる所ニ我僕ヲ賜シ如キ賜物ト彼等ヲ予トマヘ我ハ以テ神ハ逆
 すと得んや。彼等ハ此事ト聞テ答ふる所ニ惟神ト崇イヒけるハ實ハ然
 らん異邦人ト生ト得ん爲メ彼等も悔改ト予給へる事。○借ステバノ
 心就テ起シ苦難ヲ因テ散ラセたる人々族シテペニケクプロ及アンテオク
 至シガ惟ニシヤ人ハレト道ト語る。彼等の中ハクプロクレンテノ人々
 リテアンテオクハ來リ主イエスノ福音ヲ宣テキリシヤ人ハ語セリ。主
 ハ手ヲ置キ借メテ多クノ人信じて主ヲ歸セリ。彼等も就テ其聞エ
 ン。○在テ是レ教會ノ耳ヲ入シテ遂ニハルナハを遣シテアンテオク
 至シ。○彼等も至テ神ハ恩ト見て喜ビ彼等ハ心ト堅シ主ヲ屬ン
 ン。○蓋シテ善人ハ聖靈ト信仰ト満ル者ハ是レ於テ

多し人主お加りぬ。借ハルナハとサウロと尋んためおタルソお赴き。彼
 お遇て之とアンテオケお携來せり。斯て彼等一年は間ともお教會お集りて
 衆れ民と教ふ弟子とらけキリストアンと稱らせしハアンテオケより始せ
 り。一ハのふる敷入は預言者エルサレムよりアンテオケお來る。ろは中は
 一人アガホと名るも起て靈より示しけるは徧く世界お大ある。艦艦お
 ちんと其ふと果してクラウテアカイザルは時お起たり。是お於て弟子た
 ち各人より力量お從ひてユダヤお住る所は兄弟と濟ん爲お彼等お物を
 んことと定め。遂お斯事と行ふ即ちハルナハとサウロの手お托して之と
 長老お送り

第十三章 當時ヘロデ王教會中の數人と困苦さんとて彼等と執ふ。のり
 刃ともてヨハチの兄弟ヤコブと殺せ。此事はユダヤ人の意お適ると見
 て彼まおペテロとも執ふ此時の除酵節は日ありき。既お彼と執て獄
 にいを逾越節のち民は前お曳出さんと欲ひ十六人は兵卒お之と守し

めより。ペテロは如此獄に守らる。教會の之が爲も懇切神お祈る。ヘロデ
 彼と曳出さんとそる前夜ペテロは二は鍵お繋きて二人は兵卒の問お睡り
 守者の門は前お在て其獄と守れり。時お主の使者來りけきバ光獄の中
 お照輝るは使者ペテロは脇と拊て之と醒し速お起よと曰しお鍵るは手
 より脱より。使者のさお曰けるは爾帯と志め履と納よ。ペテロの如せり
 天使まお曰けるは爾は袍と身お纏て我お從へ。ペテロ出て之お從ひしが
 其使者は爲もどれ眞實あると知す異象あらんと意ふ。斯て第一第二の警
 固と過て城邑お入らる。鐵門お至しお其門お閉づら彼等は爲お啓く
 即ち出て一の衢と徑行とさ其使者忽ち彼より離たり。ペテロ悟て曰ける
 の我いま誠も知る主より使者と遣してヘロデは手および凡てユダヤ人の
 願望より我と拯出し給し事と。のを悟て後ヨハチ名とマコといふ人の母
 あるマリアは家お至しお多し人あらお集りて祈るたり。ペテロの門は戸
 と叩ける時ローマと名る下婢さよりて之と窺ひしが。ペテロは聲あると

知けをば喜ぶ堪ず門とも啓すして趨入ペテロの門に前あ立ふと告げ彼等ローマは日けるの爾狂り然をも女力言て我言の違ふと曰るを又いひけるの蓋テロと守る天に使者ありペテロを門と叩て止ざりしかば彼等門を啓さペテロと見て駭けりペテロ手と搖して彼等の聲を鎮しめ主れ己と獄より引出し給し事は状と告また此事とヤコブ及び兄弟たちも示せといひ遂に出て他の處へ往り天明及び一時ペテロの如何ありし乎と兵卒どもれ中ふて其騷擾容易あらざりきヘロデペテロと索をも見出さず遂に守卒と審問て彼等死罪と命す斯てヘロデのニマヤよりカイザリヤあ下て止せり○ヘロデツロとシドンに者あ對て甚しく怒と懷けをば彼等心と合せて其所あ來り内侍の臣ブラストあ親睦とあし之を託て平和と求む蓋ををちれ國の王に國あ頼て糧食と獲バありヘロデそれ定る日あ於て王服と著るに位あ坐し彼等あ對て語せり民聲と揚いひける此の神に聲あり人の聲あ非ずヘロデ榮と神あ歸せざるふより主

乃使者たちあ彼と擊一のを彼の處に爲あ噬きて氣絶也さて神に道の益々廣りナルナバ及びサウロの其職と成畢りてマコと名るヨハネと携ひてエルサレムより返せり

第十三章

アンテオケに教會あ數人の預言者と教師あり即ちナルナバ及びニケルと稱るシメタン又クレチのルキヲ及び分封の王ヘロデの乳兄弟マナエン及サウロありのをら主あ事て斷食あせるとき聖靈いひける我ためあナルナバとサウロと甄別ちて我のをらに命せし所の事と行なめよ是あ於て斷食し祈禱となし手を二人の上あ按て之と往しか如此くの二人の聖靈あ遣さきてセルキアあ下り彼處より舟出してクプロあ赴けり彼等サラミスあゆきニマヤ人れ諸會堂あわいて神の道と宣またまはて用ゐて其幫助となせり斯て彼等島れ中と經てパロスあ至しとき僞れ預言者ハリエスと名る卜筮とあそニマヤ人あ遇ふの人の國の方伯セルギヲパッロといふ智人と偕ああり時に方伯ナルナバとサウロと召て神

の道と聽んてとと求む。然るに彼れ下者エルマス(此名と譯を卜者二人の者)お敵ひ方伯として信すること勿しめんとせり。サウロ一名のパウロ聖靈は満さを目と注て彼と視。曰けるに、噫すべては詭譎と奸惡ふて盈るもの惡魔れ子すべての義みとれ敵よ爾主れ直る道と枉て止ざる乎。視よ主れ手いさ爾の上お在あんぢ警とあり暫く曰と見ざるべし。即ち彼れ目朦暗みて己と相せん者と求さまよへり。是は於て方伯の所爲と見て主れ致と駭き之と信ぜり。パウロ及ろの徒人バボスより舟出志てバムフリアレベルケ又至り此處ふてヨハ子の彼等お別てエルサレムお歸り。彼等の此より旅志てピシデアのアンテオケお至り安息日お會堂お入て坐しぬ。律法と預言者の書と讀畢りしれち會堂れ宰たち人と以て彼等お曰せける。人々兄弟よ若民に勸るものと有を言。パウロ起て手と搖し曰けるに、イスラエル人々たよび神と敬ふ者よ爾曹聽べ。此イスラエルの民の神と我儕れ先祖たちと選び其民れエフラトの地お旅とりし時こそと育の

何勤手と以て彼等と彼處より導き出し。約ろ四十年れあひだ野おて之と撫養ひ。又カナンの地れ七族れ民と滅。其地と彼等お嗣あり。後たまる四百五十年れあひだ即ち預言者サムエルれ時まで之お審士と與たまへり。厥後おをら玉と求げさへ四十年れ間へニヤミンの支派キスレ子サウロと賜ふ。後また彼を徒しダビデと立て彼等れ王とあし且みさる爲お證して曰たまひけるに、我エツサイれ子ダビデと云る我必お合ふ人と得たり。彼れ凡て我旨と行遂べし。神の其約束お從ひて斯人れ裔より救主イエスとイスラエルお興し給るの來る前おヨハ子先イスラエルの凡れ民お悔改れ。バプテスマと宣傳より。ヨハ子の職と行ひし時いひけるに、爾曹も足ざる者あり。我の其人お非ず我より後お來者あり我の其足れ履を解おふ者よ此救れ道と爾曹お還たまへり。夫エルサレムお住る者たよび其有司たちおキリストと知す彼と罪お定て安息日おと讀とみろの預言者の

言と成しめたり。そのつ殺すべき故と得ざるもヒラトお之と殺さんみと
 と求め己お彼お就て録さる凡れ言と成しめけをバ之と木より下
 て墓お置り。然ども神の之と死より甦らせ給り。多日は間をのガリラ
 ヤより己と偕おエルサレムお上し者お現をさり命ををれ爲よ證と民おす
 る者の其人々あり。我儕も嘉れ音と爾曹お何と神のイエスと甦らせて先
 祖等お立たまひし約束を其子孫たる我儕お成たまへり。即ち詩に第二篇
 お爾の我子あり我今日あんぢと生りと録さるる如し。また朽壞お歸
 せざる様お彼と死より甦らす事お就ての左に如く言り云とをマビデお
 約束せし所は願むべき恵と爾曹お予ふ可と。是故お又ほかじ爾の其
 聖者を朽果しめすと云り。夫マビデの神の旨に違ひ其世れ爲お勞苦しれ
 ち寢て先祖たちと偕お置を還お朽果より。然ども神は甦らせ給し者の朽
 果よりさ。然バ人々兄弟よ此人お由て罪れ赦れ爾曹お傳をると知。爾曹
 モしこの律法お依て義と爲るよと能ざる凡の罪も信する者の皆をよ

由て赦さる義とせらるる也。然バ爾曹慎よ恐くの預言者の言をたる
 事あんぢらお臨ん。曰く我忽者よ視て駭き且亡よ蓋とを爾曹れ日一の
 事を行とん人おと爾曹お告るとも爾曹信せざる可を也。○のをら會
 堂お出んとせしとき次の安息日お復るの事と宣よと請れたり。會すでお
 數て多れ。エマヤ人たよび其教お入し神と敬ふ人々パウロとバルナバ
 從へり。パウロとバルナバ彼等お語て恒お神は思お居ん事と勸む。次は安息
 日お至り邑れ人々神は道と聽んとて幾と皆集まをり。多れ多く集をると
 見てエマヤ人嫉妬と心お滿せて争辯の何断り。パウロが言とあると拒めり
 然ども爾曹の之と藥の何己の永生と受べき者お非ずと自ら定たれを
 我儕轉て異邦人に向ふべし。蓋主らく我儕お命を給へり曰く爾救とあり
 て地は極おまで及をん爲お我あんぢと立て異邦人は光とあせり。異邦人
 の之と喜びて主れ道と讚美すべて永生お定らまたる者の信せり。

是も於て主は道をおまねく此地にお廣りぬ。然るもユダヤ人神を敬ぶ貴婦等たよび邑は尊長たる人々は心と動させてパウロとバルサバと窘迫るは境より逐出せり。二人は彼等と對ひ足は塵と打拂ひてニコニコムに至る。斯て弟子等の大に喜樂と懐のり聖靈お盈さをたり。

第十四章 二人は者ニコニコムお於て共ユダヤ人教會堂お入て道を傳へユダヤ人およびギリヤ人とも多く信せしめたり。然るお信せざるユダヤ人異邦人と唆て其心お兄弟と憐しむ。彼等の久しく彼處お留り主お頼て憚らず道と傳ふ主また彼等の手お休徴と奇ある跡と行としめて其恩の道と證せり。邑は人々二お分を或のユダヤ人お與し或の使徒等も與せり。斯て異邦人ニコム人および其有司も共お擁上るをらと辱しめ石おて擧んとせ。二人はもの之と知てルカオニヤの邑あるルステラとペ及ろの四周は地お透れ。彼處お於て福音と傳ふ。○ルステラお一人は足弱もは坐しあるも彼の生來は跛者おて未だ歩行しことなし。此人パウロの語るを聽より

しがパウロ目と注て其愈さるべき信仰あると視。大聲お曰けるは爾は足もて正しく立よ。彼踊上りて行めり。人々パウロは爲し事と見て聲と揚ルカオニヤは方言おて曰けるは諸神人は形もありて我儕お臨をり。彼等ハテナバとセウ大と稱パウロの専ら説話こととする人あるを故おハテナと之と稱。時お其邑の前おある所はセウスの祭司讀と花箱と門お携來りて衆は人と共お犠牲と獻け彼等と祭んとせり。使徒ハテナパウロ之と聞て己が衣と裂としり出て大衆は中お入。喊叫いひけるは人々よ何故も此事と行や我儕も亦あるぢらと同情とも何所の人あり爾曹お福音と傳るは爾曹として此虛妄とそて天と地と海および其中は萬物と造り給へる活神お歸志めんを爲あり。往おし世おの神もべては異邦人お其己が道と行むことと容し給しるを。亦あるぢらと惠て天より雨と降せ豊穰ある時候をおたへ糧食と喜樂ともて爾曹は心と満しめ己みづのら證せざりし事あし。此言と以て苦辛して衆は人は己等お犠牲と獻んとすると止り。○時おニコム人等

アンテオグイコニオムより來りて多の人と咬め石とめてパウロと撃しめ
 既死たりと意ひ邑は外より曳出せり 弟子等るは周圍お立るとき彼がた
 て邑より次は日ルルナバと偕おテルへお往せ 斯てるは邑お福音と傳へ
 多乃人と弟子とあし又ルステライコニオムアンテオグお返り 弟子等の
 心と堅し其常お信仰お居んみと勤め又おほくは艱難と歴て我儕が神は
 國お至る可ふとを教ふ 斯て二人はもの教會ごとお長老とわらひ斷食と
 祈禱とあし前より信じてる所は主お之と託たり 爾をさら逼くヒシデアと
 經てパムフリアお至り 又ベルゲお道と傳てアツアラお下り 彼處よ
 て舟おてアンテオグお航る此の彼等さきに神は恩お託らる今とげし職と
 行とんとて出し所なせ 既お至りて教會れ人と集め己と助け神は行た
 まへる凡は事と異邦人はさめお信仰は門と開き給ひし事と告 斯て久く
 弟子等と偕お彼處お止せり

第十五章 ニダヤより下じ人を兄弟とちお放けるの若なんぢらも一せは例

お從ひて割禮と受すバ救るゝみと得じニ之お由てパウロとバルナバ大
 お彼等と争ひ且論ぜしを兄弟等みは事お就てパウロとバルナバ及るは中
 は數人とエルサレムお上せ使徒と長老等お遇しめん事と定む 是お於て
 彼等教會れ人々に送らる出はニケれよハサマリアと經て異邦人は神は歸
 せし事と具お述すべては兄弟と大お喜ばしめたり 彼等とエルサレムお至
 り教會と使徒れよび長老たちお接らる己と助けて神は行たまひし凡は事
 と告しよ 以テオオ宗の中ある信者數人たちて曰けるは彼等お必ず割禮
 と施し且命じてモーセは例と守まむべし 使徒等れよび長老たち此事と
 議ん爲お集れり 茲お多の論ありしがペテロ起て彼等お曰けるは人を兄
 弟よ久き先お神ささと爾曹れ中より選び福音は道と我口より異邦人お聞
 せ彼等として之と信せしめ給へことり爾曹れ知とある也 爾つ人の心と知
 たまふ神は我儕お聖靈と賜し如く彼等お賜て其證とあし又信仰をて
 其心と潔め我儕と彼等の間お分と爲ざりき 然るお今何故とれられ先祖

たちも我儕も負わたりざる概と弟子等れば頼み置て神と試むる乎。彼等の
 救るゝ如く我儕も主イエスキリストに恩み由て救るゝことと信する也。
 是も於て人々を黙してバルナバとパウロが神に己をもて異邦人の中
 行ひ給へる休徴と奇跡とを述べるを聞き、彼等が言畢りし後ヤコブ答て曰
 けるの人々兄弟よ我も聽し神初て異邦人と眷顧るに中より己が名を崇
 民と取給ひし事のレモン既も之と述、預言者の言も是と符り其書も此
 後わを反て己も傾圮するダビデの幕屋と復び起し其破壊は跡を復び造て
 之と建べし。是るは餘り民もよび凡て我名をもて稱らるゝ異邦人も主と
 尋させん爲あり此もべては事を行ふ神も是と言と録さきたるが如し。神
 の世の始より其もべては所作と知らまへり。是故も我も異邦人中
 より神を歸する者と擧るの宜からずと。然ども書と彼等も遺て偶像は汚
 きる物と姦淫と勦殺たる物と血と戒むべし。是の古より安息日と
 會堂もてモーセの書と讀が故も其と宣るもれ各邑もあきべ也。○ 是も

於て使徒もよび長老たち至會と偕も其中より人を選び之とパウロバルナ
 バと共もアシテオケも遣せん事と定るの選もする人の兄弟の中は尊者す
 めもちハルササと稱るゝシメオン及シラスなり。彼等も手も托て遣し書も云
 く使徒長老もよび兄弟もアシテオケスリヤキリヤもする異邦人の兄弟も
 安と問、我儕が命せざるも我儕の中よりい言ももて爾曹も擧し爾曹
 の心も亂たりと聞、之も由て我儕心も同じ人と選て我儕も愛するハルサ
 バパウロも偕も遣さんと定もれ二人も我儕の主イエスキリストに名の爲
 も其命も愛ざりし者あり。我儕もシラスも遣し彼等も口より此事
 を述もめんとせ、その聖靈も我儕も左に肝要あるものゝ外何とも爾曹
 も任せしと定り。即ち偶像も獻し物も血も勦殺たる物も姦淫と戒む
 べし若もさらは事と爾曹もつから慎まば善ぬがむくの爾曹健剛もあきべ
 ら遣さきてアシテオケも至り衆人と集て此書も付す。衆人も是と讀るは
 勸と受て喜べり。○ 是もシラスも亦預言者もあきべ多し言も以て兄弟も勸

彼等と堅せり 斯て二人の者暫く彼處お止り後兄弟たちお安然と祝さ
 き其己を遣まら者れ所お送きたり パウロとバルナバハアンテオクお止
 り其餘は多の人と共お教とあし主れ道と宣傳ふ 數日の後パウロハル
 ナバお白けるの我儕ささお主れ道と宣し所は諸邑お復ゆきて兄弟は光景
 と率とふべし 諸バルナバハハマコと名るコハチと伴とんと欲へり 然と
 もパウロハ我儕ハムンリアおて己より離を役事ため共お往ざりし此マ
 コと伴ふの宜らじと意志お因 遂は二人は中お激論おあり相別てハル
 ナバハマコと伴ひシテラスと選ひ兄弟より己と
 主れ思お托らきて出立 本マヤ及びキリキヤと經て諸教會と堅せり
第十六章 斯てパウロとバルナバ及ルステラお至きり此おテモテと云る弟子お
 り其母ハユダヤは婦おて信者あり其父ハギリシヤ人あり 彼ハルステラ
 ハヨシ共オハは兄弟より稱と得たり パウロ之を携て偕お往んことと欲は
 處おとるニシヤ人は爲お彼お割禮と行へり蓋人々皆の色ダ父のギリシヤ

入るると知をあり 斯て諸邑とすぎエルサレムおある使徒および長老等
 決定たる條規と守せんとして之と其人々お授く 之お由て諸教會は信仰堅あ
 り其數も日々お増ぬ 彼等フルキヤとガラテヤは地と過し時アリアお
 道と傳るものと聖靈お禁らる 遂おムシアお近きピテニアお往んとせしガイ
 ニスの靈も色と許さとりけをを 彼等ムシアと經てテロアスお下色り 斯
 てパウロ夜お於て一人のマケドニヤ人たちて己お請マケドニヤお涉て我
 儕を助よと曰と幻又見たり 彼お幻お之と見し後色をら誠お主れ我儕と
 名てマケドニヤ人お福音と宣しめんと我儕と召給ふものと推量て直おマ
 ケドニヤお往んとす 是お於てテロアスより航海と具直おはせてサモ
 トラクと至り其次日テアポリスに往 彼處よりヒリビお至るヒリビのマケ
 ドニヤは一の分の中ある名ある邑おして即ち植民地あり我儕數日おの邑
 お止せり 安息日お我儕邑といで河の濱なる常お祈禱とする處おゆき坐
 きて集れる婦女等お語しお 紫布と售ふテアテラは邑は商人おて神を敬ふ

一、^{十五} 夫ヤと名くる婦さうりたり主ろれ心と啓てパウロの語るると心と用
 一、^{十六} 夫と信する者さ我と爲バ我家に來り留まると強て我儕と入詰めたり
 一、^{十七} 夫ら所購所お往るときト筮ととる靈に憑さると一人は婦は奴隸と色らお
 一、^{十八} 遇の色ハ卜占お因て其主たちお多れ利と得させし者あり
 一、^{十九} 夫從ひて喊叫いひけるハ此人々ハ至高き神の僕おて救道と我儕お宣る者
 一、^{二十} あり夫ら婦おく爲ふと久ありけきをハウロ之と憂ハりてとて靈お曰け
 一、^{二十一} るハ我イエスキリストハ名よ由て爾お命す此婦より出よ靈立刻お出
 一、^{二十二} 是
 一、^{二十三} 夫於て其主ら利の望すて去ると見てパウロとシラスと教ハ市場
 一、^{二十四} 夫與て有司等お至きり 既ハ上官の所お與來りて曰けるハ此人々ハ
 一、^{二十五} 夫入おして我儕ハ邑と擾し 羅馬人たる我儕は受べらちず行ふ可らざる
 一、^{二十六} 所ハ習俗と傳る者あり 大勢れもれ齊く起て彼等とせめ上官ら衣をはぎ
 一、^{二十七} 命じて之と杖む 多く杖てれち獄お入ふれと固守をも獄吏お命す 獄

一、^{二十八} 吏おくは如き命と受じふより彼等と與ハ獄お入て桎とつけたり 斯て夜
 一、^{二十九} 半おろパウロとシラス所購とるま且神と讚美す囚者ら耳と傾けて之と聞
 一、^{三十} 夫ら女しが 俄お大ある地震ありて獄の基礎ふるひ動き門もとく直
 一、^{三十一} 夫啓け衆は囚者ハ械繫とけたり 獄吏目と醒し獄門は啓けると見て囚
 一、^{三十二} 者さてお逃しと意ハ力と抜て自殺せんまけきをハウロ大聲に呼り曰け
 一、^{三十三} るハ自ら戕ふ勿き我儕を此お在 此時の火と索と躍ハり戰慄てパウ
 一、^{三十四} ロとシラスは前ハ俯伏 彼等と外お携出して曰けるハ君よ我すくのさん
 一、^{三十五} 爲お何と爲べき乎 彼等いひけるハ主イエスキリストと信ぜよ然らハ爾
 一、^{三十六} 夫よハ爾の家族も救るべし 遂お彼および其家の凡は者ま主は道と語
 一、^{三十七} 夫り 夫は夜の即時の色三人と誘ハ其杖傷と濯て直ハ其家族と偕お皆ハ
 一、^{三十八} 夫テヌマと受 且るさちと己の家お引來り食物と其前に備みべての家族
 一、^{三十九} と偕お神と信じて喜べり 天明ハ至て上官さち下吏と遣し曰せけるハ其
 一、^{四十} 人々を釋べし 獄吏この言とパウロお告て曰けるハ上官おんちらと釋せ

と言遣せり然を今いで安然去パウロ彼等より曰ける我儕ローマ人
る罪を定ずして公然に我儕と杖ち且獄に入たり而して今ひろのお出さ
んと爲る宜ならず彼等とづら来て我儕と引出せし下東の言と上
官たち告げをば彼等よりローマ人あると聞て懼きて来て彼等より此より出
んみと求めつひお引出して又その邑と去んみと請たり二人は獄
と出アア家おいり兄弟等に遇みさお勸とあして出去ぬ
第十節 斯て彼等のアマヒボリス及アボロニヤと過てテサロニケに至る此
マダローマ人會堂ありパウロ常れ如く彼等の中おいり三回安息日ごと
聖書を本きて彼等と論じキリストの必ず苦難と受け死より甦るべき事
を説ま我あんぢら傳る所此イエス之即ちキリストある事と説明せ
り是を於て其中人々信じてパウロとシラスお従り又神と敬ふギリヤ
カ人の之は従るも多く貴女も少のらざりき然るおユダヤ人お色と如
と市井おなる匪類とあらひ群と成て邑と擾せパウロとシラスと執へ民

れ前お出さんどてヤソンの家お味しが彼等と見出さぐりけをヤソ
ン及び數人れ兄弟と邑宰れ前お曳来て大聲お曰けると天下と亂す斯者
も此おまで來色りヤソンの之と迎納たり此人々の皆イエスといふ他れ
玉ありと言てカイザルれ命お背く者あり大衆と邑れ宰等み色を聞て心
と傷しか上官のヤソン及るれ餘れ人々より保狀と取て之と釋せり兄
弟さち夜間お急ぎパウロとシラスとベレアは去しむ彼等おしるお至てユ
ダヤ人は會堂お往り此處れ人々のテサロニケは者よりの性情よき故
お好て道とさく此れ如みと果して有る無ると知んとて日々お聖書と究を
り是故お其中人おほく之と信す又ギリシヤの貴女たよび男子は信し
たる者も少のらざりきテサロニケはユダヤ人の神れ言れパウロお因て
ベレアお傳りしと知また彼處お至て人々を擾しめたり是をお於て兄弟
さち直おパウロと海お適しむ然るもシラスとテモテの尙みれ處お留りぬ
十五 パウロと伴ひし者お色を携てアテナイお至る其人々パウロよりシラス

とテモアと速お來しめよと命と受て出立り○パウロアテニスに在て
 彼等と待る時うは邑ふりて偶像お事ると見て甚く心と傷めたり是故
 お會堂お於てニテヤ人および神と敬ふ人々を論じ又日々市お於て其遇と
 あるの者と論ず時おエピコロアン及ストイシの理學者數人およと相語
 り或人いひけると此膠明者およと言んとする乎また或人いふ彼の異ある
 鬼神と傳る者れ如しと蓋パウロ彼等おイエス及び復生は事と宣うが故お
 り斯で彼と引つをアレヲ山お往て曰けるハ爾が語る所は此新しき教と
 我儕知せらるることと得るや爾は異聞と我儕の耳お入しが故お我儕
 の何事あると知んとすきバ也凡て此アテニス人および其地お留るる人
 の惟新しき事とわけ或ハ聽事よの之其日と送るりパウロアテニス山は中
 お並て白けるハテニス人ハ我おんぢらが毎事に鬼神と敬ふは甚しき
 と觀ては途と行とき爾曹が敬拜とてころは者お見しお識ざる神おと刻書
 じ一は祭壇と見出せり故お爾曹が識ずして敬ふ此者と我おんぢらお示さ

んるを宇宙と其中は萬物と造り給る神ハ是天地は主るをを手おて造る
 る殿お住たははすのの衆人お生命と氣息と萬物と手おまを物は老
 きまどるし人れ手おて事らるるもれお非ずまは一は血脈より出凡の
 民と悉く地は全面お住せ預じめ其時と住どるは界とと定め給へり此
 は入として神と求しめ彼等が或は揣摩する事あらん爲る然ども神ハ我
 儕各人お離るるもと遠らざる也るを我儕之彼お頼て生まも動まも存
 ことと得るり爾曹は詩人たちも我儕ハ其裔ありと云しが如し如此はを
 均の神は裔るる其神と金銀またハ石ある人れ工と巧を以て造る者
 均く愚ふ可也往者お蒙昧し時ハ神とを不問お爲給しが今ハ何處に
 入おも皆悔改むることと命と給ふなり蓋神すでお其立し所は人おより
 蓋とて世と鞠べき日と定め此事お就てハ彼と死より甦らせて其證と衆
 人お手たまへバ也るを死たる者ハ復生は言と聞て或人は戲笑ある
 入は我儕ふれ言と再び爾お聽んと曰是は於てパウロ彼等れ中より出去

る。然を教人彼を從て信ぜり其中のアンオ山は裁判人デオスレオ及
 マリスを名くる女まら其他は人も之を信む在き。此後パウロモ
 アテニスと離てコリントに至る。新近オラキヤより來る者
 ありて其所に至り彼等がイクラヤより來しのクラウゲヲニ
 マヤ人ありて其處を命せしむ因てあり。彼ら此業と同くする
 由て之を信む。正りて工と作ぬ其業之幕屋と製る者あり。斯
 てパウロの安息日ある會堂に於て論じニマヤ人とギリシヤ人
 と勸たり。マラスとテモテマヤ人より下たる時パウロニ
 マヤ人に向てイエスはキリストある事と隠法道と傳ふるも
 心を凝し居り。然るもニマヤ人の之を敵ひ且辯じし因
 パウロ衣と纏て彼等曰ける。爾曹は血の爾曹は首を掃すべし
 我の答ふる。今より異邦人の道ん。遂に此と離てユストと云る人
 は家ある彼の神と敬ぶ者もて其家の會堂は隣をり。會堂は
 宰クリスボ及それ家族みる主を信す又コリント人ありて道
 とき信じてハテラスを授し者も多りき。主或夜まぼる
 一パウロの語給ひける。懼る。勿き黙せしめて語べし。蓋
 此を爾と信あるをを爾と害せんとて賣る者も且其は邑に
 我をばくは民あり。是も於てパウロ一年と六ヶ月の間を
 たらに中居て神は道を教へたり。日ハカリ
 ヲアヤの代官たりし時ニマヤ人心と合せてパウロを攻るを
 せ裁判所を與來り。曰ける。此徒の律法を背て神を拜ると
 人勸る者あり。パウロ口と啓んとせし時ガリ
 ニマヤ人ありて若し不義奸惡は事あるを我が爾曹よ
 聽の理なり。然ども若し言語あるは名
 字および爾曹は律法に論あるを爾曹と
 づら之を理べし。我のする事は爾士
 するを欲す。斯て彼等と裁判所より逐
 出せり。是も於て凡はカリシ人會堂の
 幸ある。スステテと執へ裁判所は前
 みて杖打り。其の更此事と意とせざ
 りき。○パウロ此處あるは久し留り後
 兄弟も暇と告てアリ。メキ
 ア及アテラと信む舟ありてアリキ
 あり。彼等と信む在し。是も爾

す又コリント人ありて道とき信じてハテラスを授し者も多りき。主或
 夜まぼる一パウロの語給ひける。懼る。勿き黙せしめて語べし。蓋
 此を爾と信あるをを爾と害せんとて賣る者も且其は邑に我をばくは民
 あり。是も於てパウロ一年と六ヶ月の間をたらに中居て神は道を教へ
 たり。日ハカリヲアヤの代官たりし時ニマヤ人心と合せてパウロを攻
 るをせ裁判所を與來り。曰ける。此徒の律法を背て神を拜ると人勸る者
 あり。パウロ口と啓んとせし時ガリニマヤ人ありて若し不義奸惡は事
 あるを我が爾曹よ聽の理なり。然ども若し言語あるは名字および爾
 曹は律法に論あるを爾曹とづら之を理べし。我のする事は爾士する
 を欲す。斯て彼等と裁判所より逐出せり。是も於て凡はカリシ人會
 堂の幸ある。スステテと執へ裁判所は前みて杖打り。其の更此事と
 意とせざりき。○パウロ此處あるは久し留り後兄弟も暇と告てアリ
 メキア及アテラと信む舟ありてアリキあり。彼等と信む在し。是も
 爾

於此處論ぜり二年のあひだ如此ありしにパウロ人もモリヤ人も凡
 てアシアに住る者もしくまは道と聞ぬ神のパウロの手あふりて希
 有ふじざり事と行ひ給へり即ちパウロの身あ着たる汗布あるひの襪布
 と取て病者あ加げをば病のさき惡鬼は出たり茲あ諸所と遊行て呪を
 せるユダヤ人あり惡鬼あ懸きたる者あ向ひ試あ主イエスは名と呼て曰け
 るの我儕のパウロダ宣る所のイエスあ藉て爾あ出んふと警しむ如此
 あせる者のユダヤ人あるスケワと云る祭司は長は七人れ子あり惡鬼あ
 たへて曰けるの我イエスと知まのパウロと識り然を爾曹の誰子や惡鬼
 あ懸きたる人彼等れ上あ躍上り之あ勝て壓伏けをば彼等傷けられ裸あ
 て其家と逃去り此事エペソに住る凡れユダヤ人おりシヤ人は聞えじの
 心彼等あ懼と懷ぬ又主イエスは各崇らむたりまの信せし者のうち多
 來りて自ら言あらし其行あ事を訴へたりまの戮あ魔術と行へる多の者
 等も其書籍と集人々れ前あて焚り其價と計て銀五萬あることと知り主

け道廣まりて勝と得てこと此れ如し○此事は竟し後パウロのマケドニヤ
 及アカヤと過ユリアサレムあ往んと意と定め曰けるの我あしああ往て後あ
 むらずマケドニヤも見へり即ち己あ事る者れ中アモテとエネスとれ二人と
 マケドニヤあ遣し己の暫くアシアあ留りぬおは時るは道よゆて容易
 あらぬ騒擾あふれり蓋一人は銀工あり名とテメテリと云り色アル
 テシスの銀器と作り工人等あ利と得まめしむと僅少あらざりき
 工人あよび己の類は衆の者と集て曰けるの人をよ我儕は富るの此衆あ藉
 ること爾曹は知とふる也此の口手あて作る者の神あ非すと曰て衆
 の人と誘惑し第イエソ耳あらす幾とアシア中あ及せり是まの爾曹あ見
 とふる聞とふる也此の唯とせりは衆の輕めらるゝ危ある耳あらす
 及び天下舉て奉る所は大なる女神アルテミスは宮も我せらる其威光も亦
 減べし彼等あを聞て甚と怒さけび曰けるの夫あるあるエペソ人の
 アルテミスは是あ於て舉邑大あ擡をパウロの同行あるマケドニヤ人れ

ガイウスとアリスタルコと執へ彼等心と合せて戯園テアトルに擁入り三。バウロ四は人々の中に入んとせし。弟子たち之と許さざりき。まゝアシアの祭司五司とる者の中に彼と親き者等ありて人々を遣はし其自ら戯園に入らんとみとて求めたり。其時ある人の彼事といひ或人の此事と言さけべり蓋會衆六をだきて大半の何の爲に集るるつと知ざらば也。是に於てニクシア人アレキサンデル七も出んことと勸けをば或人群集の中より之を推出しぬアレキサンデル手と指し民に向て事實と告んとせし。彼等るにニクシア人たるを知が故に皆怒るじく聲を揚て大なる説八エペソ人のアルテミスよと二時ありは間さけびあり。書記官人々と撫て白けるにエペソ人々よ此エペソの天より落じ大なるアルテミスの殿九の事を知る者あらん乎。みは事の駭きと能くも爾曹靖息にして獲ふ事と作べららず。夫もは人々の殿は盜賊も非ず爾曹は女神の廟一〇と謂ふ者も非ず然るも爾曹こそを曳來せり。アレテリヲ及び借ある所は工人もし人と訴ふる事あらば聽一一ふ

れ日あり且方泊一二あき互ひ之を懇ふべし。もし他は事由ありて求る事あらば律法一三が合ふ會に於て定むべし。是を今日一四の騒擾一五が就ては訴らざるもいと恐る蓋人の會に於いて辭解一六べき言あけをば也。如此一七のたりに會一八と置せり。第三十節 騒擾の定。後バウロの弟子等とよび別と告マケドニア一九に往んとて出立ぬ。それ地と經たかくは言と以て人々を勸めギリヤ二〇に至り。此二一は三ヶ月留りて後スリヤ二二に航らんとせし時ニクシア人あきと書せんと謀けをバウケドニアと過て返んと意と定たり。彼と借二三あアシアまで至し者ハプロス二四に子ハレシヤレシヤバテル及テサロニケ人ハリスタルコとセクソンドアル二五のガロスとテモテ並アシアのテキコとトロピ二六モあり。此徒ハ先ち往てトロアス二七に於て我儕と俟り。除二八除二九後三〇は色三一ら三二ビ三三より舟出して第五日ハトロアス三四に至り彼等ハ遇て其處ハ七日留れり。一週ハ首三五ハ日三六をきらパンと驛三七ため集りしがバウロ次三八の日出立ん事と意三九ハ彼等ハ道四〇と

のたり講うとげて夜半お至きり。彼等が築くる樓あ多の燈あり。ニテコ
 と名を一人の少年窓お倚て坐し熟睡り居しがパウロは道と講るみと久
 のりけをば彼醒お因て三階より墮みせと扶起しよお既お死り。パウロ下
 て其上お伏みせと抱て曰ける。爾曹愛眺勿色此人の生命之中おあり。
 斯てパウロ復ればりパンと擗て食ひ久とく彼等と語り天明お及て出立り。
 人々ふは少年と携へ其活ると見て甚だ慰めり。備せ色ら舟おたり先ちて
 アソスお濟すの處おてパウロと登んこせり蓋るれ陸より往んと自ら如此
 の定しあて。彼アソスお於て我儕お遇けをば彼と登てミテレテお至り。
 彼處より舟出ちて次日キオスは對お至り又次日サモスお着トログリエウ
 お泊り次日ミントスお至きり。蓋パウロアソアお時と費さる爲お舟お
 てミントと過んと意と定しおゆを也。おく定し。彼なるべくい。ミテコ
 きたは日。ミレ。お在ことと得んと急たるお因。斯て彼はミントス
 より。ミレ。お使と遣して。教會は長老たちと召り。彼等が來し時。パウロ之

お曰ける。我アソアお來りし初の日より常お爾曹は中お在て行ひし事ハ
 爾曹の知とある也。即ち我をばては事お謙遜ま。涙と流し夫れ人ハ詭
 謀お山り艱難お遇て主お事へ。益ある事ハ殘そ所ある之と宣て或ハ人々
 け前或ハ家々お於て爾曹お教へ。神お對てハ悔改め主。ミレ。キ。ミレ。お
 對てハ信仰おべき事と。ニ。ヤ。人また。キ。レ。ヤ。人。よ。示。せ。り。今ハ我心切り
 て。ミ。レ。キ。レ。お往りし。おて。遇とある如何と知す。た。聖。靈。毎。日。お。我。お。示
 して。い。ふ。線。線。と。患。難。わ。を。と。俟。り。と。然。ど。も。我。ハ。心。を。往。り。と。主。ハ。エ
 ズ。より。受。し。職。を。あ。と。ち。神。ハ。思。の。福。音。と。證。を。る。事。と。送。ん。爲。お。我。生。命。と。も
 重。せ。ざる。也。今。お。き。知。あ。ん。ぢ。ら。の。中。と。遊。行。て。神。の。國。と。傳。へ。我。而。と。勸。後
 あ。ん。ぢ。ら。復。び。見。さ。る。べ。し。是。故。お。我。今。日。あ。ん。ぢ。ら。お。證。す。凡。レ。人。ハ。血。お。於
 て。我。の。潔。く。し。て。與。る。こ。と。あ。し。蓋。し。色。神。ハ。旨。と。殘。す。所。ある。悉。く。爾。曹。お。宣
 た。色。び。也。故。お。爾。曹。お。づ。の。ら。慎。を。且。あ。ん。ぢ。ら。の。聖。靈。お。立。ら。せ。て。監。督。と。あ
 せる。其。衆。群。と。慎。み。主。の。己。が。血。と。も。て。買。給。ひ。し。所。の。教會。と。牧。ふ。べ。し。蓋。し